

1 遺跡の位置と立地 (地区概観の第1・2図)

本遺跡は岩手県^{ヒエヌキ}稗貫郡石鳥谷町^{イシドリヤチヨウオオセガワ}大瀬川字大地渡^{オオチワタリ}に所在する。石鳥谷町の西北端である。遺跡周辺にはこの地域の地形上の特徴が、網羅されているとよい。即ち、西方には奥羽山脈の東縁部たる山地がそびえ、東根山(928m)・黒森山(647m)・水上山(561m)・円森山(606m)などが存在する。山地東縁外方には複合扇状地状に展開する段丘群が顕著に発達し、遺跡周辺においても高位の石鳥谷段丘から低位の花巻段丘までがそれぞれ見られる。遺跡は花巻段丘の南縁崖線近く^{ヒエヌキ}にのる。標高約148m。南方150mに葛丸川が東流する。段丘面上と河川低地との比高は約8mである。遺跡はほぼ平坦面にのるが、若干南と西方へ傾斜している。南方への傾斜の理由に既にのべたことにつきるが、西方への傾斜は、調査域西端部に存在した小谷乃至埋没谷(後述の如くに遺物包含層はここに形成されている)の存在による。遺跡の北方は標高を漸増するが、北方約200mで一段高くなる。これは最上位の石鳥谷段丘の段丘崖と思われる。なお中位の二枚橋段丘は、東方の小屋場・大瀬川小学校付近で模式的に観察できる。

周辺に実施した分布調査結果をも勘案すると、調査地(遺跡)の西方の隣接地においては遺物の密度は極めて低く、逆に東方では非常に高い。したがって本来の遺跡(それは後述のように集落、さらには母村的なそれ)は調査地の東方にのびるものと思われ、調査地(遺跡)はその西端部にあたるものであった可能性が強い。その西限は具体的には、埋没谷と思われる凹部に形成された所謂遺物包含層であったことになる。集落の南限は一応段丘崖線を以てしておく。北限は開田その他で地形の人工的改変が加えられており詳細不明である。開田後の水田の畦畔側壁に縄文土器破片が見られる部分もあるが、具体的には不明である。遺構配置が後述のように円形に近いという仮説が妥当であるならば、縄文中期の集落としてはそれほど北方にはのびないとも考えられる。東限も明確にはなしがたい。

II 周辺の歴史的環境

「石鳥谷町史」(註1)によると、調査地周辺に所在する遺跡(葛丸川流域)として次の9ヶ所があげられている。即ち①弥五郎屋敷(縄文後期)、②渡(同左)、③林(縄文中期、古代)、④大地渡(縄文中・晩期)、⑤田屋(縄文中期)、⑥館山(縄文中期・弥生)、⑦新山(縄文前期、古代)、⑧米斗利沢(古代・土師器)、⑨八日市(縄文前・晩期・古代)である。しかし調査中に併行実施した分布調査によると、上記以外にも各時代・各期の遺跡群が分布している。したがって今後も基礎的資料としての遺跡分布の把握が急務であるといえる。

既知の遺跡にあつては、まず^{たや}田屋遺跡(縄文時代中期末の住居跡と配石遺構)が著名である(註2)。本調査例の比較資料としても、遺跡立地の好例としても注目されるべきものであ

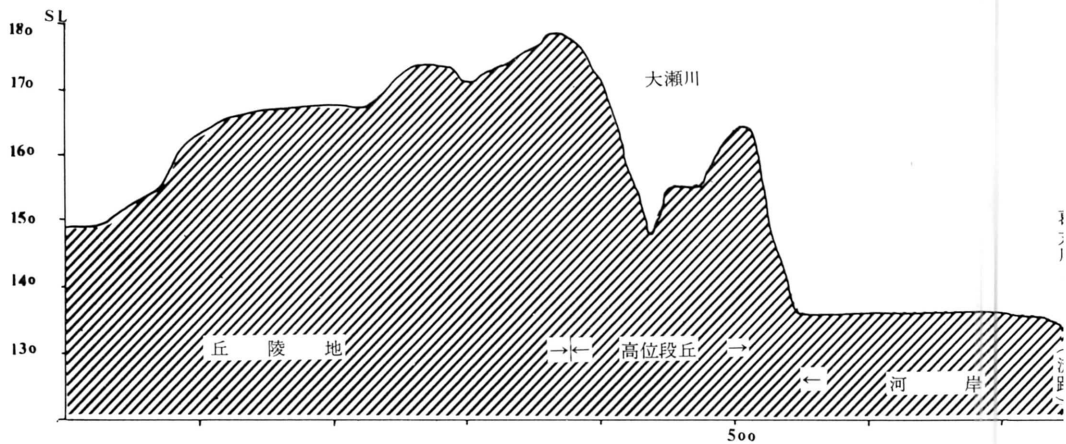
う。弥生時代については、南隣の「大瀬川」遺跡（上述の館山に一致か）において、所謂天王山式系統の土器（浮線波状文あるいは撚糸文もつ）や、所謂アメリカ式石鏃、さらには（若干疑問はあるが、該期にさかのぼりうる可能性無しとしない）堅穴住居跡様の遺構が検出されている。ここは石鳥谷段丘上にあたりかなりの高位置を占地しており、本県における弥生時代の生業論的検討その他のための好資料となしうであろう（註3）。

古墳時代・奈良時代・平安時代初期については現状では何らの資料も得られておらず未詳というほかはない。本調査の結果、平安時代もあまり時代の下らない段階において大瀬川周辺においても人間の営み（おそらくは、強い政治的背景のもとに）が行われていたことが判明したこと、また大瀬川遺跡のそれによって古代末期頃には鉄器製錬その他に関する人間の営みが行われていたことが判明した点などを出発点とし、今後の資料の蓄積に努めるべき段階であろう。他地域で顕著に見られた「遺跡立地の変遷」が本地域でも見られるか否かなどの興味ある課題が残されているのである。

中・近世に関しては多数の城館遺跡が存在し、該期における当地域の重要性を物語っている。各種の古文書類に散見する人物名・城館名との対比研究など、基礎的作業は山積している。しかし大瀬川館、北隣の紫波町柳田館などにおける調査によりその一部も徐々に明らかになりつつある。今後のさらなる進展をまつべきであろう。

なお交通上に占める西部山地（脊梁山脈）麓部の重要性は、単に中・近世に限定されるものではない。古代においてもそれが存在した可能性が大きい（註4）。したがって交通論的観点からの西部山地麓部の通史的再検討も果たされるべき課題であろう。

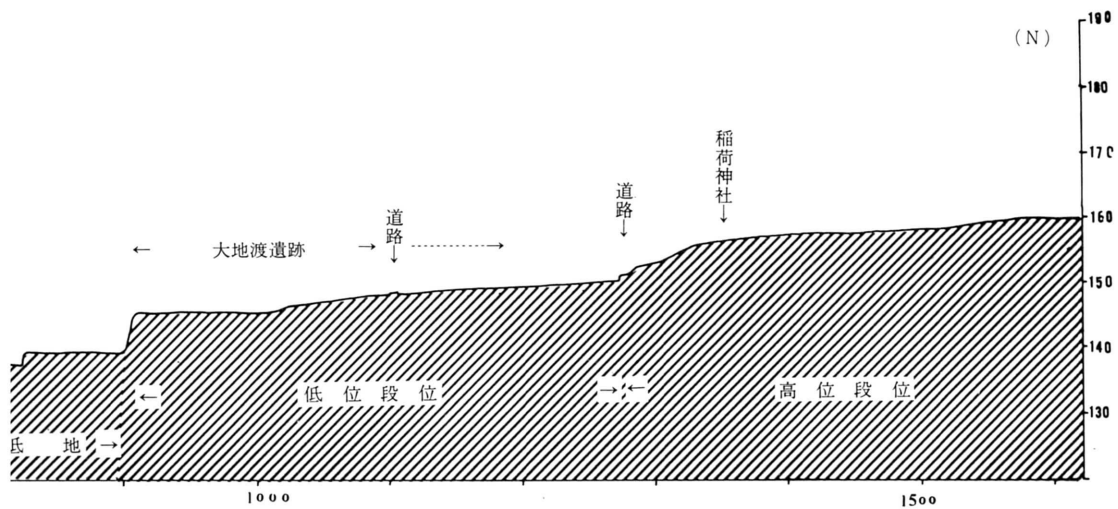
(S) 第2図 地形断面模式図



- 註(1) 「石鳥谷町史」上巻 石鳥谷町 昭年54年3月
- 註(2) 草間俊一 岩手県石鳥谷町大瀬川田屋遺跡 石鳥谷町教育委員会 昭年43年7月
- 註(3) 岩手県文化財調査報告書第57集 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書一Ⅷ一 岩手県教育委員会
日本道路公団 昭年56年3月
- 註(4) 岩手県南部における古墳時代関係の遺跡・遺物の多くが、北上川現流路よりかなり西に偏して存在している。

第1表 葛丸川流域の周知の遺跡

遺跡名	所在地	時代・その他
弥五郎屋敷	大瀬川	縄文後期、石器
渡	〃	〃
林	〃	縄文中期、土師器、石器
大地渡	〃	縄文中・晩期、石器
田屋	〃	〃 中期、石器
館山	〃	縄文中期、弥生、石器
新山	〃	縄文前・中期、土師器、石器
米斗利沢	長谷堂	土師器
八日市	北寺林	縄文前・晩期、土師器、石器



III 層序と土質 (第3図模式図類)

遺跡所在地が段丘崖近くの平坦面～緩斜面にのり、その南方一段下位に河川が、その北方に一段高位の段丘面が、西方には脊梁山地麓部がひかえることは既に述べた。微視的には、遺跡西半部に埋没谷的な沢状の地形が巾狭く入り込むことの概略についても既にふれたところである。以下に土層の説明もかねて、その補足を行なう。

遺跡の層は基本的には次のようになる。I、表土、耕作土、極暗褐色シルト質土、しまりはあまりない。各時代の諸遺物を含む。II、暗褐色～極暗褐色シルト質土、粘性、しまりとも若干ある。縄文時代中期の主包含層、なお、本来的にはこの上面が遺構検出面となるのであろう。III、基盤、橙色粘土質シルト、上面は上位のIIにより汚され、所謂漸移層的である。それ自体は粘土質に近いが、下位になると小礫も混じる。現状での遺構検出面である。IV、基盤礫層、橙～赤橙色粗砂の間に、小礫～人頭大以上の巨礫が混じる。基盤の段丘礫層である。

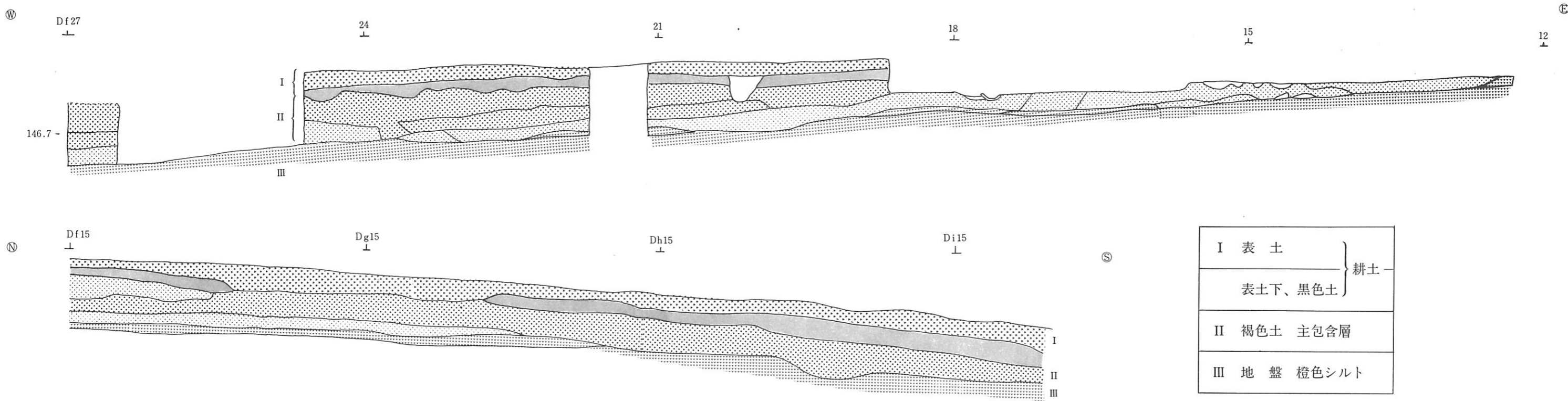
実施した3ヶ所の深掘り結果によると、遺跡中央部と南端の段丘崖及びその裾部においてはIIを欠いている。前者は、遺跡の最高位に近い地点であり、牧草地造成などの人工的改変を加えられたことも考慮すべきかとも思われる。後者は後述の沢状の埋没谷の主体部を若干ずれた地点に位置することに由来するとも考えられる。即ち、IIは遺跡内の比較的低位部に多く見られるものということになる。

それを具体的に示すのが第3(1)図である。実測実施部は、遺跡西半に存在した沢状埋没谷のほぼ中心部である。基盤のIIIは当然ながら南方と西方へそれぞれ傾斜する。沢状地形の西端部(西側の立ち上がり)は、現に居住用として用いる家屋・庭などの存在などにより確認しえなかった。遺憾である。しかし、その巾はそれほど大きくはなかったと考えられる。層の形成は基盤の傾斜にほぼ沿っており、特異な現象は指摘できない。なお主包含層たるII層はその上位に遺物がより多く、下位により少ない傾向を持つ。

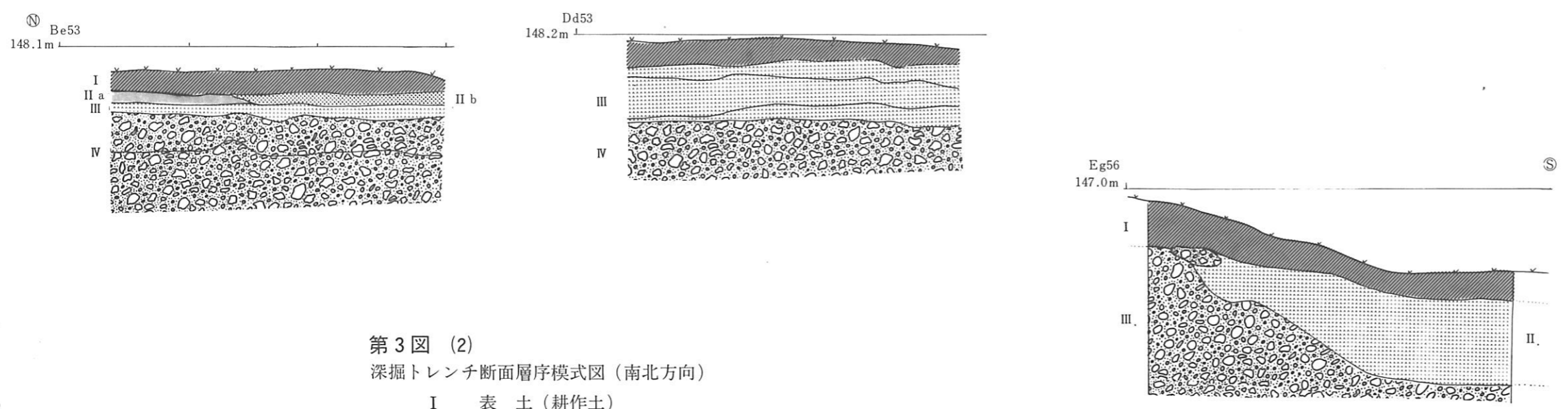
IV 発見された遺構と遺物(第4図) 調査の結果、縄文時代の住居跡10と遺物包含層、その可能性のある遺構6、平安時代の住居跡、時代不明の遺構9、近世以降の墳墓数基と、それぞれに伴う遺物類を検出した。以下にそれらを記す。縄文時代・平安時代・不明の順とし、さらに遺構・遺物の順とする。

1 縄文時代 A 遺構

C e 62遺構 (第5～7図、図版2) [遺構の確認]調査地中央若干北寄りの東縁部のIII層とIV層上面上に検出した。調査地は北進するほど、IVの礫層がより上位に露出するようになる



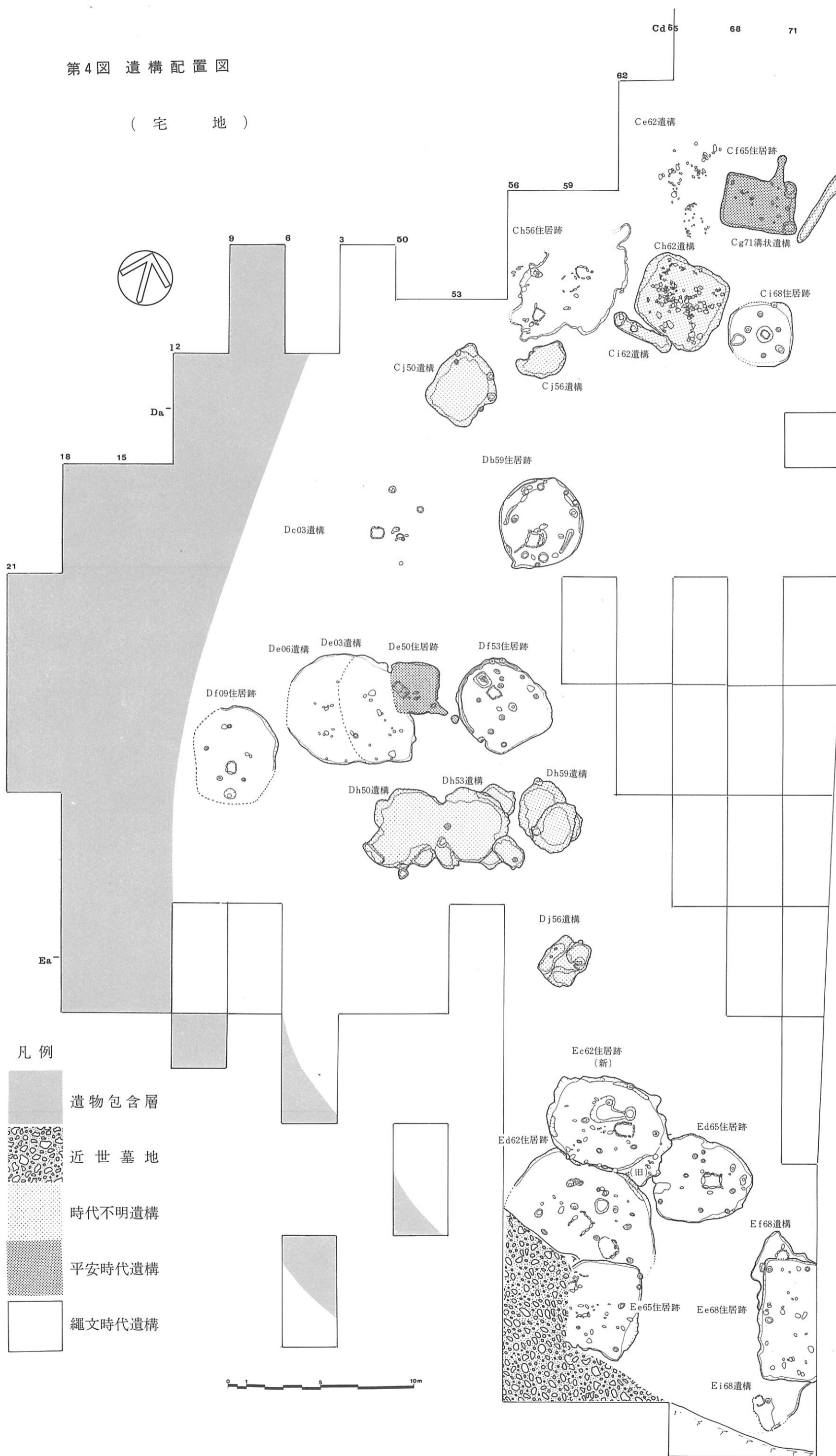
第3図 (I) 層序模式図



第3図 (2)
深掘トレンチ断面層序模式図 (南北方向)

第4図 遺構配置図

(宅地)



が、その部分であり、礫が多い地点である。比較的高位部である。

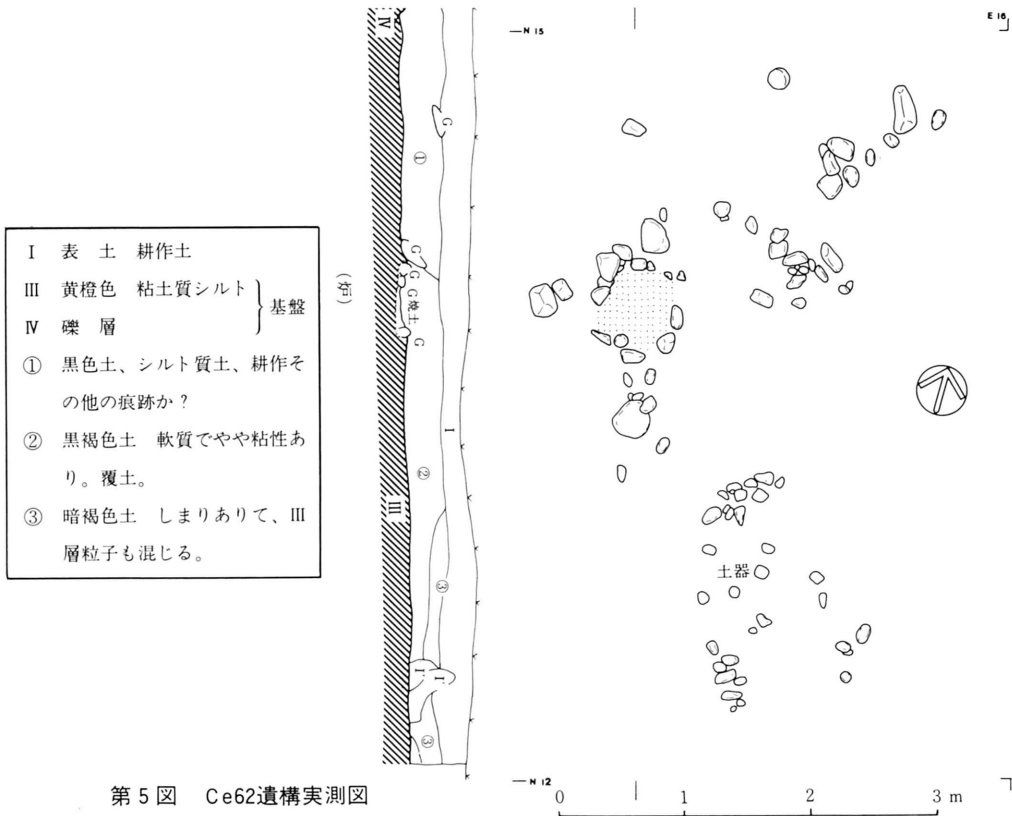
検出された遺構は所謂石囲い炉のみであり、その他のものは確認できない。また断面の観察によってもその壁などを指摘することはできない。したがって、堅穴住居の炉跡である可能性は極めて大きいとはいうものの、表記の如き遺構名とした。

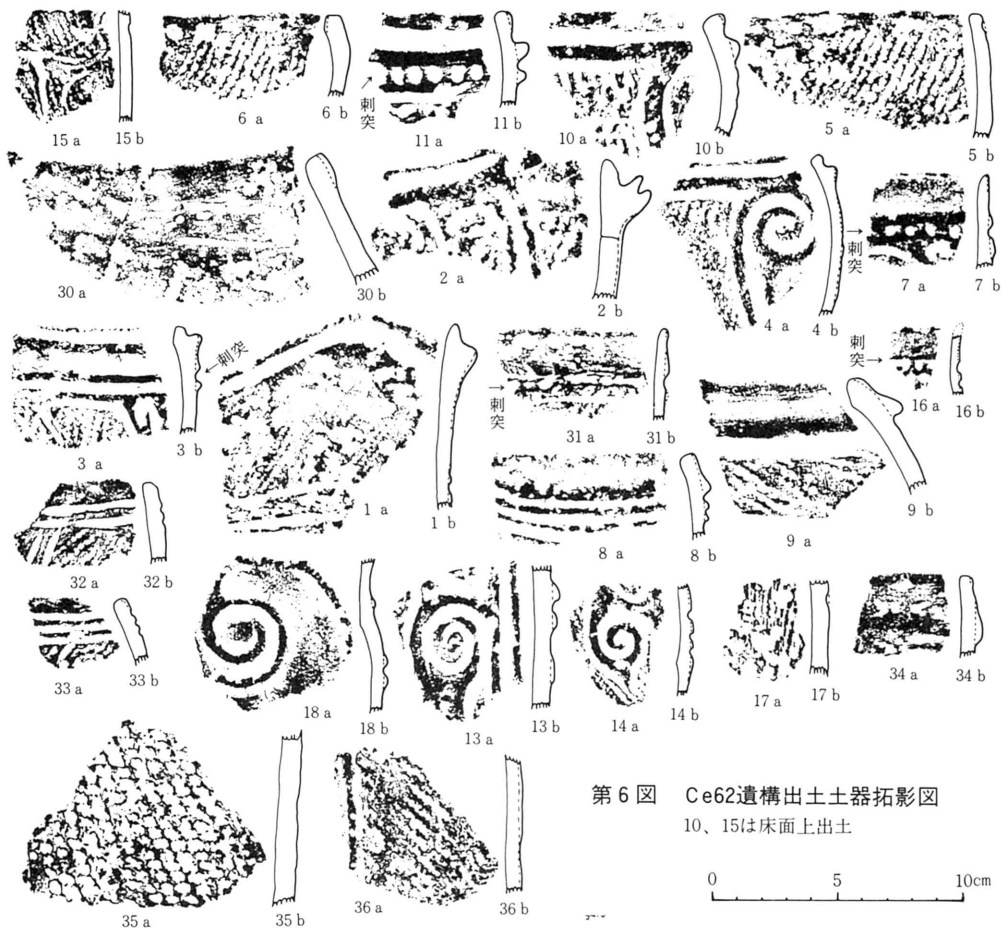
石囲いは礫を用いているが、かなり乱れており、欠落部もある。構築法などは明らかにしえなかった。

[年代決定の資料]上記の如く遺構の乱れが顕著であり、若干問題が残るが、一応床面上出土の土器類としておく。縄文時代中期と思われる。

〔遺物〕 (1) 土器類 すべて細片の形で得たが、深鉢型のみであろう。床面上からはIII b類? (15)、VI類 (10)、の2点を、埋土中からはII a類 (9・30・34)、III c類 (7)、IV類 (1)、V b類 (8)、VI類 (2~4、11)、X11類? (32・33) をそれぞれ得た。他に疑問はあるがI d類 (17) と思われるものも存在する。

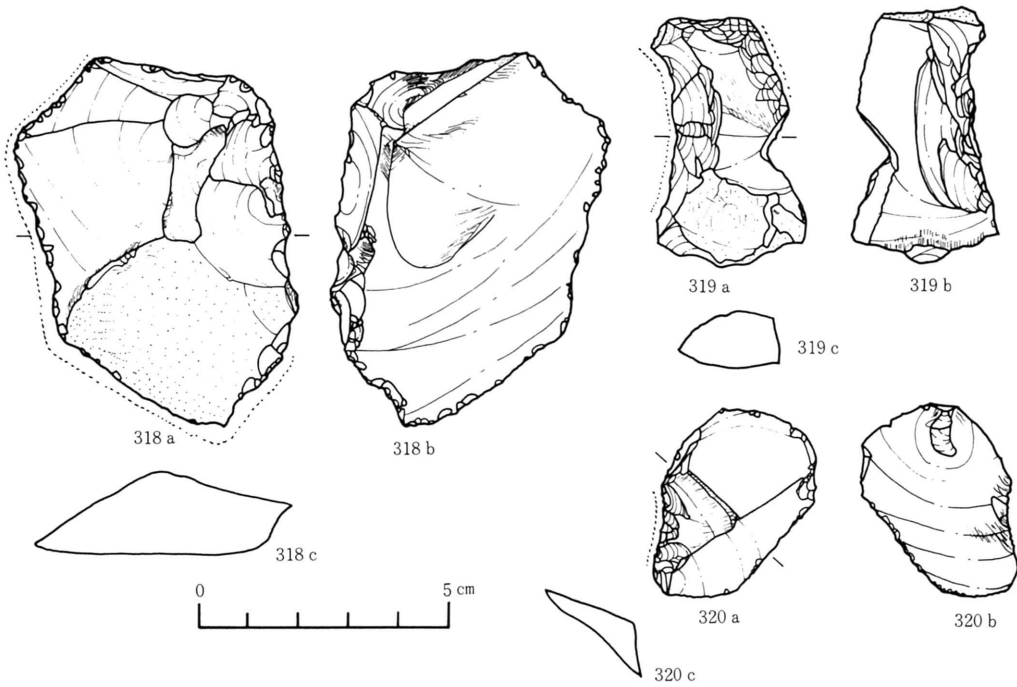
(2) 石器類 少量しか得られなかった。床面上から10類 (片刃の不定形搔器) 1を得た。埋土中から同じく10類1、9類 (両刃の不定形搔器) 1、の計2個を得た。





第6図 Ce62遺構出土土器拓影図
10、15は床面上出土

No.	地点	層位	種別	分類	内 面				外 面				胎土	破成			
					色	調	口	縁	底	口	縁	体			上	体	下
1	Q2	埋土	深鉢	IV	23Y R5/6青 胎土赤褐色23Y R5/6青 胎土23Y R5/6青	人金、イガキ、黄砂主 體、刺突部 クラック	---	---	23Y R5/6青 沈積部5Y R5/6青	口縁に凹み(沈積) 下部に沈積部まで織文 R.L.<1; 織成法	---	---	---	石炭粒、小石	やや良		
2	Q1	"	"	VI	23Y R5/6青 胎土23Y R5/6青	"	---	---	23Y R5/6青	織成法	---	---	---	---	粗砂	不良脆碎	
3	Q2	"	"	VI	23Y R 1.7/1黒 胎土同上	多孔質、クラック イガキ	---	---	左に凹み	織成法、口縁に凹み乃至沈積、下部は隆帯と刺突ある沈積	---	---	---	---	"	"	
4	Q1	"	"	VI	23Y R5/6青 胎土23Y R 1.7/1黒	クラック イガキ	---	---	23Y R5/6青	織成法、口縁に凹み乃至沈積、下部は隆帯	---	---	---	隆帯直下より織文 地文織文R.L.<2、織成法	---	---	
5	Q1	"	"	"	10Y R5/6青 胎土10Y R5/6青	イガキ	---	---	10Y R5/6青	隆帯直下より織文 隆帯直下より織文 隆帯以下に織文される詳細不明	---	---	---	粗砂あるも ほぼ織成	---		
6	Q1	"	"	"	"	"	---	---	"	口縁と隆帯のイガキ	---	---	---	---	---		
7	Q2	深鉢	皿	III	23Y R5/6青 胎土23Y R5/6青	イガキ、 クラック	---	---	10Y R5/6青	織成法	---	---	---	隆帯直下の沈積部に刺突 本以下に織文、詳細不明	粗砂あるも ほぼ織成	普通 やや脆質	
8	Q1	"	"	III	10Y R5/6青 胎土10Y R5/6青	イガキ 刺突部	---	---	10Y R5/6青	織成法	---	---	---	隆帯以下に織文される詳細不明	粗砂	脆質	
9	Q1	"	"	III	10Y R5/6青 胎土10Y R5/6青	"	---	---	10Y R5/6青	隆帯直下より織文 隆帯以下に織文される詳細不明	---	---	---	隆帯以下の織文R.L.<2; その他不明	---	良好脆質	
10	床面	"	"	VI	5Y R5/6青 胎土10Y R5/6青	"	---	---	5Y R5/6青	隆帯以下織文 地文織成	---	---	---	---	---	不良脆質	
11	Q1	埋土	"	VI	10Y R5/6青 胎土10Y R5/6青	イガキ	---	---	5Y R5/6青	隆帯直下連続刺突 本以下に織文、詳細不明	---	---	---	石炭粒ある ほぼ織成	良好		
13	Q1	深鉢	皿	III	23Y R5/6青 胎土23Y R5/6青	イガキ 人金	---	---	同 左	地文織文 R.L.<2; 織成法	---	---	---	粗砂あるも ほぼ織成	---		
14	Q1	"	"	III	23Y R5/6青 胎土23Y R5/6青	イガキ クラック	---	---	23Y R5/6青	織成法	---	---	---	粗砂あるも ほぼ織成	---		
15	床面	"	"	III	23Y R5/6青 胎土同上	イガキ 人金	---	---	5Y R5/6青	地文織文 R.L.<2の異織成 口縁直下凹み 口縁直下凹みられる部分はイガキ、無文 支線部、下部は連続刺突文列	---	---	---	粗砂あるも ほぼ織成	良好脆質		
16	埋土	深鉢	皿	III	23Y R5/6青 胎土23Y R5/6青	イガキ、人金 光沢	---	---	23Y R5/6青	織成法	---	---	---	地文不明(クラック) 織成法、沈積	---	不良脆質	
17	Q2	"	"	III	23Y R5/6青 胎土23Y R5/6青	イガキ、 クラック	---	---	10Y R5/6青	隆帯直下連続刺突 本以下に織文、詳細不明	---	---	---	隆帯以下の織文R.L.<2; その他不明	---	不良脆質	
18	Q1	"	"	"	23Y R5/6青 胎土同上	多孔質	---	---	23Y R5/6青	平縁、隆帯内部内縁：イガキ 下部隆帯	---	---	---	上部織成、織成法、沈積	---	粗砂あるも ほぼ織成	
34	"	深鉢	皿	III	23Y R5/6青 胎土同上	イガキ、 刺突	---	---	同 左	平縁	---	---	---	上部織成、織成法、沈積	---	粗砂あるも ほぼ織成	
33	"	"	"	III	5Y R5/6青 胎土23Y R5/6青	刺突 平縁	---	---	同 左	平縁	---	---	---	上部織成、織成法、沈積	---	粗砂あるも ほぼ織成	
32	"	"	"	"	10Y R5/6青 胎土10Y R5/6青	平縁	---	---	同 左	下部隆帯までイガキ	---	---	---	織文 R.L.<2; 織成法	---	"	
35	"	"	"	"	10Y R5/6青 胎土10Y R5/6青	イガキ、 クラック	---	---	同 左	織文 R.L.<2; 織成法	---	---	---	織文 R.L.<2; 織成法	---	"	
36	"	"	"	"	10Y R5/6青 胎土10Y R5/6青	イガキ、 クラック	---	---	同 左	織文 R.L.<2; 織成法	---	---	---	織文 R.L.<2; 織成法	---	"	
30	Q2	"	"	III	23Y R5/6青 胎土10Y R5/6青	イガキ、 刺突	---	---	23Y R5/6青	内縁、イガキ	---	---	---	上部隆帯に刺突	---	粗砂	不良
31	Q2	"	"	III	23Y R5/6青	"	---	---	同 左	外縁、イガキ	---	---	---	上部隆帯に刺突	---	粗砂	不良



第7図 Ce62遺構出土石器実測図

種別	登録番号	地点	層位	測定値			cm・g	材質	分類	刃部	素材	断面	加撃点	打面	技法	表皮	刃溝	その他	
				たて	よこ	あつさ													
両刃の不定形撻器	319	Q 1	埋土	5.0	2.3	1.0	13.15	珪質泥岩	9類	B	III	ホ		う			P	○	破
片刃の不定形撻器	318		床面	7.65	5.1	1.8	64.9	凝灰質珪質泥岩	10類										
"	320	Q 1	埋土	4.05	2.85	0.65	5.75	"	"										

C h 56住居跡（第8～11図、図版2）〔遺構の確認〕調査地中央若干北寄りの、東縁部近くのIII層上面に検出した。調査地内の比較的高位部で、III層上面にIVの礫が露出しはじめる部分である。そのためIII層も粗砂混じりとなり、また礫が多数存在する。痕跡的に残存する。

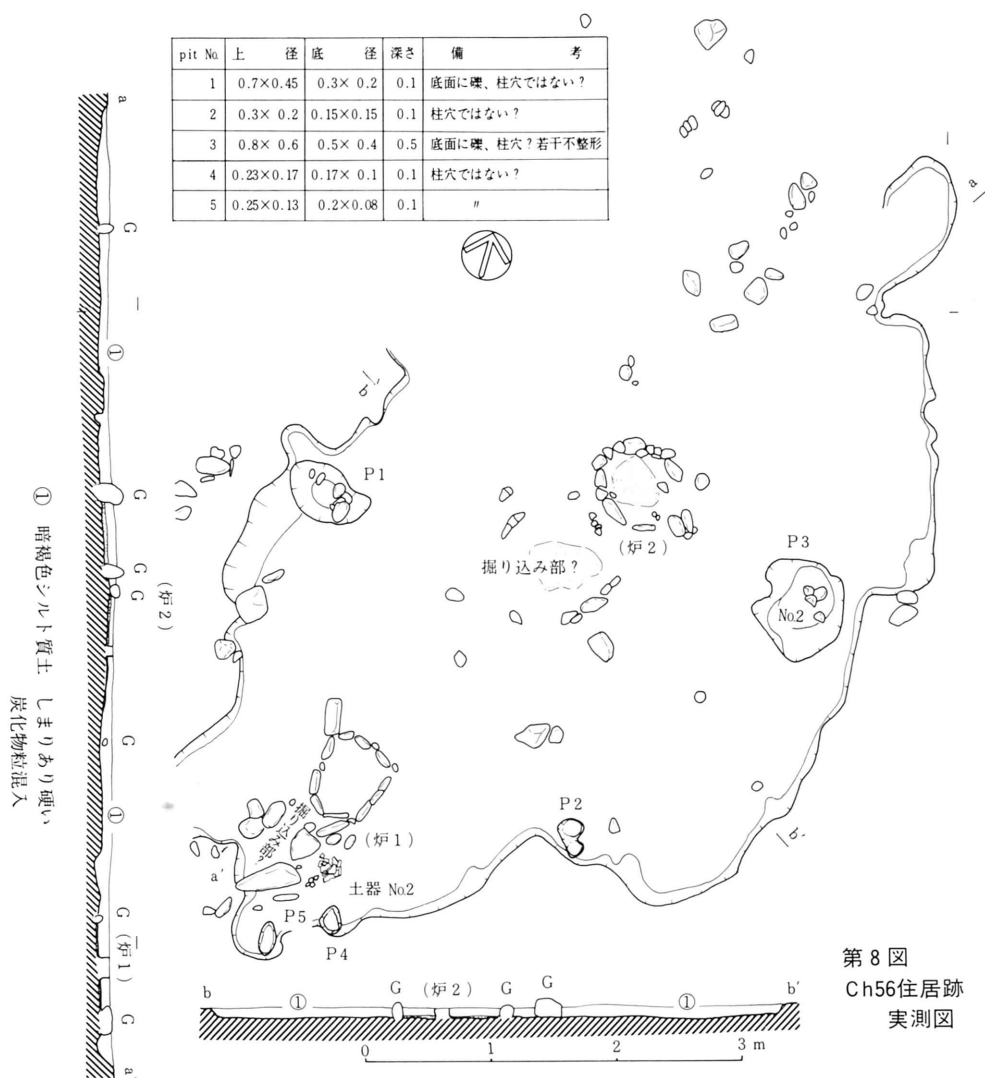
〔重複・増改築の事実〕上記の事情と調査の不備から、そのいずれの事実も確実に把握できなかった。炉と認定しうるものが2個存在することから、単期でない可能性もある。

〔平面形・方向〕これも同様に明確にし得ない。しかし仮に炉に隣接する礫の集合を掘り込み部の痕跡と見做すと、両者とも磁北より若干東にふれた方向をとることとなる。

〔堆積土〕既述のように現壁高が低いため、暗褐色シルト質土が一様に堆積しているのみである。その為に特異な現象は観察できない。

〔床面〕上述の如く基盤が粗になっていることから、自然の礫等が存在し凹凸に富む。貼り床等の処理は見られないが、本来の床面は平坦に近いものであったろう。

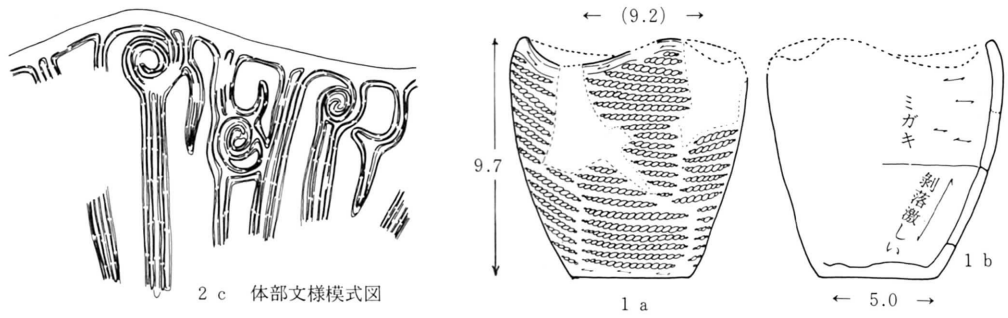
〔柱穴〕床面上に計5個のピットを検出したが、P3のみが深さ0.5mあり、他はいずれも浅



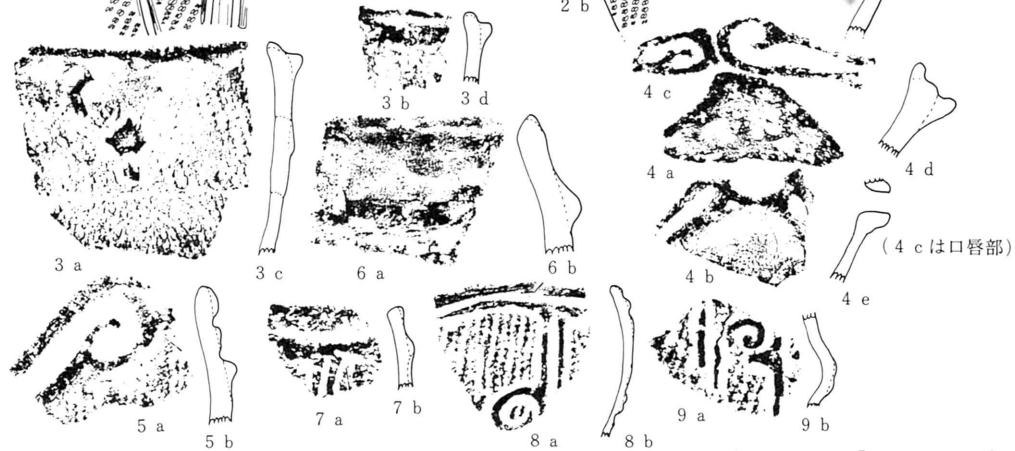
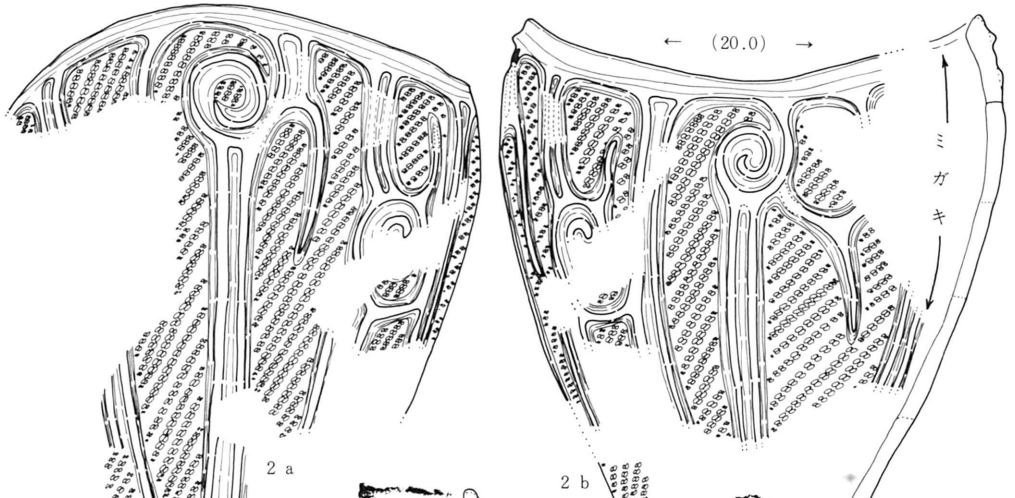
い。したがって P3 以外に可能性のあるものは知らない。平面配置は不明である。

〔炉〕 既述のとおり 2 ヶ検出した。炉(1)はより南方に位置し、燃烧部と掘り込み相当部様の両者からなる。ともに礫を用いているらしい。前者は一重にめぐらし、後者はかなり乱れているが、大略同一であったろう。後者に隣接し、土器片が存在するが、その内部に焼土等は見られない。それぞれの平面形は正確につかめないが、前者は長方形の категорияにはおさまるものであろう。礫の据え方等は断ち割り等を実施しないこともあり不明であるが、一まわり大きい掘り込みを伴うことからすると、あらかじめ設けた掘り込みの中に礫を据えたと思われる。

炉(2)も両者からなると思われるが、かなり乱れており、詳細はつかみえない。大略炉(1)に類似するものと考えられよう。



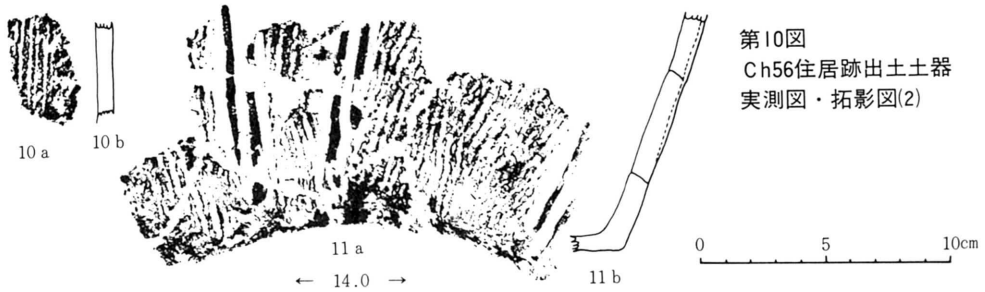
2 c 体部文様模式図



第9図 Ch56住居跡出土土器実測図・拓影図(1)

0 5 10cm

No.	地点	層位	種別	分類	内				外				土	地	成	
					色	質	口	脚	脚	底	色	質				口
1	1	1	埴土	V*	5 Y R 5/6 灰褐色、下半一箇のみ 5 Y R 5/6 黄褐色	全土	全土	全土	全土	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	小石	良好	埴土
2	1	1	埴土	V*	5 Y R 5/6 灰褐色、下半一箇のみ 5 Y R 5/6 黄褐色	全土	全土	全土	全土	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	小石	良好	埴土
3	Q3	1	埴土	V	5 Y R 5/6 灰褐色 船土 5 Y R 1.7/1 赤黒	全土	全土	全土	全土	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	小石	良好	埴土
4	Q2	1	埴土	V	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	全土	全土	全土	全土	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	小石	良好	埴土
5	1	1	埴土	V*	5 Y R 5/6 灰褐色 船土 10 Y R 5/6 黄褐色	全土	全土	全土	全土	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	小石	良好	埴土
6	1	1	埴土	V*	5 Y R 5/6 灰褐色 船土 10 Y R 5/6 黄褐色	全土	全土	全土	全土	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	小石	良好	埴土
7	1	1	埴土	V*	5 Y R 5/6 灰褐色 船土 10 Y R 5/6 黄褐色	全土	全土	全土	全土	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	小石	良好	埴土
8	Q3	1	埴土	V*	5 Y R 5/6 灰褐色 船土 10 Y R 5/6 黄褐色	全土	全土	全土	全土	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	小石	良好	埴土
9	1	1	埴土	V*	5 Y R 5/6 灰褐色 船土 10 Y R 5/6 黄褐色	全土	全土	全土	全土	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	5 Y R 5/6 灰褐色 部分的に 5 Y R 5/6 黄褐色	小石	良好	埴土



No	地点	層位	種別分類	内面				外面				最大長				備考			
				色調	口縁	口頭	体底	色調	口縁	口頭	体上半	体下半	底	器高	口径		底径	頸・刷	粘土
10	Q4	埋土	深鉢 (破体)	Id?	7.5Y R 8% 浅黄褐色 粘土 7.5Y R 8% 黑色	—	—	ミガキ? 凹凸 意シクラック	7.5Y R 8% にふい橙色	—	—	条痕文乃至平行沈線文	—	—	—	—	—	粗砂あ りて粗	不良
11	"	"	" (破・底)	"	7.5Y R 8% 橙色 粘土 7.5Y R 8% 浅黄褐色	—	—	ミガキ? 剥落部多シ	7.5Y R 8% 橙色	—	—	地文織文 R L < 5% 渦巻文 (降帯④沿うナデ) 下部部ミガキ	ミガキ 無文	—	—	(14.0)	—	小石あ るも普 通	良好 硬質

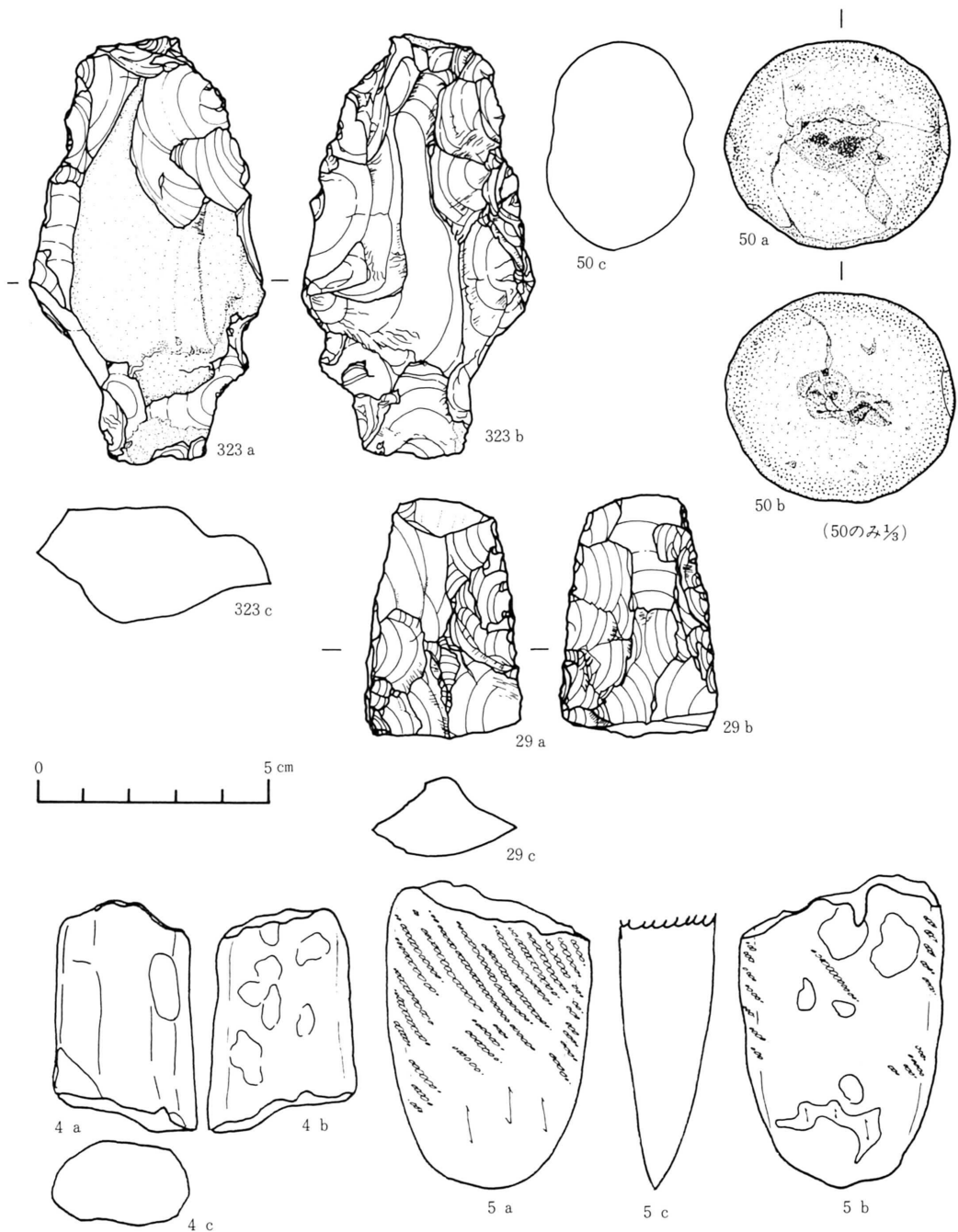
〔その他の施設〕周構等は検出できない。

〔年代決定の資料〕床面出土の土器・石器類がある。縄文時代中期と思われる。

〔遺物〕 (1) 土器類 床面上からは復元可能2個体と、若干量の破片を検出したが、それらはV類? (1)、II a類 (6)、V a類 (2)、VI類 (3) の各類である。うち1は“袖珍土器、まではいかないがかなりの小型品である。ただし、内面下半の激しい剥落ぶりは使用の反映とみることもできることからすると、小型品ではあるが狭義の実用品ではあろう。埋土からは破片のみを得たが、それらはI d類? (10)、IV類 (4)、V a類 (8)、V b類 (7)、VI類 (5) からなる。他に底部破片があり、それはIII～VII類のいずれかであろうが特定できない。他に斧状土製品3を得た。

(2) 石器類 比較的豊富に得た。いずれも床面と思われるレベルにおける検出である。6類 (石筥状) 1、10類 (片刃の不定形搔器) 1、19類 (石皿) 2、20類 (凹み石) 1、24類 (不明磨製品) 1 などからなる。

種別	登録番号	地点	層位	計測値 cm・g				材質	分類	破損	素材	断面	加え た	打面	技法	つま み	ア ルト フ
				たて	よこ	あつさ	重さ										
石筥状	29		床面	5.3	3.4	2.0	27.65	硬質泥岩	6類	b	III	ハ		う	W		
片刃の不定形搔器	323		床面	9.4	4.9	2.9	117.7	硬質泥岩	10類								
石皿	35		床面	20.5		8.0	1520.0	浮石質角礫凝灰岩	19類	棒状礫							破
"	36		床面	9.8	8.4	6.2	1110.0	複輝石安山岩	19類	板状							"
									破損	凹部	断面	部	凹部	数			
凹み石	50		床面	9.2	8.4	6.2	590.0	複輝石安山岩	20類	完	○	○					○
不明磨製品	22		床面	9.1	5.4	0.9	54.0	"	24類								



第11図 Ch56住居跡出石器・土製品実測図

C i 68住居跡（第12～15図、図版3）〔遺構の確認〕調査地中央若干北寄りの東端部付近で、II層中に検出した。ただし、粗掘段階においてはその存在に気づかず、床面のレベル、即ち、III層上面まで掘り下げてしまった。調査地内では、比較的高位部にあたる。なお、この附近のIII層には小礫が多数混じる。

〔重複・増改築の事実〕上記の調査上の不手際があり多少疑問があるが、そのいずれの事実もなく単期のものであったと思われる。ただし、後述の柱穴と思われるものの中に、立て替えともとれる現象を示しているものが1ヶ所ある。したがって、柱の部分的な立て替えあるいは補修等のことは存在した可能性がある。

〔平面形・方向等〕これも既述の理由で不明であるが、残存した床面を敷衍するとその規模は、径3.5m×深さ0.25m程度の円形（乃至隅丸方形的の）プランを有するものと思われる。炉の長軸方向をとればNW～SEへのびることになる。

〔堆積土〕一様に暗褐色シルト質土が堆積している。

〔床面〕凹凸などは殆んどなく、ほぼ平坦である。東南隅に土器2が残存した。

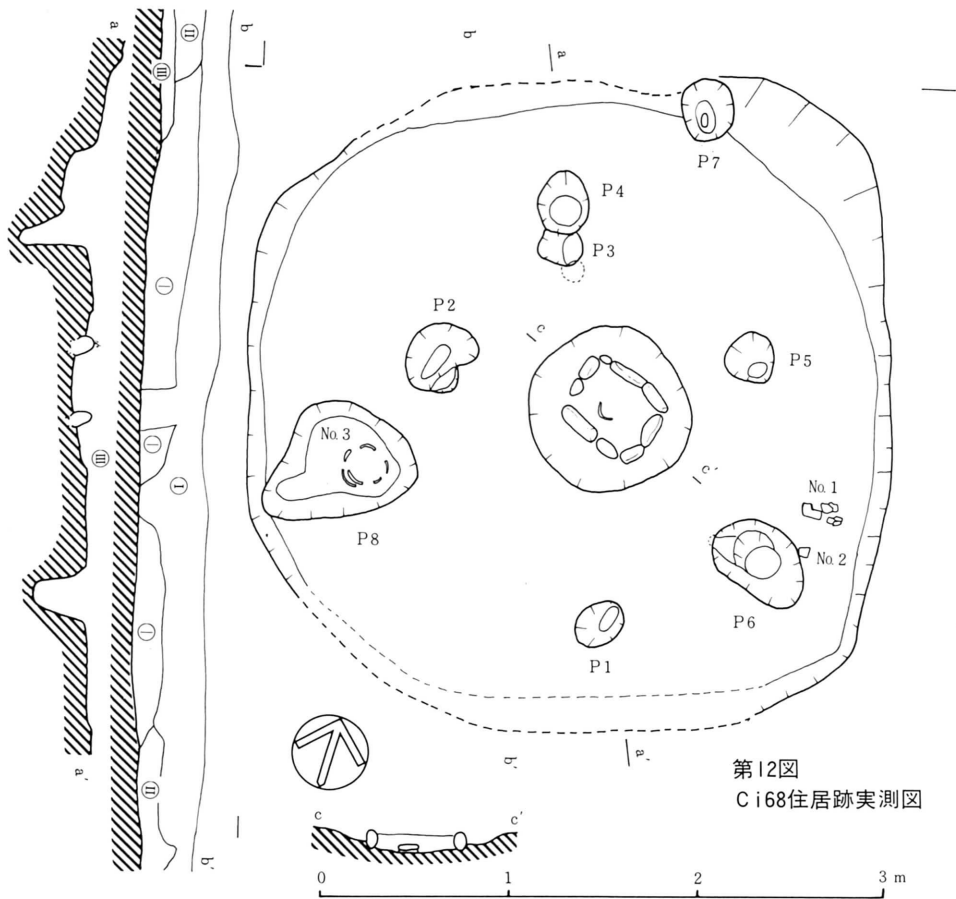
〔柱穴〕壁外周には検出できず、すべて床面上に6ヶ検出した。うちP₃とP₄は重複し、後者が新である。その配置は大略炉を中心に五角形を描くが如きものである。なおP₇のみが北東部壁直下に位置する。対応するピットを検出できないので、柱穴関連のものとは断定できない。一応性格不明としておく。

〔炉〕床面ほぼ中央からわずかに東西寄りに、所謂石囲い炉形式のものが付設されている。石組みは細長い礫を一重にめぐらした簡単なものである。石組より一まわり大きめの掘り込みを設け、そこに礫を据える。炉中には焼土と、土器破片若干量を検出した。したがって炉中への土器の埋置を行っていた可能性もややある。

〔その他の施設〕周溝は確認できなかった。西南隅に不整楕円形の掘り込み（深さ0.15m）があり、その中に土器が埋置されていた。したがって何らかの用途の土器埋置と思われるが具体的には不明である。貯蔵穴関連のものであろうか。

〔年代決定の資料〕既述の床面上、掘り込み中、炉中出土の土器類である。縄文中期であろう。

〔遺物〕（1）土器類 床面・炉・掘り込み中から、復元可能土器3個体他を検出した。本遺跡においては比較的良好な出土状況といえよう。I c類（2、褶珍土器まではいかないがかなりの小型品）、III b類（3・14、両者は同一個体と思われる）、III c類（1）、V a類（15）、V b類（5）などの組みあわせとなる。1は東南隅近くに横転位で、2はその南に、3は掘り込み中の埋設土器、1・2・11は（炉中への埋設土器と思われるが現状は）細片の形で、それ



第12図
Ci68住居跡実測図

I	表土、耕作土 黒褐色土、一部は深部にまで及ぶ。
II	暗褐色、シルト質土 IIIの粒子が混じる。

III	橙色、粘土質シルト
①	覆土、暗褐色シルト 質土、若干粘性ある

ピット深さ

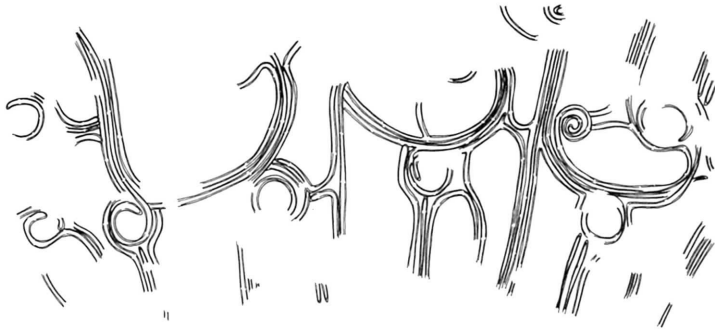
	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	
深さ	28.5	12.0	43.0	20.5	27.5	7.0	10.0	12.5	cm

ぞれ検出されたものである。1の体部文様（棘を伴う隆・沈線による縄文）は、2モチーフ計4本により表現され、3のそれは詳細は不明であるが、器面を2分割（大別）・4分割（細別）しているかとも考えられよう。

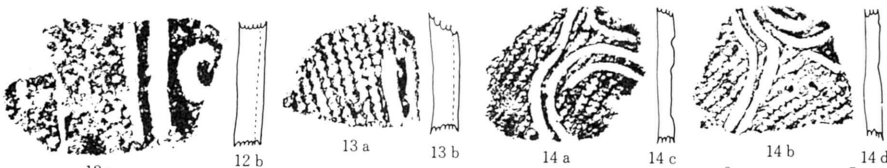
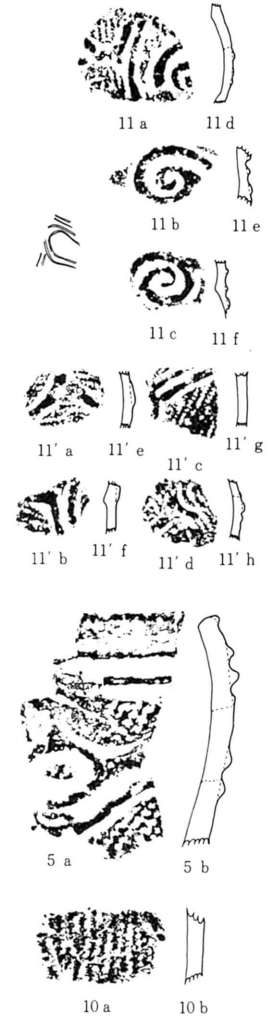
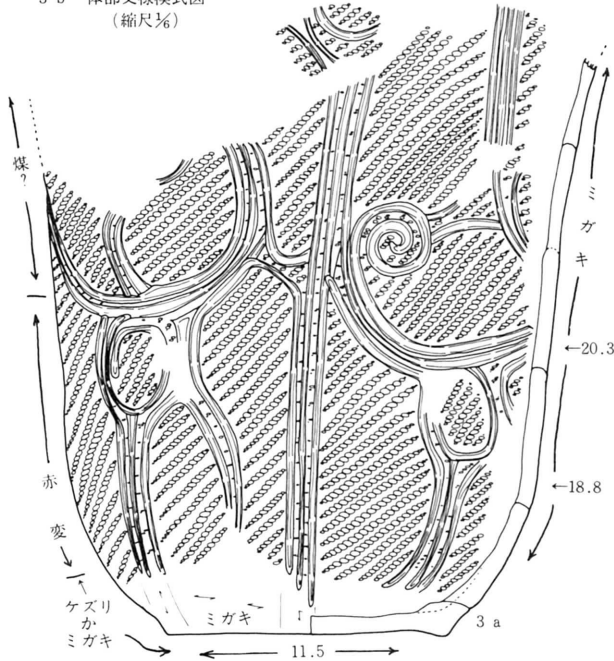
埋土からは細片のみを得たが、それはI b類（24）、II a類（9）、III c類（6）、III d類？（7）、V a類（8）などからなる。床面出土のものと大略同様の特徴をもつといえよう。

(2) 石器類 埋土から10類（片刃の不定形搔器）1を得たのみである。

他に三角形土製品1を得た。



3b 体部文様模式図
(縮尺 $\frac{1}{4}$)

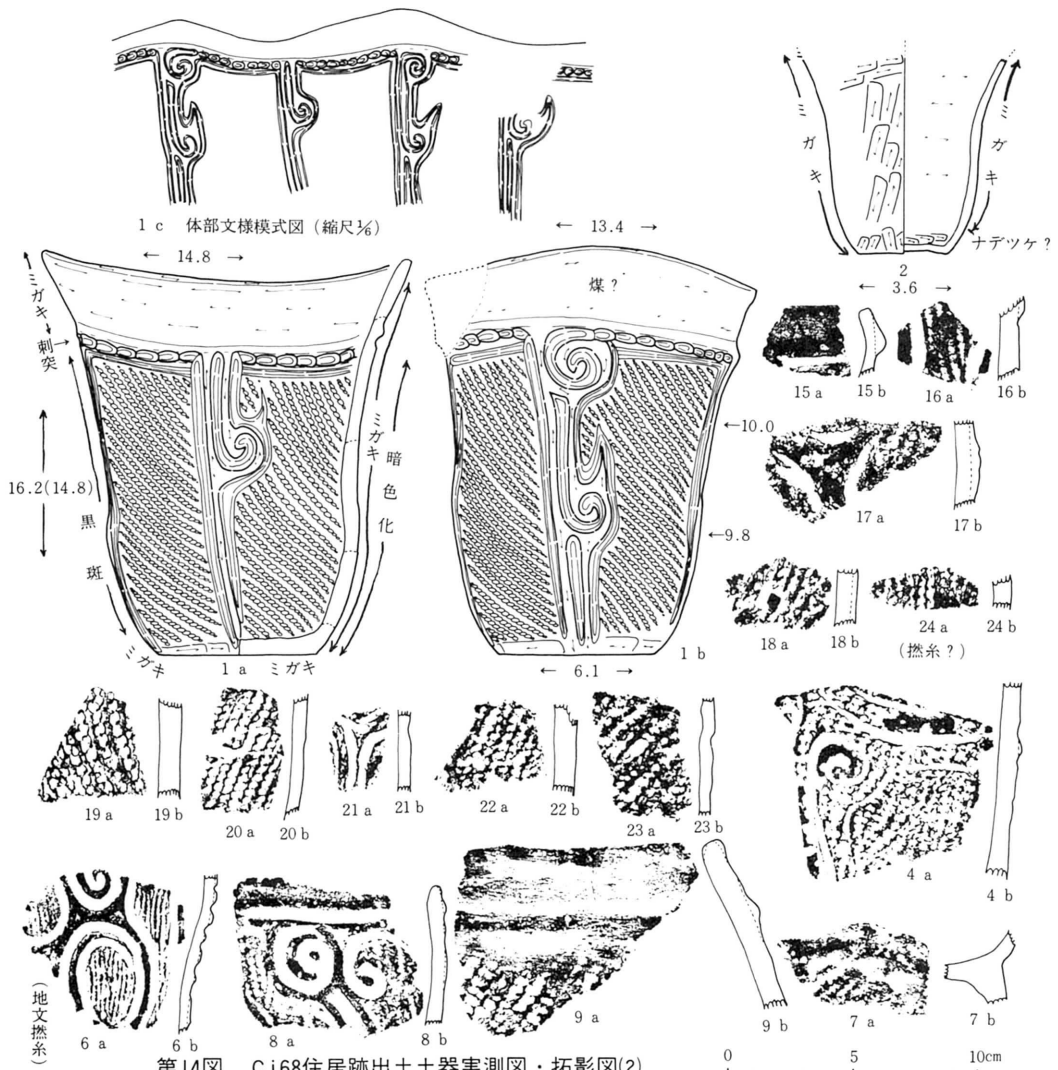


(14は3と同一個体と思われる)

第13図 C i68住居跡出土土器実測図・拓影図(I)

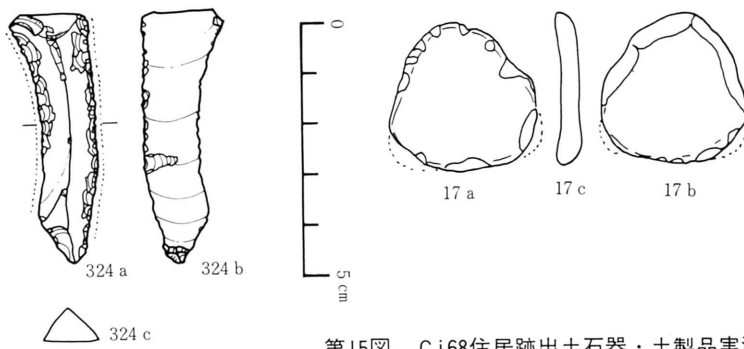
0 5 10cm

No	地点	層位	種別	分類	内面			外面			胎土	焼成		
					色調	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁			口縁	
3		床面掘り込み	深鉢	Ⅲb①?	7.5YR 5/6にふい焼胎土7.5YR 5/6澄下半のみ5YR 5/6麻暗赤地使用痕?			全面入念ミガキ横位主体縞状剥落部多し	5YR 5/6澄(下方)斑状(より下方には少ない)に5YR 5/6麻暗赤地使用痕		地文織文R L < 7 全面渦文(併行沈線)下端部ミガキ無文	ミガキ部分的に揚底風	小石	良好
5		床面	"	V b①	7.5YR 5/6浅黄澄胎土7.5YR 5/6黒焼		全面ヘラミガキ剥落部多く凹凸	7.5YR 5/6浅黄澄胎体以下7.5YR 5/6褐灰	略方形下限は二降帯、そこまでミガキ無文剥落部多し		地文織文R L < 7 全面渦文(併行沈線)下端部ミガキ無文		小石あり	"
10		床面	"(破・底)		7.5YR 5/6にふい焼		"	10YR 5/6黄澄			地文のみR L < 7			"
11		如中	"		5YR 5/6澄、①7.5YR 5/6にふい焼		ミガキ	7.5YR 5/6黄澄			渦文降・沈線地文R L < 7 煤?		粗砂	"
12		床面	"(n)		5YR 5/6明赤焼		入念ミガキ	7.5YR 5/6澄					小石	良好硬質
13		"	"		7.5YR 5/6にふい焼		ミガキ剥落	7.5YR 5/6にふい焼			渦文?降・沈線地文R L < 7		"	"
14	No 3に同一?	"	"	Ⅲb①	7.5YR 5/6にふい焼		ミガキクラック	7.5YR 5/6浅黄澄			渦文沈線地文R L < 7		粗砂	"



第14図 Ci68住居跡出土土器実測図・拓影図(2)

No.	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	焼成				
					色	調	目	目	目	目	目	目						
1	Ch	68住	深鉢 (小型・ 完全)	田	5 Y R 5/6 に近い赤褐色 体全面に 5 Y R 5/6 黒焼 使用痕	全面ミガキ、縦・斜位中心 下半~底面斜位部使用痕?	縦	縦	5 Y R 5/6 明赤褐色 斑状に 5 Y R 5/6 黒 焼・焼成跡?	縦	縦	縦	縦	縦	縦	砂粒多い がはは精	普通	
2	"	"	"	田	7.5 Y R 5/6 に近い 下半~底面 7.5 Y R 5/6 黒焼 使用痕?	全面ミガキ、入念 縦・斜位主体 底部ナテツケ?	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	7.5 Y R 5/6 に近い 下半 7.5 Y R 5/6 黒焼 使用痕?	縦	縦	縦	縦	縦	縦	砂粒ある 七はは精	良好硬質
4	Q 1	埋土	深鉢 (破・体)	田	7.5 Y R 5/6 黒焼 胎土 10 Y R 5/6 黒焼	全面入念ミガキ 割傷部多く 多孔質	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	10 Y R 5/6 深黄褐色 隆部 7.5 Y R 5/6 黒 焼	縦	縦	縦	縦	縦	小石	普通	
6	"	"	"	田	7.5 Y R 5/6 黒焼 胎土 7.5 Y R 5/6 黒焼(志のみ) 割傷部は 5 Y R 5/6 に近い	全面入念ミガキ	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	7.5 Y R 5/6 黒 胎土は左に同種	縦	縦	縦	縦	縦	精良	良好硬質	
8	Q 4	"	深鉢 (破・口)	V a	7.5 Y R 5/6 深黄褐色	入念ミガキ	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	同左。斑状に 7.5 Y R 黒焼	縦	縦	縦	縦	縦	粗砂	良好	
9	Q 1	"	"	田	7.5 Y R 5/6 黒焼	ミガキ割落	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	7.5 Y R 5/6 に近い	縦	縦	縦	縦	縦	"	"	
15	深面	深鉢 (破・口)	V a	7.5 Y R 5/6 に近い	ミガキ半滑	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	10 Y R 5/6 深黄褐色 隆部	縦	縦	縦	縦	縦	縦	精良	"	
16	"	"	"	田	10 Y R 5/6 黒焼	ミガキ割落	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	同左	縦	縦	縦	縦	縦	粗砂	"	
17	"	"	"	田	5 Y R 5/6 明赤褐色	ミガキ、クラック	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	7.5 Y R 5/6 黒焼	縦	縦	縦	縦	縦	"	不良脆性 少の軟	
18	"	"	"	田	7.5 Y R 5/6 黒焼	ミガキ、クラック	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	7.5 Y R 5/6 深黄褐色	縦	縦	縦	縦	縦	"	"	
19	"	"	"	田	10 Y R 1.7/1 黒	ミガキ半滑	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	同左	縦	縦	縦	縦	縦	"	良好	
20	"	"	"	田	7.5 Y R 5/6 黒焼	ミガキ、クラック	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	同左	縦	縦	縦	縦	縦	精良	"	
21	"	"	"	田	7.5 Y R 5/6 黒焼	ミガキ、クラック	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	同左	縦	縦	縦	縦	縦	粗砂	"	
22	"	"	"	田	7.5 Y R 5/6 に近い	ミガキ割落	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	同左	縦	縦	縦	縦	縦	"	"	
23	"	"	"	田	7.5 Y R 5/6 深黄褐色	ミガキ、クラック 割落	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	同左	縦	縦	縦	縦	縦	"	不良	
24	"	"	"	田	10 Y R 5/6 黄褐色	ミガキ?	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	7.5 Y R 5/6 に近い	縦	縦	縦	縦	縦	精良	良好	
7	Q 4	埋土	深鉢 (破・口)	田	"	"	ナテツケ? 割傷部多く 多孔質	縦	縦	同左	縦	縦	縦	縦	縦	"	"	



第15図 Ci68住居跡出土石器・土製品実測図

種別	登録番号	地点	層位	計測値 cm・g				材質	分類	備考
				たて	よこ	あつさ	重さ			
片刃の不定形搔器	324	Q1	埋土	5.0	1.55	0.7	4.4	硬質泥岩	10類	

D b 59住居跡（第16～19図、図版4）〔遺構の確認〕調査地のほぼ中央で、Ⅲ層上面に検出した。調査地内での比較的高位部にあたり、かつⅢ層土が粗くなり、粗砂や礫を多く混ざる地点である。住居南壁の一部は礫層（Ⅳ層に該当）を掘り込んでいる。

〔重複・増改築の事実〕2棟の堅穴住居跡を検出したが、増改築のあとと見做した。その理由は、新旧の住居跡がまったく同一地点を占地していること。さらに、炉もほぼ同一地点に重複すること、柱穴様のピット類の1部に、新旧で共用された可能性をもつものがある（後述のP₃・58など）こと、若干レベル差のある旧床面を埋めるなどの措置を観察できないこと、などの諸点を考慮したことによる。規模が一まわり大型化している点から、増築であろう。以下新旧別に説明する。

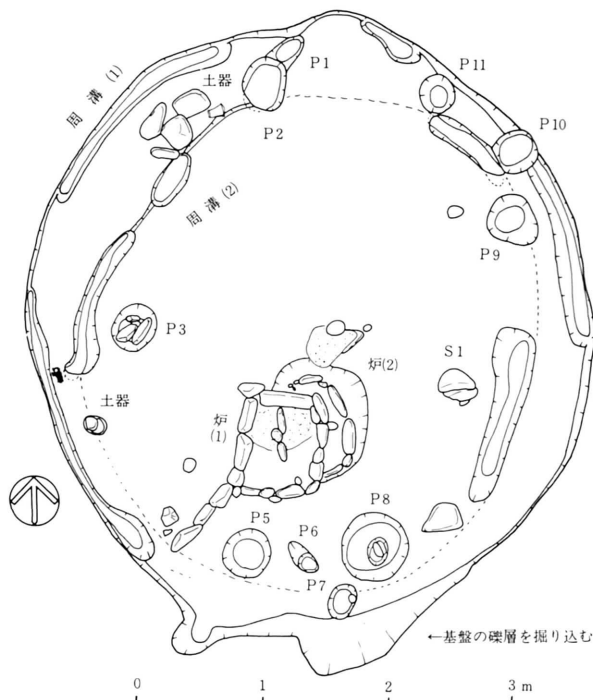
(1) D b 59（新）住居跡

〔平面形・方向〕長径5.0m×短径4.5m×深さ0.4m程度の規模の長円形乃至楕円形を呈す。長軸方向（それは炉の長軸方向、さらには炉と掘り込み部の延長方向にも一致）は、ほぼ磁北に一致する。

〔堆積土〕他と同様にシルト質で、しまり・粘性ともに若干ある暗褐色土が、ほぼ一様に見られる。特異現象は観察できない。

〔床面〕巨礫・焼土・旧遺構の床面たる凹部などが見られる他は、ほぼ平坦である。貼り床等の事業は施こされなかったと思われる。

〔柱穴〕可能性あるピットは、すべて床面上に検出し、壁外に見られない。ピットは10あるが、うちP₅・7はかなり浅く、柱穴の可能は薄い。P₃・8には礫が入る。その配置は床面中央からやや壁寄りになるものが多いようである。S₁が柱穴関連のものである可能性もある。P₁₀・11は壁直下にあり、しかも深い。これらは出入口に関連するものかもしれない。



第16図 Db59住居跡実測図

Pit 周溝No.	上 径	底 径	深さ(m)	備 考
P 1	$0.3+\alpha$ $\times 0.15$	0.22×0.12	0.23	P ₂ に切られる?
2	0.4×0.35	0.4×0.25	0.21	斜位
3	0.4×0.35	0.24×0.18	0.36	覆土中に礫数個
4	欠 番			
5	0.4×0.38	0.25×0.22	0.07	掘り込み部関連 か?
6	0.32×0.16	0.12×0.12	0.32	斜位
7	0.3×0.22	0.2×0.15	0.15	
8	0.55×0.55	0.46×0.38 0.15×0.12	0.37	中段あり、下位 か柱あたりか?
9	0.45×0.38	0.24×0.18	0.19	
10	0.32×0.3	0.27×0.22	0.33	壁直下
11	0.3×0.28	0.17×0.14	0.57	"
周溝 1	平均 0.2	平均 0.07	0.1	断続 4 本
2	平均 0.2~ 0.15	平均 0.1~0.7	0.05	"

〔炉〕 燃烧部たる石囲い炉と、それに連結する掘り行き相当部からなる。床面中央からは明らかに南へ寄る。その方向については既にふれた。前者は基本的には礫を一重にめぐらしたもので、長方形プランに近い。その西南隅から斜位後方（SW方向）に一列の礫がのびる。東半にはその対応部が見られない。しかしこれらは所謂複式炉の掘り込み部(前庭部)に相当する可能性がある。P₅は掘り込みの痕ともとれる。その構築方法については断ち割りを実施しておらず不明であるが、礫の手前から凹みが始まることから、予め掘り込みをつくり、後に礫を据えたと思われる。

〔その他の施設〕 東南部を除いた部分に周溝が残る。巾0.2~0.1m×深さ0.1mで、比較的整っている。その底面に小ピットなどは見られない。

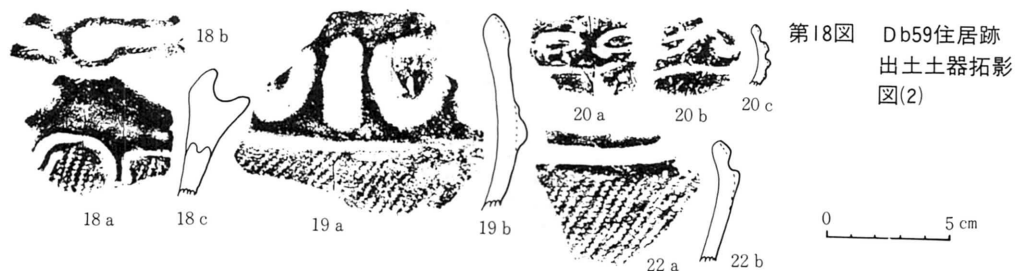
〔年代決定の資料〕 床面検出の土器類である。縄文時代中期と思われる。

〔遺物〕 (1) 土器類 床面上・炉などから得た土器はすべて破片である。それらはI a類(9)、I d類(6)、III b類(1)、V a類(3・4・7)、XII類(5)の各類からなる。他にIII~VII類のいずれかに該当する隆・沈線からなる体~底部破片も思われる。埋土中出土のものは若干数が多いが、I a類(11)、I c類(23)、I e類(12)、II a類(14・15・17)、IV類(18)、V a類(13)、VI類(22)、VII b類(19・20)、IX類(16)の各類からなる。これらは床面出土と大略同一傾向にあるとみなしてよい。なお、遺構の新旧と遺物のそれを厳密に照応さ



第17图 Db59住居跡出土土器実測図・拓影図(1)

No.	地台	層位	種別	形状	内面	外面				底面				胎土	焼成	
						色	調	目	線	目	線	目	線			目
1	P.1	体面	模・線 (横・11・体)	田字型		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
2	P.2	"	"	"		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
3	P.3	"	"	"		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
4	P.4	"	"	"		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
5	Q.1	内面	"	"		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
6	Q.2	内面	"	"		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
7	"	"	"	"		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
8	"	"	"	"		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
9	"	"	"	"		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
11	Q.4	P.1	模・線 (横・11)	点		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
12	"	"	"	"		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
13	"	"	"	"		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
14	Q.1	"	"	"		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
15	Q.3	"	"	"		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
16	Q.4	"	"	"		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
17	"	"	"	"		全面人字型 1SY R列幅 縦線										
23	Q.4	"	"	"		全面人字型 1SY R列幅 縦線										



第18図 Db59住居跡
出土土器拓影
図(2)

No.	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	焼成
					色調	調整			色調	調整				
						口縁	口頸	体底		口縁	口頸・肩	体上半		
18	Q 2	埋土	深鉢 (破・口)	IV ㊦	7.5Y R 8/2 灰褐 斑状に7.5Y R 8/2 黒褐使用痕	ミガキ 入念・平滑	—	7.5Y R 8/2 褐灰色	中突起、外反 端部に凹部 それ以下ミガキ	渦文(隆・沈線) 地文RL<↓↑	—	精良	良好	
19		埋土	" (")	VII b ㊦	7.5Y R 8/2 黄橙 胎土同一	ミガキ 剥落	—	7.5Y R 8/2 にふい橙色	平縁・内湾 渦文(隆帯)	縄文のみ? RL<↓↑	—	"	"	
20	Q 1	埋土	" (") 小型	VII b ㊦	7.5Y R 8/2 浅黄橙 胎土7.5Y R 8/2 褐灰	ミガキ	—	同左	"	"	—	"	"	
22		埋土	" (破・口)	VI ㊦?	5 Y R 8/2 橙 胎土5 Y R 8/2 褐 灰	ミガキ	—	同左	緩波状 端部凹みミガキ それ以下はRL<↓↑↔	—	—	粗砂	"	

せえなかったのは遺憾である。

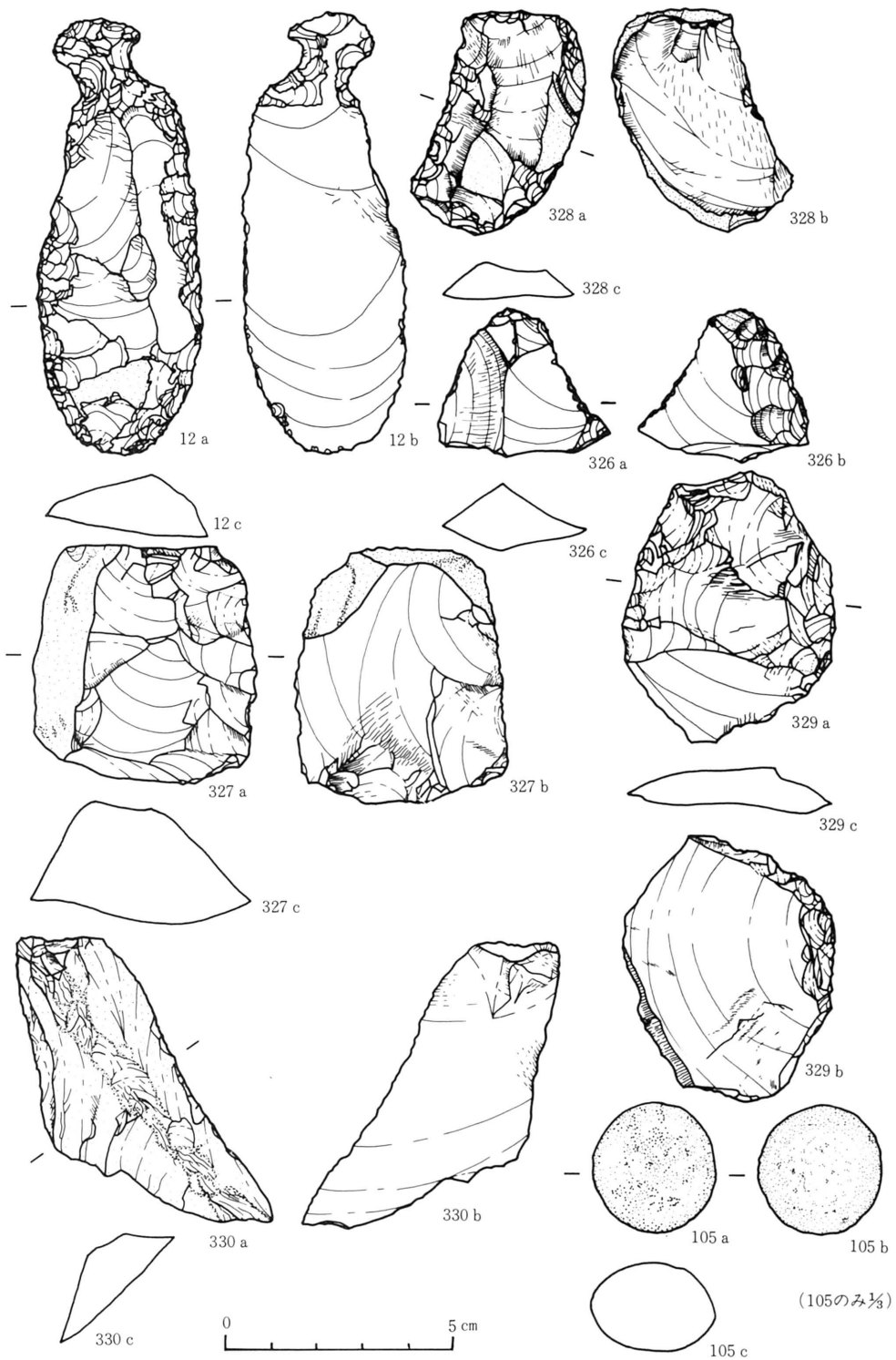
(2) 石器類 床面から21類(磨石) 1のみを得た。埋土からは種類・数量ともに多いものを得た。それらは5類(石匙B) 1、9類(両刃の不定形搔器) 2、10類(片刃の不定形搔器) 10などである。刃物的な器種が多いといえようか。

(2) Db59(旧)住居跡

〔平面形・方向〕壁は既に存在しないので、周溝を基準に復元すると、長径4.0m×短径3.5m×深さ0.2m前後の長円形乃至楕円形になると思われる。なお壁高は、(新)住居跡の検出面からの測定による。長軸方向は磁北にほぼ一致する。

〔床面〕(新)住居跡より0.05m程低いレベルにあったと思われるが、ほぼ平坦であったと思われる。貼床面は観察できない。

〔柱穴〕確実な例は把握はできなかった。周溝内側に限定するとP3・5・6・8などがあるが、3・6・8などがより可能性が高いと思われる。その配置からして(旧)のものとしうるが、同時に(新)のものとしても十分にあり得る位置でもある。したがって共用の可能性もあるとしておく。



第19図 Db59住居跡出土石器実測図

種 別	登録 番号	地点	層位	計 測 値 cm・g				材 質	分 類	破損	素材	断面	つまみと 加撃点	打面	技法	つまみ	アスフ アルト	
				た	よ	こ	あ											
石 匙	12	Q 4	埋土	9.5	3.5	1.35	38.3	凝灰質硬質泥岩	5類B?	a	Ⅲ	ハ	3	う	W	Y		
両刃の不定形撿器	328	Q 1	埋土	5.1	2.7	0.8	17.85	珪質泥岩	9 類	A	I	ロ		あ		P		
"	329	"	"	5.95	4.6	0.8	23.3	泥質極細粒凝灰岩	"	A	II?	ホ				P	O	
片刃の不定形撿器	325	Q 4	埋土	4.9	3.2	1.0	11.25	珪質極細粒凝灰岩	10 類									
"	326	"	"	3.7	3.4	1.4	12.65	珪質泥炭	"									
"	327	"	"	5.9	4.85	3.05	85.8	凝灰質硬質泥岩	"									
"	330	Q 1	"	8.15	3.2	1.1	26.15	硬質泥岩	"									
"	331	"	"	5.7	4.2	1.0	22.4	白色細粒凝灰岩	"									
"	332	Q 2	"	4.95	3.35	0.75	8.9	"	"									
"	210	"	"	7.8	2.9	1.5	29.4	硬質泥岩	10 類									
"	90	"	"	3.6	2.7	0.8	9.15	凝灰質珪質泥岩	"									
"	91	"	"	6.5	3.9	1.35	28.0	凝灰質硬質泥岩	"									
"	92	"	"	12.4	6.8	1.65	120.15	"	"									
磨 石	105	S 1	床面	5.7	5.3	3.8	140.0	石英安山岩完全品	21 類									

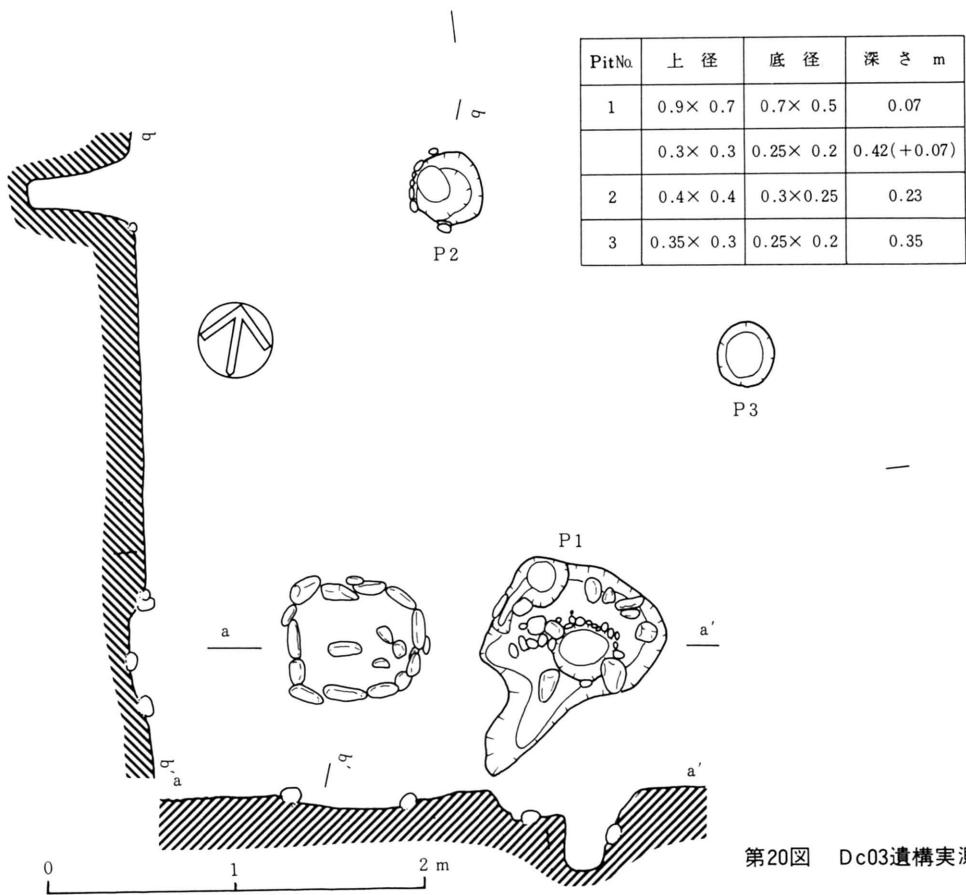
〔炉〕床面中央からやや南寄りに設けられる。所謂石囲い炉で、礫は一重、平面形は楕円形乃至長方形である。西縁の礫の一部を欠くが、抜き取りの結果か否かは不明である。右組みの周囲には一まわり大きな掘り込みがあり、炉構築法を示すものと思われる。

〔その他の施設〕南部を除いた部分に周溝の痕跡が観察できる。断続しているが、大略巾0.2m×深さ0.05m程度のものである。溝底部に小ピットなどは検出できない。なお、溝の断続状態に何らかの意味があるとも思われる。

〔年代決定の資料〕直接的な共伴遺物は得られないが、既述の(新)住居跡の年代観に近いものと考えて大過ないであろう。

D c03 遺構 (第20図、図版4)〔遺構の確認〕調査地のほぼ中央の、Ⅲ層上面に検出した。調査地内での比較的高位部でもあり、表土直下に検出されている。この部分のⅢ層には既に小礫が多く混じており、北端部の状況に似る。その面上に所謂石囲い炉1と、ピット類のみを検出した。石囲い炉はかなり乱れているが、長めの礫を一重にめぐらしたものである。以上のみからは、この遺構類を竪穴住居跡と見做しうるか否かは断定できず、表記の遺構名とした。ただ前者の立場をとると、径6m程度の竪穴住居跡ということになる。年代決定の資料たるべきものは得られていない。床面とも思われるレベルから黒耀岩の細片1を得ているのみである。

種 別	登 録 番 号	地 点	層 位	計 測 値 cm・g													
				た	よ	こ	あ	つ	さ	重	さ						
黒 耀 岩	3		床面?	2.65	1.2	1.85	2.55										



第20図 Dc03遺構実測図

D e 06遺構 (第21~23図、図版5) [遺構の確認] D e 03遺構の西隣であり、ほぼ同一である。

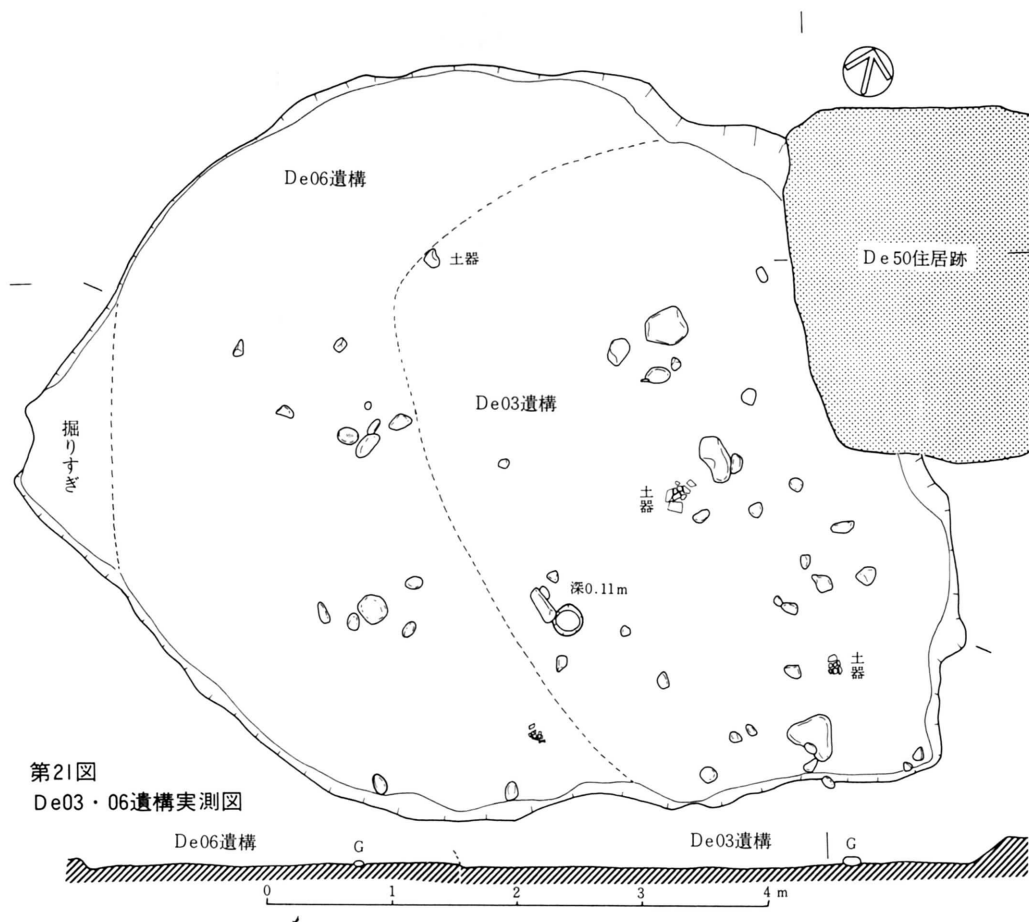
〔重複・増改築の事実〕既述の如く D e 03遺構と重複し、それが新規である。増改築に関する現象を観察できなかった。

〔平面形・方向〕これも重複・掘りすぎ等の要因が重なり、正確なそれを把握できないが、長径6.0以上×短径5.5m×深さ0.15m以上程度の規模の、長円形をなすものと思われる。方向は D e 03遺構よりもさらに西方に偏したものとなると思われる。

この他は D e 03遺構にほぼ同様であり省略する。

以上の二遺構には炉の痕跡(焼土・炉石・炉構築前の皿状の掘り込み等々)のいずれも観察できない。したがって住居跡とは強弁はしない。その平面形からすればその可能性は大と思われる。具体的な性格は想定できないが、住居跡以外の可能性もあるとしておく。

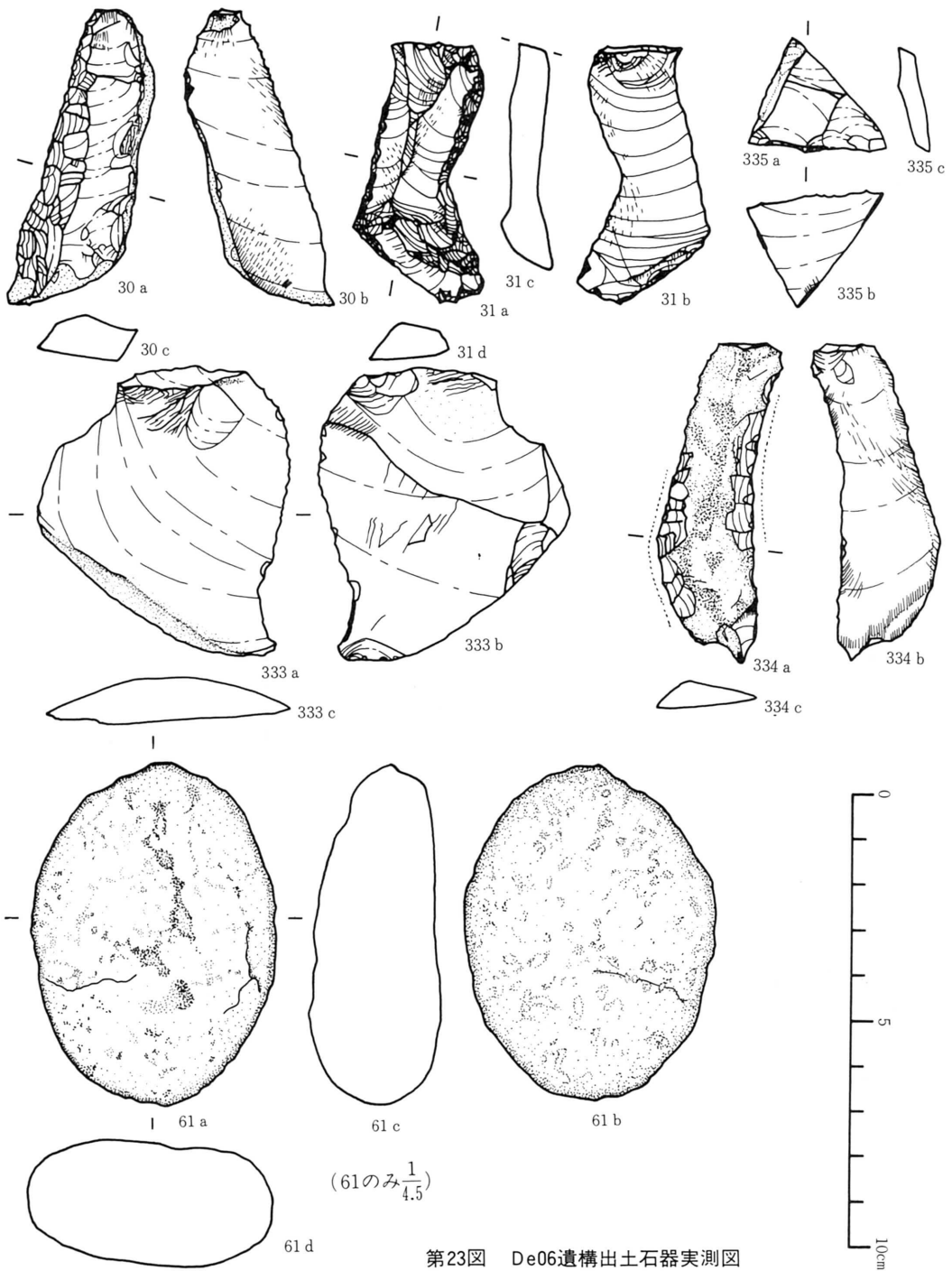
〔年代決定の資料〕床面出土の土器類である。縄文時代中期と思われる。



第21図
De03・06遺構実測図

〔遺物〕 (1) 土器類 少量の細片を得たのみである。床面上からの出土は相対的には多い方であり、それらはⅠa類(2)、Ⅱa類(6)、Ⅲb類(1・4・12)、Ⅴb類(5)、Ⅶb類(11)の各類からなる。埋土中検出のものも大略類似しⅡa類(8)、Ⅳ類(10)、Ⅵ類(7・9)などからなる。なお11は深鉢あるいは浅鉢の両様の可能性があろう。ここでは後者の可能性がより高いものと思われる。また5の内傾する口縁部には補修孔ともみえる孔が穿たれている。

(2) 石器類 床面上から10類(片刃の不定形搔器)1、20類(凹み石)1、の計2点を、埋土中から同じく10類2、7類(定形的搔器)2、の計4点を得た。7類が2点と、定形性を取ることができるものが「まとまった」形で出土したともみえる点のみは若干注意されるべきであろうか。他に床面上に流紋岩と石英安山岩の礫が検出されている。



第23図 De06遺構出土石器実測図

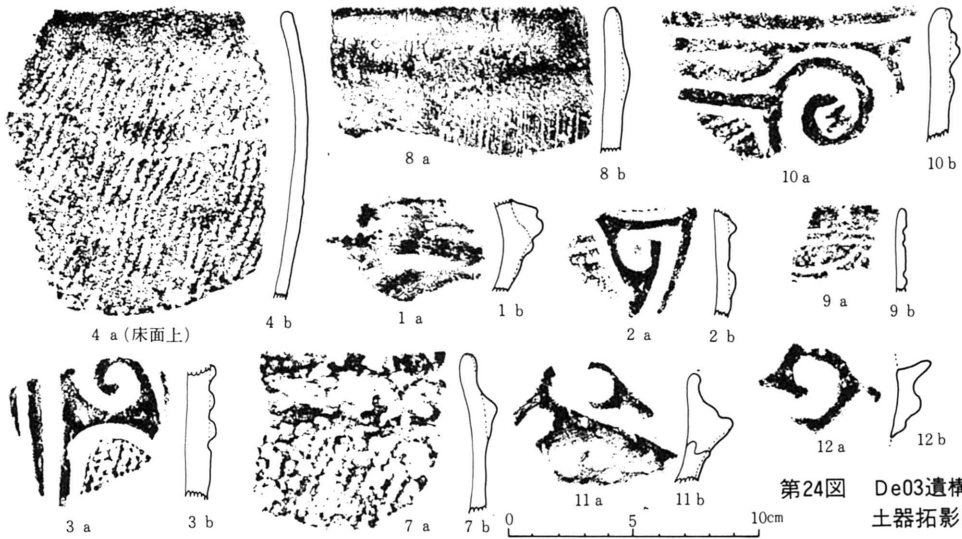
D e 03遺構 (第21・24・25図、図版5) 「遺構の確認」調査地中央やや南よりで、若干西方に偏した部分のⅢ層上面に検出した。調査地内の高位部から沢状の埋没谷地形へ降りていく緩斜面上である。

〔重複・増改築の事実〕西方においてD e 06住居跡と重複し(それより新規)、東方においてD e 50住居跡と重複している。D e 50住居跡がもっとも新規である。それ自体における重・改築については何らの資料も得られなかったので不明である。なおD e 06住居跡と分離・独立させた理由は、床面のレベル差(自然の傾斜においては西方が低くなるのに、高位になる段が存在すること)、輪郭の不自然さなどの理由による。長径5.0m×短径3.7m×深さ0.2m程度であろう。

〔平面形・方向〕遺構の重複・樹根等により正確な平面形は把握できないが、大略楕円形乃至隅丸長方形をなし、長軸方向はNW~SEをとるものと思われる。壁はかなり乱れている。

〔床面〕既述の如くに緩やかに西方に傾斜するものの、ほぼ平坦である。床面上に多数の礫が分布するが、その性格は不明である。

この他には住居跡付属の諸施設のいずれも観察できなかった。したがって標記の遺構名とした。

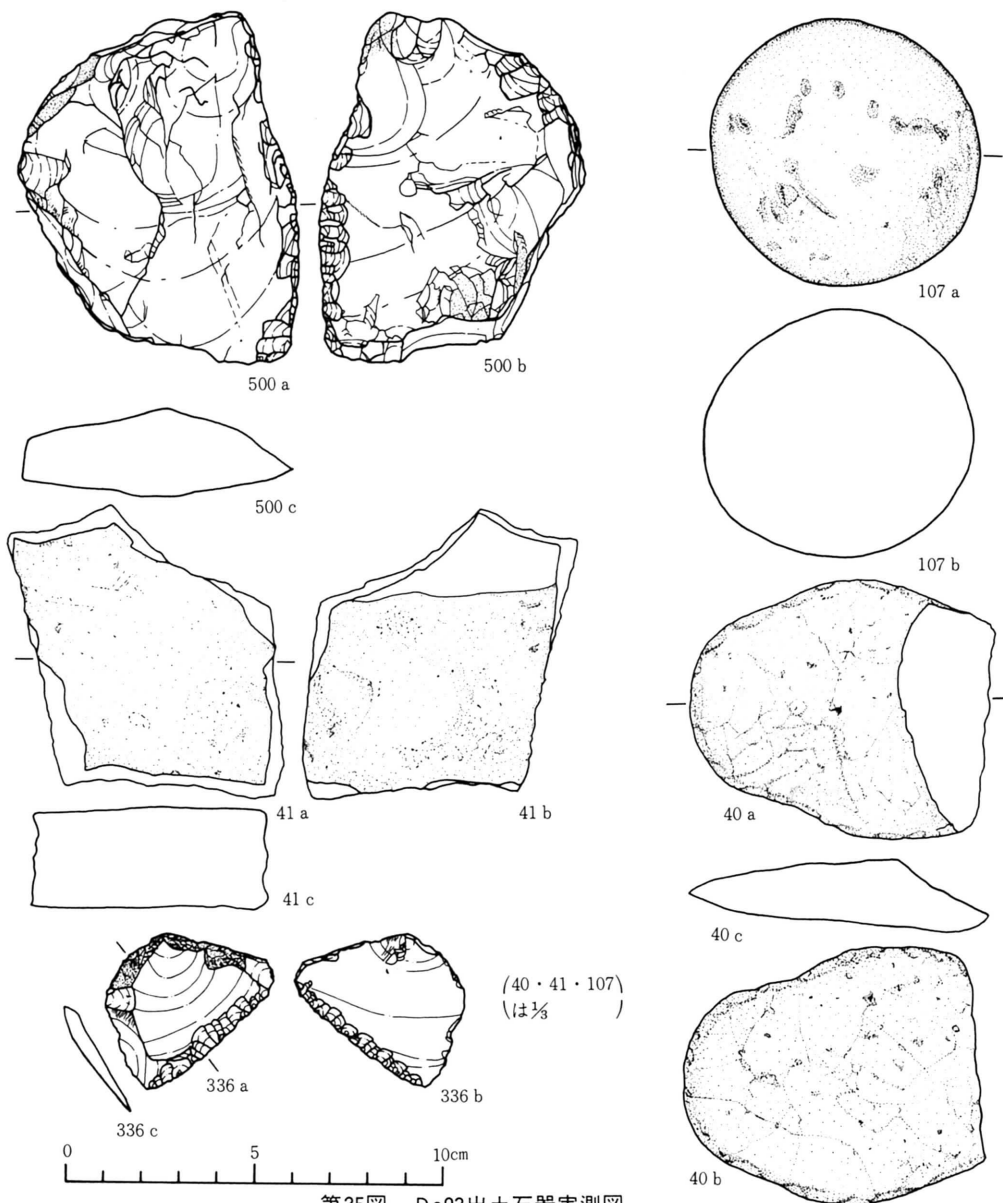


第24図 De03遺構出土器拓影図

No	地点	層位	種別	分類	内				外				土	組成		
					色	質	口	縁	口	縁	口	縁				
1	Q2	埋土	楕(楕・体)	青?	10Y R 5/6に20%黄緑 胎土10Y R 5/6単焼	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	10Y R 5/6焼成	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	小石	陶質
2	Q3	"	"	"	10Y R 5/6単焼 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6灰白	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	5Y R 5/6	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	小石	普通
3	"	"	"	"	10Y R 5/6に20%黄緑 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6灰白	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	10Y R 5/6に20%黄緑 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6灰白	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	精良	良好
4	床面	床	楕(楕・口)	I 4 3 空	5Y R 5/6明赤焼 胎土5Y R 5/6 10Y R 5/6焼成	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	10Y R 5/6 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	小石	不良
7	Q1	埋土	楕(楕・口)	目4空	10Y R 5/6焼成 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	10Y R 5/6 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	"	普通
8	"	"	"	"	10Y R 5/6単焼 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	10Y R 5/6 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	小石ある もはば普通	"
9	Q2	"	"	"	10Y R 5/6 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	10Y R 5/6 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	小石	普通
10	"	"	"	"	10Y R 5/6 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	10Y R 5/6 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	小石	普通
11	Q3	"	"	"	10Y R 5/6 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	10Y R 5/6 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	粗砂	良好
12	Q2	"	"	"	10Y R 5/6 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	10Y R 5/6 胎土10Y R 5/6 15Y R 5/6	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	口縁口縁	"	"

〔年代決定の資料〕少量ながら床面上に検出させた土器類である。縄文時代中期と思われる。

〔遺物〕 (1) 土器類 いずれも深鉢型の細片のみであり、少量である。床面上からは I a 類 (4) の 1 点のみを、埋土中からは II a 類 (7・8)、III b ? 類 (9)、IV 類 (11)、VII 類 ? (1・



第25図 De03出土石器実測図

種別	登録番号	地点	層位	計測値 cm・g				材質	分類	刃部	素材	断面	加え点	打面	技法	表皮	刃直し	その他
				たて	よこ	あつさ	重さ											
両刃の不定形石器	336	Q 3	埋土	4.55	3.2	0.4	7.75	凝灰質珪質泥岩	9類	A	II	口		あ		P		
"	500	"	"	9.1	6.8	3.1	165.2	松脂岩	"	A	I	イ		あ		O		
石皿	40		埋土	15.8	13.2	3.4	740.0	石質凝灰岩(中粒性)	19類	破	円盤状碟				周縁研磨			
"	41		床面	14.7	11.8	4.7	1670.0	淡緑色中粒砂質凝灰岩	"	破	板状							
磨石?	107		床面	14.5	14.3	14.7	2410.0	凝灰質砂岩、中新統中部	21類	完								

11)、さらに特定できないがⅢ～Ⅶ類のいずれかに該当する細片等を得た。

(2) 石器類 床面上から19類(石皿) 1、21類(磨石) 1が検出された。この組みあわせはその想定される機能からして当然と思われるものであろう。埋土中からは同じく19類1、9類(両刃の不定形搔器) 2、の計3点を得た。両刃が多い点は若干注意させるべきであろうか。また石材に松脂岩を含む点も同様である。

D f 09住居跡(第26～32図、図版6・7) [遺構の確認] 調査地中央やや南寄りの、やや西に偏したⅢ層上面に検出した。既述の沢状の埋没谷に降る西面斜面と、南面斜面上にのる。したがって壁高は西・南面部が極めて低くなる。

[重複・増改築の事実] いずれも観察できず、単期のものと思われる。

[平面形・方向] 調査の不備から西・南部壁を掘りすぎてしまい、正確な形状は知りえない。まことに遺憾である。遺構検出時の観察からすると長径5.3m×短径4.3m×深さ0.2m程度の規模をもつ巾広の卵形乃至楕円形を呈していたと思われる。長軸の方向は磁北より若干西にふれるようである。

[堆積土] 壁高が極めて浅い故もあり、シルト質の暗褐色土がほぼ一様に堆積していたのみである。なお現壁高は本来のそれよりかなり浅いものと思われる(自然的・人為的削平のため)。

[床面] 既述の理由から床面はそれぞれ両方向へ若干傾斜しているが、面上には凹凸もなく、比較的平坦に近いものといえる。土器類・礫が散布している。

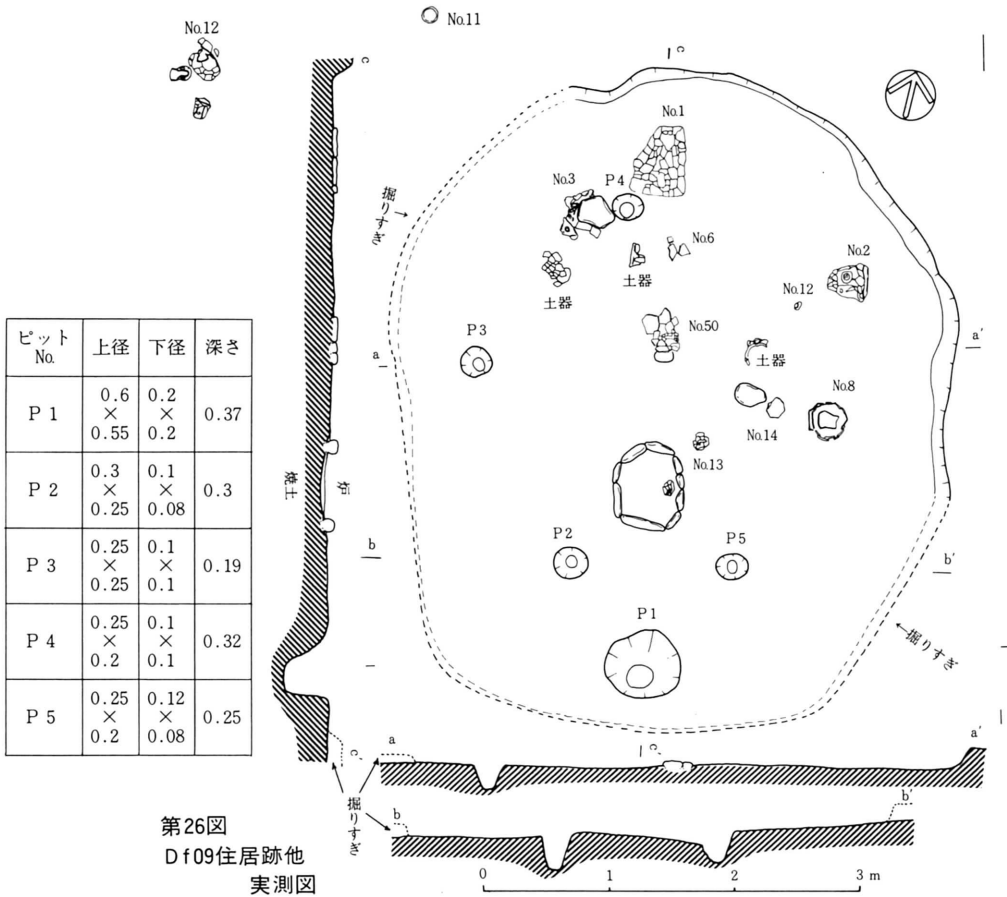
[柱穴] 壁外周縁には検出できず、床面上にのみ5個確認した。P₁のみ若干大型・深めであるが、他の4個は大略類似した規模をもつ。4個の配置は炉の北・西北・西南・東南にあたり、東北部の欠落のみが異常に見える。したがって調査上のミスから確認しえなかった可能性もある。P₁の性格には疑問がある(後述)。

[炉] 床面中央の若干南寄りに1基のみを検出した。長めの礫を一重にめぐらした所謂石囲い炉である。断ち割りを実施しなかったため礫の構築法は不明であるが、炉の部分全体をあらかじめ若干掘り凹め、そこに礫を据えたものと思われる。炉床は焼けしまっている。また角ばった礫1も見られた。P₁は炉とセットをなす掘り込み(前庭部相当)と考えておく。

[その他の施設] 周溝・出入口他は検出できない。既述の如く床面に礫が数個見られ、うち1個は土器No.9の中にのっている。したがって当住居跡に本来的に備えつけられていたものとは考えないでおく。

[年代決定の資料] 既述の床面上検出の土器類である。縄文時代中期と思われる。

[遺物] (1) 土器類 既述のとおり埋土が浅いことから、出土遺物の大半は床面出土であり、しかも復元可能資料が多い。それらはⅡa類(1・6・12・14・50)、Ⅲa類(16)、Ⅲb

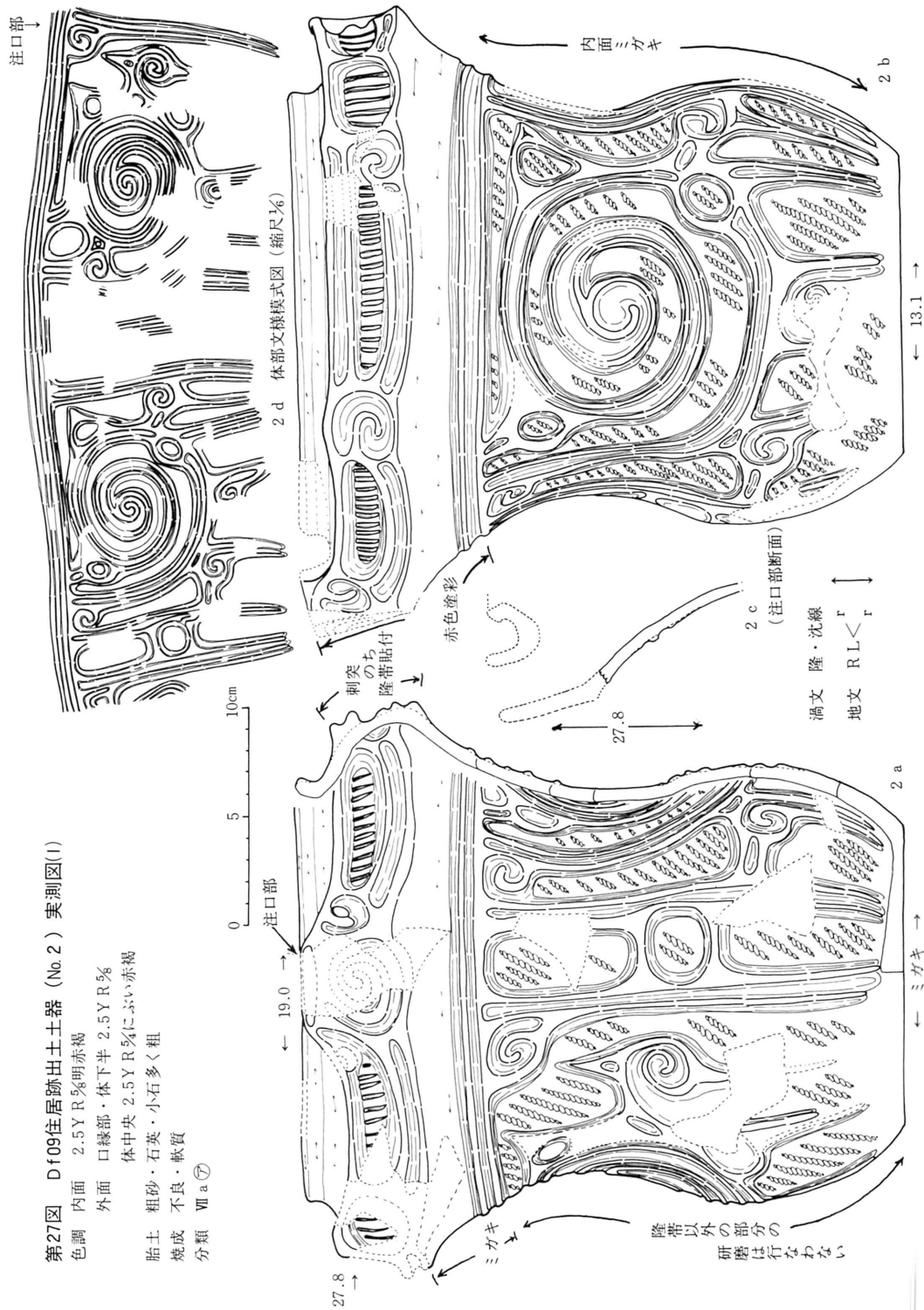


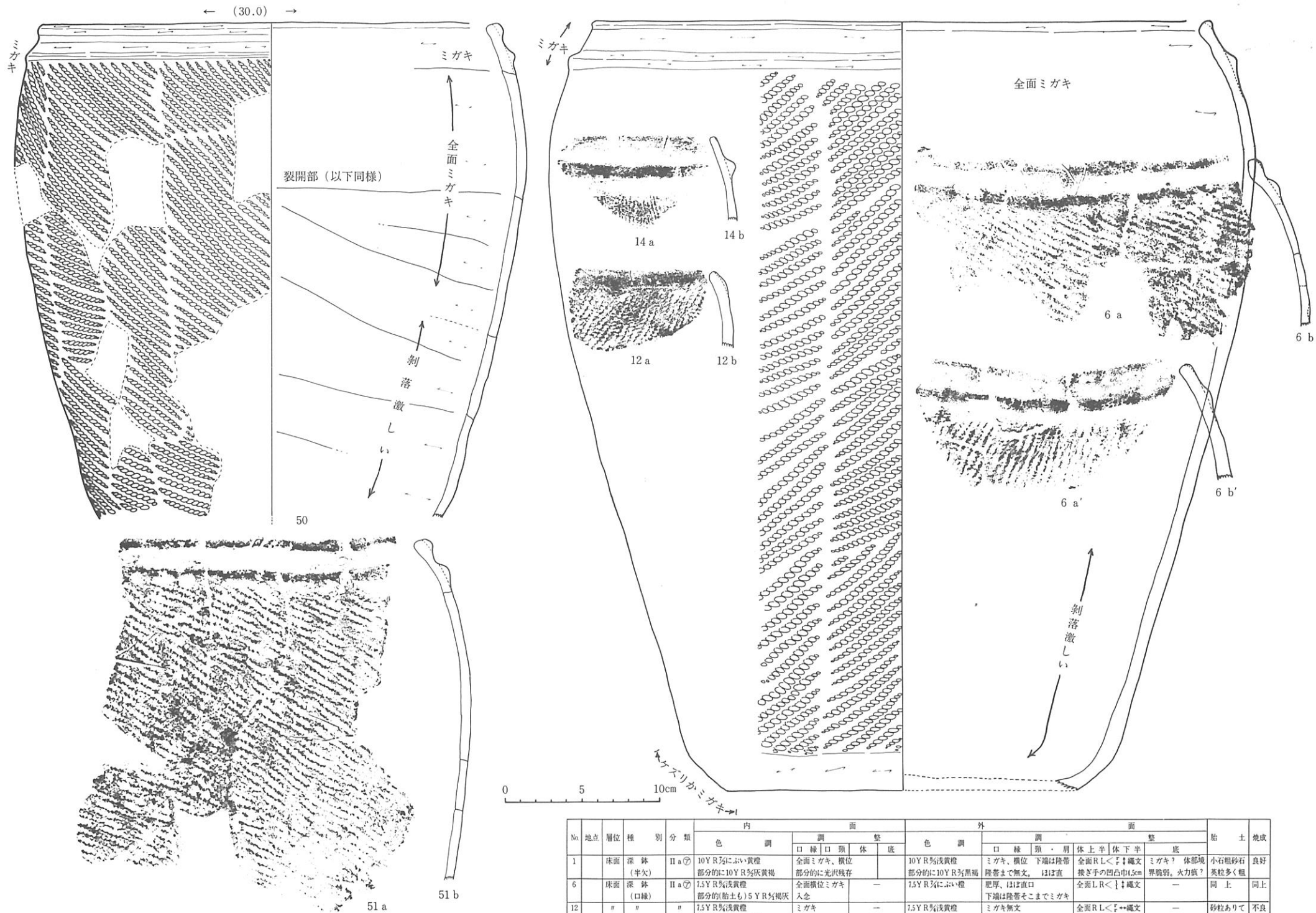
類(4・8?), VI類(15・17)、VII a類(2・3)、からなる。これらはその出土状況からして、土器組成の内容の一部を良好に反映しているものとみなしうる資料であろう。埋土中よりはII a類(51)など若干量が得られたにすぎない。

(2) 石器類 土器の豊富さに比し、極めて貧弱である。いずれも床面からで、3類(石鏃B) 1、10類(片刃の不定形搔器) 1の2種2点である。後者には剥離痕はほとんど見られず、あるいは使用痕ある剥片とした方がよいかもしいものである。

第27図 Df09住居跡出土土器 (No.2) 実測図(1)

色調 内面 2.5Y R 5/明赤褐
 外面 口縁部・体下半 2.5Y R 5/
 体中央 2.5Y R 5/にぶい赤褐
 胎土 粗砂・石英・小石多く粗
 焼成 不良・軟質
 分類 VII a ⑦

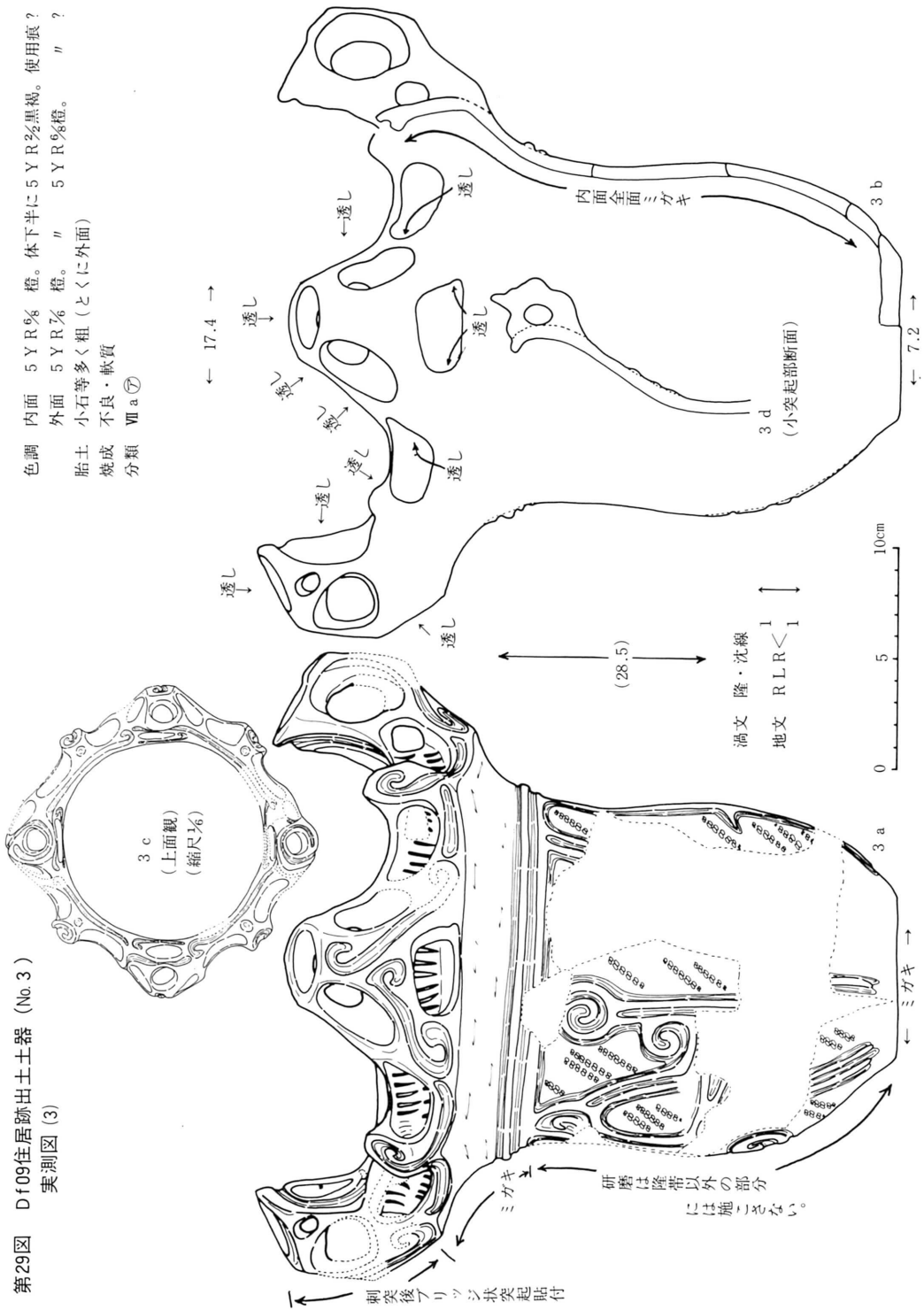




第28図 Df09住居跡出土土器実測図・拓影図(2)

No	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	焼成
					色調	口縁	口頸	体底	色調	口縁	頸・肩	体上半		
1		床面	深鉢 (半欠)	II a ㊟	10Y R 5/6 黄橙 部分的に10Y R 3/6 灰黄褐	全面ミガキ、横位 部分的に光沢残存			10Y R 5/6 浅黄橙 部分的に10Y R 3/6 黒褐	ミガキ、横位 下縁は陰帯 陰帯まで無文。ほぼ直	全面R L < ↓ ↓ 縄文 接ぎ手の凹凸巾4.5cm	ミガキ? 体部境 界脆弱。火力痕?	小石粗砂石 英粒多く粗	良好
6		床面	深鉢 (口縁)	II a ㊟	7.5Y R 5/6 浅黄橙 部分的(胎土も) 5Y R 3/6 褐灰	全面横位ミガキ 入念			7.5Y R 5/6 黄橙	肥厚、ほぼ直口 下縁は陰帯ここまでミガキ	全面R L < ↓ ↓ 縄文	—	同上	同上
12		"	"	"	7.5Y R 5/6 浅黄橙 胎土7.5Y R 1.7/1 黒	ミガキ			7.5Y R 5/6 浅黄橙	ミガキ無文 薄化	全面R L < ↓ ↓ 縄文	—	砂粒ありて やや精	不良 軟質
14		床面	深鉢 (破・口)	II a ㊟	7.5Y R 5/6 黄橙	ミガキ剥落			7.5Y R 5/6 灰褐	内傾、ミガキ	—	地文のみ。捺糸文?	粗砂	良好
50		"	"	"	"	" 裂開部			"	"	—	地文のみ R L < ↓ ↓	"	"
51		埋土	"	"	"	"			"	"	—	"	"	"

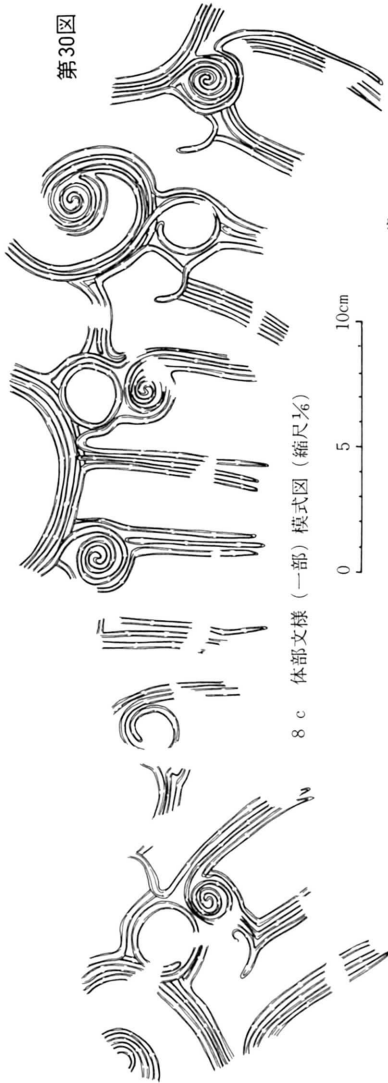
第29図 Df09住居跡出土土器 (No.3)
実測図 (3)



第30図 Df09住居跡出土土器 (No. 8)

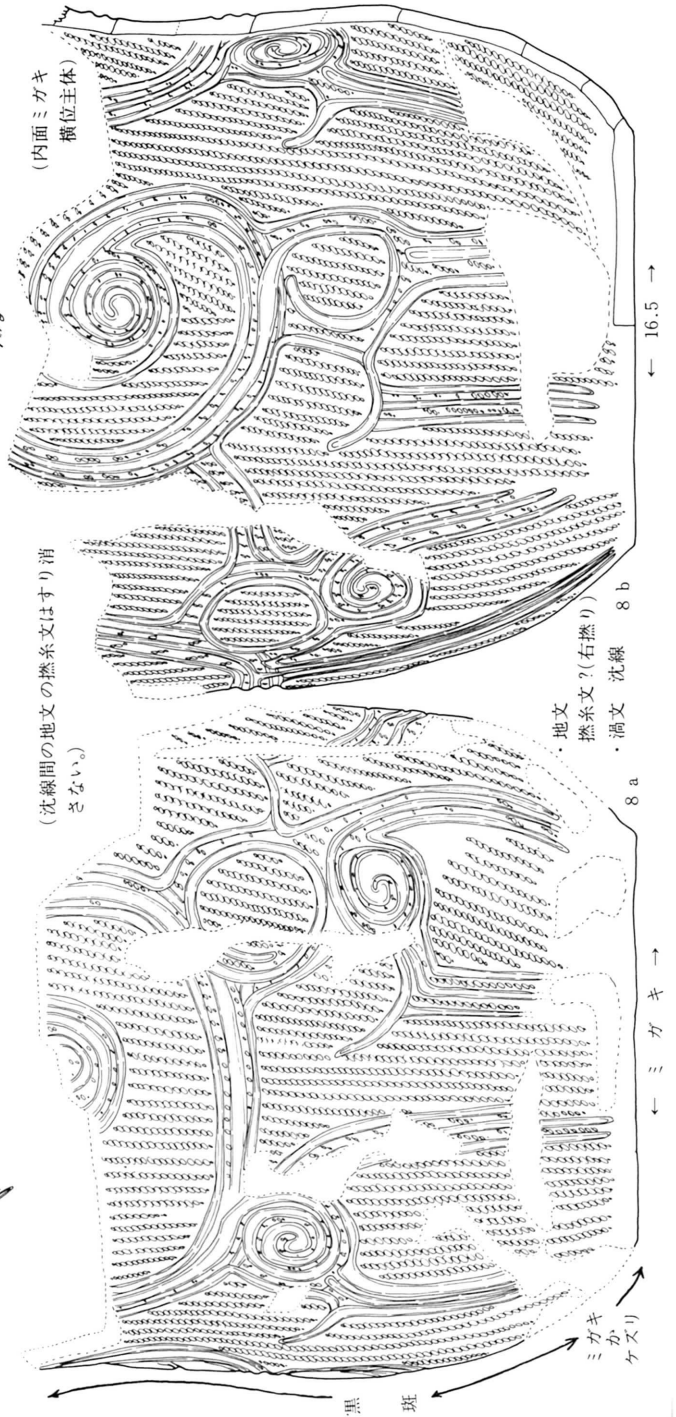
実測図(4)

色調 内面 7.5Y R 4/6 にぶい橙
 胎土 2.5Y 多黄 灰
 外面 7.5Y R 4/6 にぶい橙
 斑状に 7.5Y R 4/6 褐灰
 胎土 小石等あるもほぼ精良
 焼成 良好、硬質
 分類 III b ㉞?



8c 体部文様 (一部) 模式図 (縮尺 $\frac{1}{6}$)

0 5 10cm



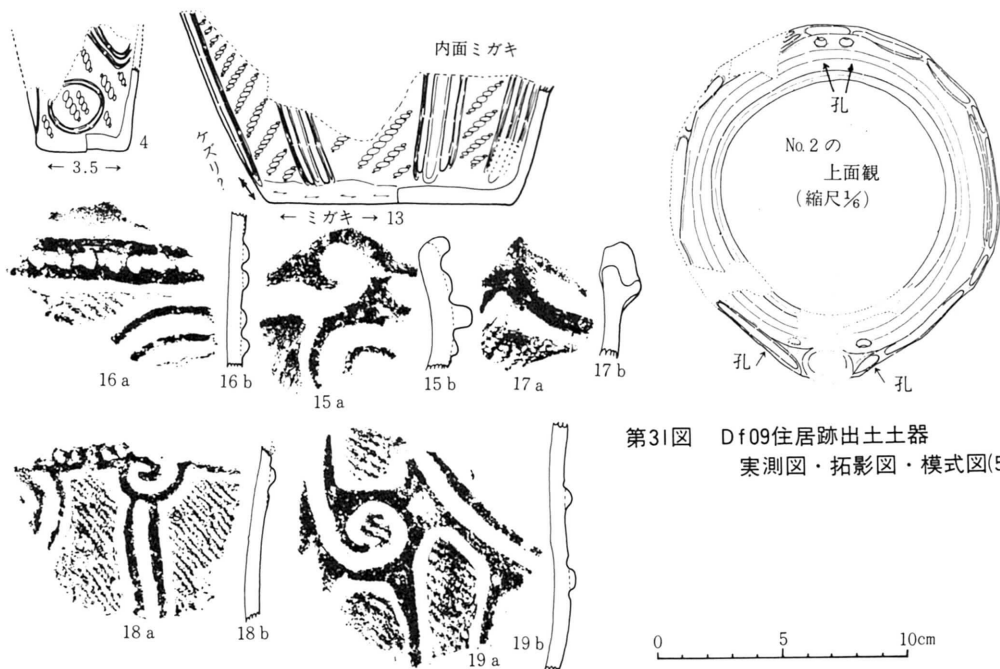
(内面ミガキ 横位主体)

(沈線間の地文の燃糸文はすり消さない。)

地文
 燃糸文?(右燃り)
 渦文 沈線

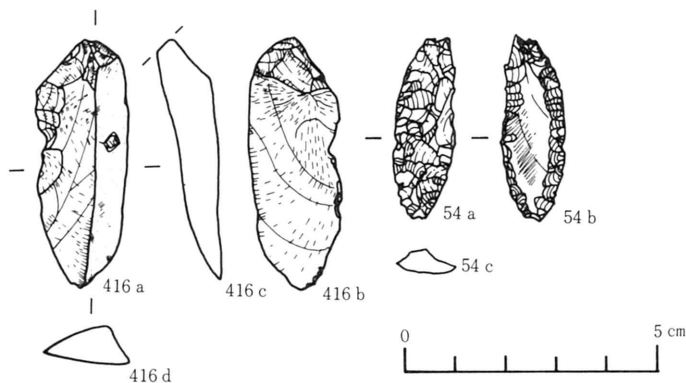
黒斑

ミガキ
 カケ
 ケズリ



第31図 Df09住居跡出土土器
実測図・拓影図・模式図(5)

No	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	焼成				
					色	調	口縁	口縁	体	底	色	調			口縁	口縁	体	下半
4			鉢(複元可)	III b ⊙	5 Y R 5/1 に近い赤褐色	上平子デカミガキ	ミガキ	ミガキ	5 Y R 5/1 程度	部分的に 5 Y R 1.7/1 黒	口縁	口縁	体	下半	下半	ミガキ	石炭粗粒	同上
13			深鉢	—	7.5 Y R 5/1 に近い褐色	—	ミガキ	ミガキ	7.5 Y R 5/1 程度	部分的に 7.5 Y R 5/1 程度	—	—	—	—	—	—	—	—
15			深鉢	VI ⊙	7.5 Y R 5/1 に近い褐色	—	ミガキ	多孔質	—	同左	—	—	—	—	—	—	—	—
16			—	III a ⊙	7.5 Y R 5/1 程度	—	—	—	—	7.5 Y R 5/1 程度	—	—	—	—	—	—	—	—
17			—	VI ⊙ ?	5 Y R 5/1 程度	—	—	—	—	同左	—	—	—	—	—	—	—	—
18			埋土	—	5 Y R 5/1 赤褐色	—	—	—	—	同左	—	—	—	—	—	—	—	—
19			—	—	7.5 Y R 5/1 程度	—	—	—	—	7.5 Y R 5/1 程度	—	—	—	—	—	—	—	—



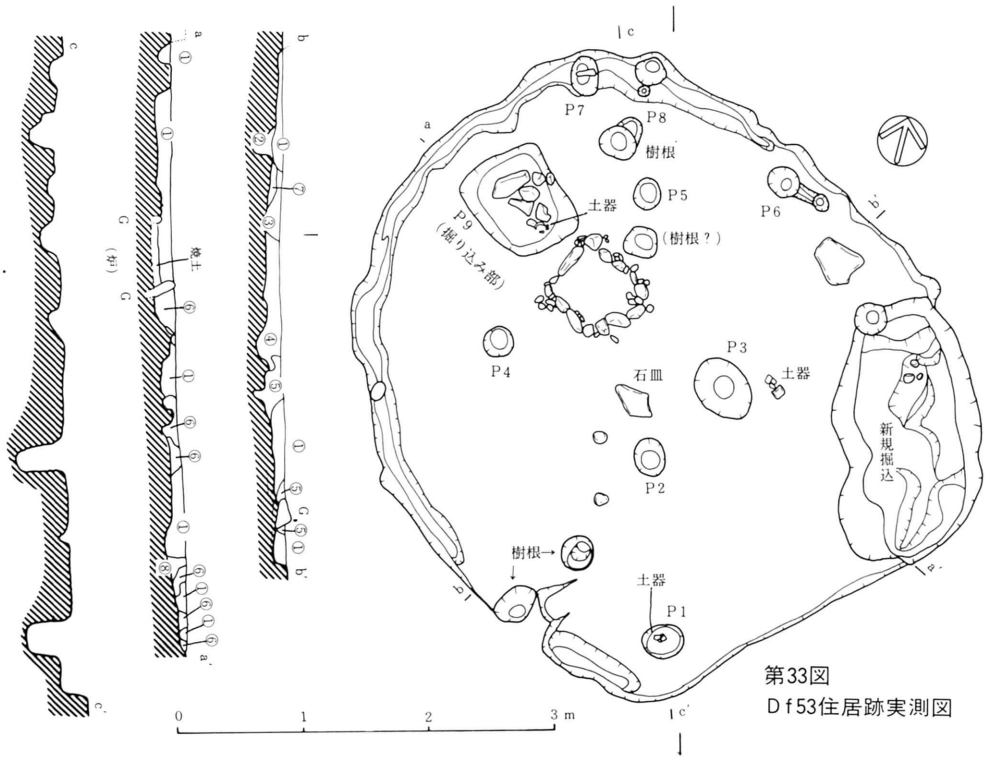
第32図 Df09住居跡出土石器実測図

種別	登録番号	地点	層位	計測値 cm ; g				材質	分類	破損	素材	断面	加撃点	打面	技法	つまみ	アールスト
				たて	よこ	あつさ	重さ										
石 鉄	54		床面	3.75	1.2	0.5	2.25	凝灰質珪質泥岩	3類B-②	b	ハ			IV			
片刃の不定形搔器	416		床面	5.0	1.85	0.8	8.2	凝灰質硬質泥岩	10類								

D f 53住居跡（第33～35図、図版8）〔遺構の確認〕調査地の中央やや南寄りで、Ⅲ層上面に検出した。調査地内での比較的高位部にあたり、表土直下に確認された。

〔重複・増改築の事実〕東南部において新規の掘り込み（性格不明で、比較的最近のものと思われる。覆土がⅠ層とまったく同一で、殆んどしまりをもたないことによる）と重複するが、両者の時間差は大きいと思われる。その他の重複・増改築の事実はなく、単期のものと思われる。

〔平面形・方向〕前記の重複により、その形状を正確に知りえないが、長径4.8m×短径4.3m×深さ0.1m程度の規模の卵形乃至長円形的なものであったと思われる。炉の長軸方向を基準とすればNW～SEの方向へのびる。



第33図
D f 53住居跡実測図

Pit No.	上 径	底 径	深さ(m)	備 考
1	0.33×0.26	0.25×0.2	0.33	土器片
2	0.3 ×0.25	0.15×0.15	0.36	
3	0.55×0.4	0.17×0.15	0.26	
4	0.24×0.24	0.15×0.12	0.49	
5	0.25×0.2	0.15×0.12	0.57	
6	0.27×0.23	0.1 ×0.07	0.26	
7	0.3 ×0.21	0.15×0.1	0.17	
8	0.25×0.2	0.1 ×0.07	0.1	
9	0.83×0.7	0.68×0.5	0.12	土器片、礫

- ①暗褐色土 粘性ないがしまる
南方ほどⅢ粒子混入
- ② " ①よりやややすめ、他は同一
- ③ " ①より暗い、炭化物粒子混入
- ④ " ③に似るが、粘性強い
南方に焼土粒子あり
- ⑤極暗褐色土 炭化物粒を混ざる
- ⑥黒褐色土 軟質
- ⑦汚れたⅢ層土ブロック
- ⑧褐灰色土 しまりあり、非常に硬い
最近の杭のあとか？

〔堆積土〕色調のみが異なるものの、基本的性質はよく類似した暗褐色系統のシルト質土が堆積していた。現状での壁高がきわめて低いので、これ以上のことは不明である。

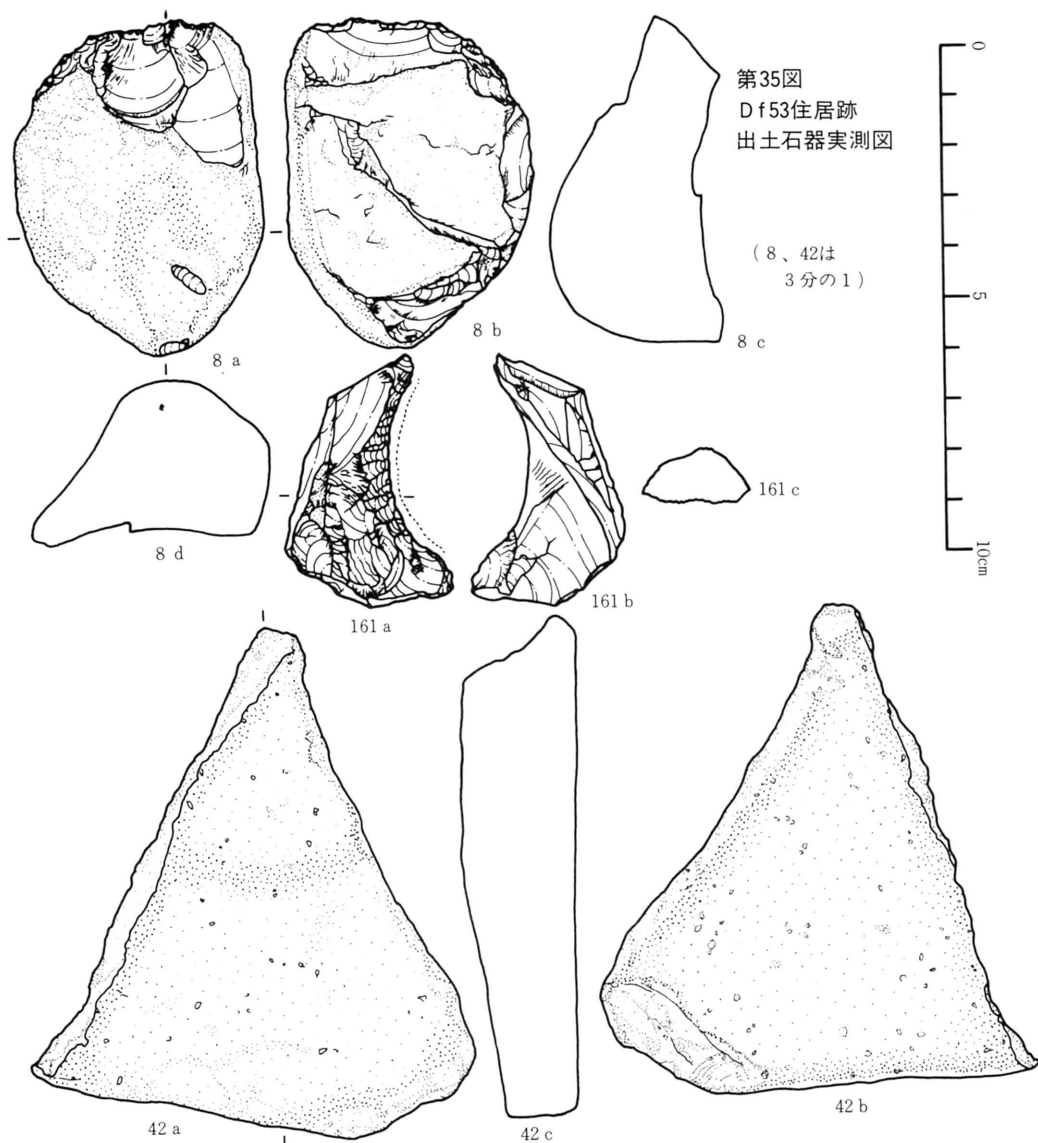
〔床面〕植物根の痕跡と思われる小凹凸が多いものの、基本的には平坦なものであったと思われる。貼床などの特別な現象は観察できない。なお石皿破片が存在した。



第34図 Df 53住居跡出土土器拓影图

No.	層位	種別	分類	西				南				地土	地成		
				色	調	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁				
1	床面	漆・紅・白	1 × 1	10Y R 5/2-6.5 黄褐色 粘土 10Y R 5/2-6.5 黄褐色	全面大塗シガキ単位主体 細クラック	---	---	---	---	---	---	---	---	小石	良好 硬質
2	"	"	1 × 1	10Y R 5/2-6.5 黄褐色 粘土 10Y R 5/2-6.5 黄褐色	同上	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
3	"	"	1 × 1	10Y R 5/2-6.5 黄褐色 粘土 10Y R 5/2-6.5 黄褐色	同上	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
4	"	"	Y × 2	10Y R 5/2-6.5 黄褐色 粘土 10Y R 5/2-6.5 黄褐色	同上	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
5	"	"	"	5Y R 5/2-6.5 黄褐色 粘土 5Y R 5/2-6.5 黄褐色	同上	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
6	"	"	"	10Y R 5/2-6.5 黄褐色 粘土 10Y R 5/2-6.5 黄褐色	同上	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
7	中西側 廊下	"	"	5Y R 5/2-6.5 黄褐色 粘土 5Y R 5/2-6.5 黄褐色	同上	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
8	"	"	"	5Y R 5/2-6.5 黄褐色 粘土 5Y R 5/2-6.5 黄褐色	同上	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
9	障子	"	"	5Y R 5/2-6.5 黄褐色 粘土 5Y R 5/2-6.5 黄褐色	同上	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
10	"	"	"	5Y R 5/2-6.5 黄褐色 粘土 5Y R 5/2-6.5 黄褐色	同上	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
11	Q 4	"	Y × 2	5Y R 5/2-6.5 黄褐色 粘土 5Y R 5/2-6.5 黄褐色	同上	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
12	"	"	"	5Y R 5/2-6.5 黄褐色 粘土 5Y R 5/2-6.5 黄褐色	同上	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"

〔柱穴〕樹根と思われるものを除外すると、計6ヶ検出したが、いずれも床面上にあり、壁外周には確認できなかった。床面上のものは深さ0.3cm前後以上(最深0.57m)あり、かなり深くしっかりしており、規模には共通性がある。P₃のみは若干大型である。その配置は整然としたものではないが、床面ほぼ中央、炉の周囲、壁際という3部位が存在する、とも見える。



種別	登録番号	地点	層位	計測値 cm・g				材質	分類	破損	素材	断面	加撃点	打面	技法	つまみ	アスツ
				たて	よこ	あつさ	重さ										
ノッチ	161		埋土	4.89	3.1	0.8	13.55	凝灰質珪質泥岩	8類	a	III	イ		う	w		
片刃石器	8		埋土	12.8	9.05	7.3	836.0	硬質泥岩	14類				巨礫の短辺に刃部、表皮残存				
石皿	42	周溝		19.1	15.2	4.5	1,590.0	複輝石安山岩	19類	破、板状							

〔炉〕床面中央から北西部寄りに検出した。所謂石囲い炉（燃焼部）とそれにほぼ連結する掘り込み部からなる。前者の構築法は明らかにしえなかったが、石囲いよりやや大きめの掘り込みをあらかじめうがち、そこに礫を埋置したものらしい。礫は細長い大型のものと小型のものを併用している。形状はかなり崩れているが、隅丸長方形乃至狭長なカマボコ型（短軸の一方が直線的、他方が湾曲）をなすものと思われる。後者は長方形乃至長台形的なプランをもつ浅い掘り込みであり、その中に礫と土器片をもつ。礫は原位置を保っておらず、詳細不明である。

〔その他の施設〕西半部のみに周溝が残存した。巾0.2m×深さ0.1m程度である。北部においてP7・8が周溝中に存在する。両者は0.2m以下と床面上のピットに比しかなり浅い。あるいはこれらは壁関連の施設の痕跡と見做すべきかもしれない。なお本遺構の西半部は壁をほとんど残存せず、プランを周溝で判然せざるをえなかった。

〔年代決定の資料〕床面上・炉の掘り込み部他出土の土器類である。縄文中期と思われる。

〔遺物〕(1) 土器類 深鉢型の破片の若干量を得たのみである。床面上・掘り込み中からはI a類(1)、I e類(2)、V a類(4)、VI類(3)を、さらに特定できないがIII類～VII類中のいずれかの体部破片を得た。うち1には土器成形時の粘土紐の接ぎ手痕が明瞭に残存する。

埋土出土例は少ないが、V b類(11)、VI類?(12)などが、さらにこれらも特定できないがIII～VII類いずれかの破片などが検出されている。床面出土例に共通しよう。

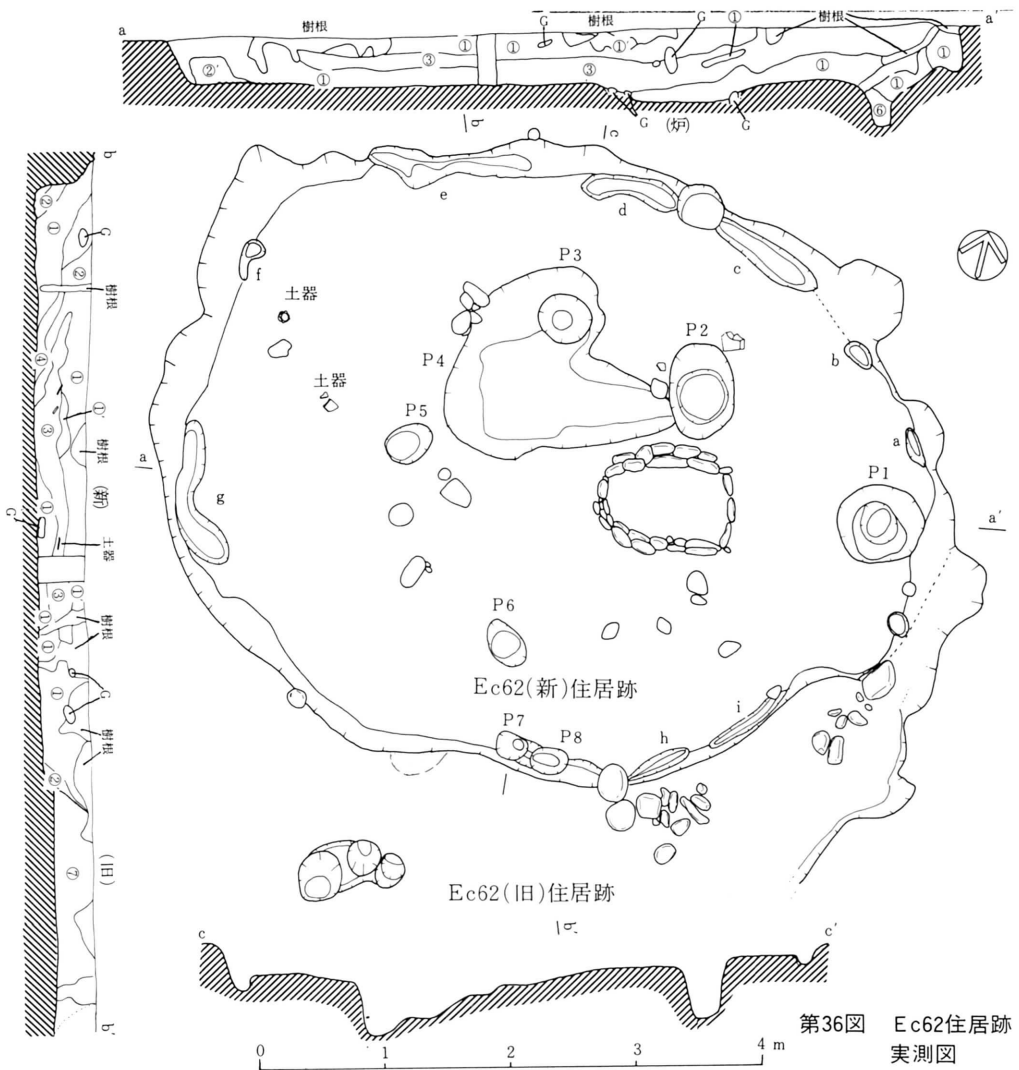
(2) 石器類 床面からは19類(石皿)1を得た。現状では周溝中に検出されたが、原位置を動いたものであろう。埋土からは8類(ノッチ風の搔器)1、14類(片刃石器)1を得た。

E c 62住居跡(第36～47図、図版9・10) 〔遺構の確認〕調査地南端近くの、III層上面に検出した。南方直近の位置に段丘崖をひかえる段丘面の南縁部で、ほぼ平坦である。

〔重複・増改築の事実〕東南部においてE d 65住居跡と重複し、それより新規であり、南部においてE d 62住居跡と重複し、それより古期である。さらに調査の不備のため詳細不明であるが、その南部においてさらにもう1棟の竪穴住居跡と重複しており、それをE c 62(古)住居跡とした。両者の関係が増・改築でないことだけは確実である。(古)についてはその大部分が(新)により破壊されているので詳細不明である。その床面が(新)より0.1m程高位にある点のみを特記し、他は省略する。以下にE c 62(新)住居跡について記述する。

〔平面形・方向〕長径6.5m×短径5.0m×深さ0.4mの規模の長円形乃至楕円形をなす。長軸方向(炉の長軸方向とも一致)は東西方向である。壁の凹凸は掘りすぎによるものである。

〔堆積土〕既述のように壁高が比較的深いことから、観察を容易に行ないえた。シルト質で暗褐色～黒褐色の土層が主体をなし、下位に行くにしたがいそれに基盤の橙色シルト質土が混じる割合が増す。樹根他の攪乱部もあるが、それ以外には特異な堆積状況は観察できない。ただし、堆積土中に焼土のブロック・土器片などが集中する事実もあり、廃絶後の遺構に対し



第36図 Ec62住居跡
実測図

①	暗褐色土	しまりあり、粘性若干あり、土器・炭化物を混じる
①'	"	①+焼土粒
②	"	①よりしまり弱い、他は類似
②'	①+基盤シルトブロック	後者は崩土の可能性ある
③	黒褐色土	しまり、粘性ともにあり、全般的に土器片・焼土粒混入
④	"	③より若干うすい、しまりもない
⑤	"	④に色調似るもしまりある
⑥	暗褐色土	しまりなく、粘性若干ある。粒子は粗基盤シルトブロック混じる
⑦	"	E d 62(旧)住居跡覆土、しまり強く粘性あり、細粒、全般的に炭化物を含む
その他		いずればシルト質

Pi	周溝No	上 径	底 径	深さ(m)	備 考
P	1	0.7 × 0.7	0.45 × 0.4 0.22 × 0.15	0.34	中段あり、柱あたりか？ または掘り込み部関連か？
	2	0.75 × 0.5	0.42 × 0.42 0.35 × 0.35	0.35	"
	3	0.42 × 0.38	0.15 × 0.15	0.42	床面より
	4	1.8 × 1.65	1.6 × 1.1	0.2	不整、性格不明
	5	0.4 × 0.3	0.3 × 0.2	0.35	
	6	0.4 × 0.25	0.2 × 0.2	0.45	
	7	0.25 × 0.2	0.07 × 0.08	0.07	} 壁関連か？
	8	0.3 × 0.2	0.22 × 0.1	0.1	
	周溝 a	0.35 × 0.12	0.22 × 0.05	0.14	
	b	0.26 × 0.15	0.2 × 0.1	0.07	
	c	1.0 × 0.25	0.8 × 0.13	0.15	
	d	0.8 × 0.15	0.75 × 0.1	0.15	
	e	—	1.3 × 0.05	0.9	不整形
	f	0.35 × 0.15	0.1 × 0.1	0.05	ビット？壁関連？
	g	1.1 × 0.25	1.05 × 0.15	0.05	
	h	0.55 × 0.15	0.5 × 0.07	0.08	
	i	0.8 × 0.15	0.6 × 0.07	0.03	

て何らかの意図的行為が行なわれていた可能性もある。

〔床面〕 各種の掘り込み類・礫などが存在するが、基本的には平坦である。貼床等は確認できない。直上に土器（完全品1他）が残存する。

〔柱穴〕 壁外周部には検出できず、ピット類はすべて床面上に存在する。床面上には計8のピットを検出したが、支柱穴関連と思われるものはP₁～3・5・6と思われる。その深さは0.3m以上のもののみであり、かなり深い。P₁のみは、掘り込み部関連のものである可能性もある。

平面的配置は、壁からかなり床面中央に寄り、かつ炉を囲むかの如くである。P₇・8は後述の周溝中（即ち南壁に接する直下）にあり、かつ深さが0.1m前後と浅い。したがって柱穴ではなく、住居跡関連のものである可能性が高い。

〔炉〕 床面中央から若干東寄りに1基検出した。所謂石囲い炉のみで、明白な掘り込み部は伴わない。ただしその配置からして、P₁が関連する可能性が皆無でないことには既にふれた。平面形は東西に長い長方形乃至西辺が若干外湾する狭長なカマボコ型を呈す。細長い礫を埋設したと思われるが、東辺のみが一重で、他の3辺は二重乃至三重である。断ち割りを実施しないので詳細不明であるが、いったん掘り込みをうがってから礫を据えるものであったろう。

〔その他の施設〕 床面中央からやや北寄りに不整形・横長の掘り込み（P₄）を検出した。深さ0.2mあるが、その性格は不明である。次に、断続的ではあるが、周溝も存在する。ほぼ全周をめぐるが、壁西南部のみが、その中断部が長い。偶然か、何らかの意味があるかは不明である。床面上に完全土器1が見られる（既述）。

〔年代決定の資料〕 上述の土器類である。縄文時代中期と思われる。

〔遺物〕 (1) 土器類 新住居跡床面上からの出土例はIII b類? (14)、VII b類? (24)、その他の浅鉢に近いものの3例程度と少ない。最後者は調査後の不手際より所在不明となっており詳細を知り得ない。まことに遺憾である。写真によればVII類のカテゴリーに納めうるかとも思われる。

埋土中よりは比較的多量に出土し、それらはI a類 (25)、I e類 (15)、III b類 (33・34)、III c類 (16・35)、III d類 (39)、IV類 (7)、V a類 (18)、V b類 (11・13・17・19～21)、VI類 (6・8～10・12)、VII a類 (5)、VII b類 (1～4)、その他（袖珍的な無文の土器類）(26、36～38) などからなる。

古住居跡よりは、隆・沈線による渦文を有する体部破片1が出土した程度である。III類～VII類のいずれかであろうが、特定できない。

(2) 石器類 床面からは1類（原石・石核）1、3類（石鏃D）2、9類（石皿）1、の各種を得た程度である。大半は埋土中から得た。埋土からは土器と同様に多量出土をみた。この事実は住居廃絶後における、住居跡への投棄を反映したものとも考えられよう。それらは1類1、3類（A・C・D）4、5類（石匙）2、6類（石筥状）3、7類（定形的搔器）2、8類（ノッ

チ様) 1、9類 (両刃の不定形搔器) 4、10類 (片刃の不定形搔器) 24、14類 (片刃石器) 1、13類 (両刃石器) 2、16類 (石鋏?) 1、20類 (凹み石) 6、21類 (磨石) 17、19類、他に黒耀岩細片1を得た。他に三角形土製品を得た。



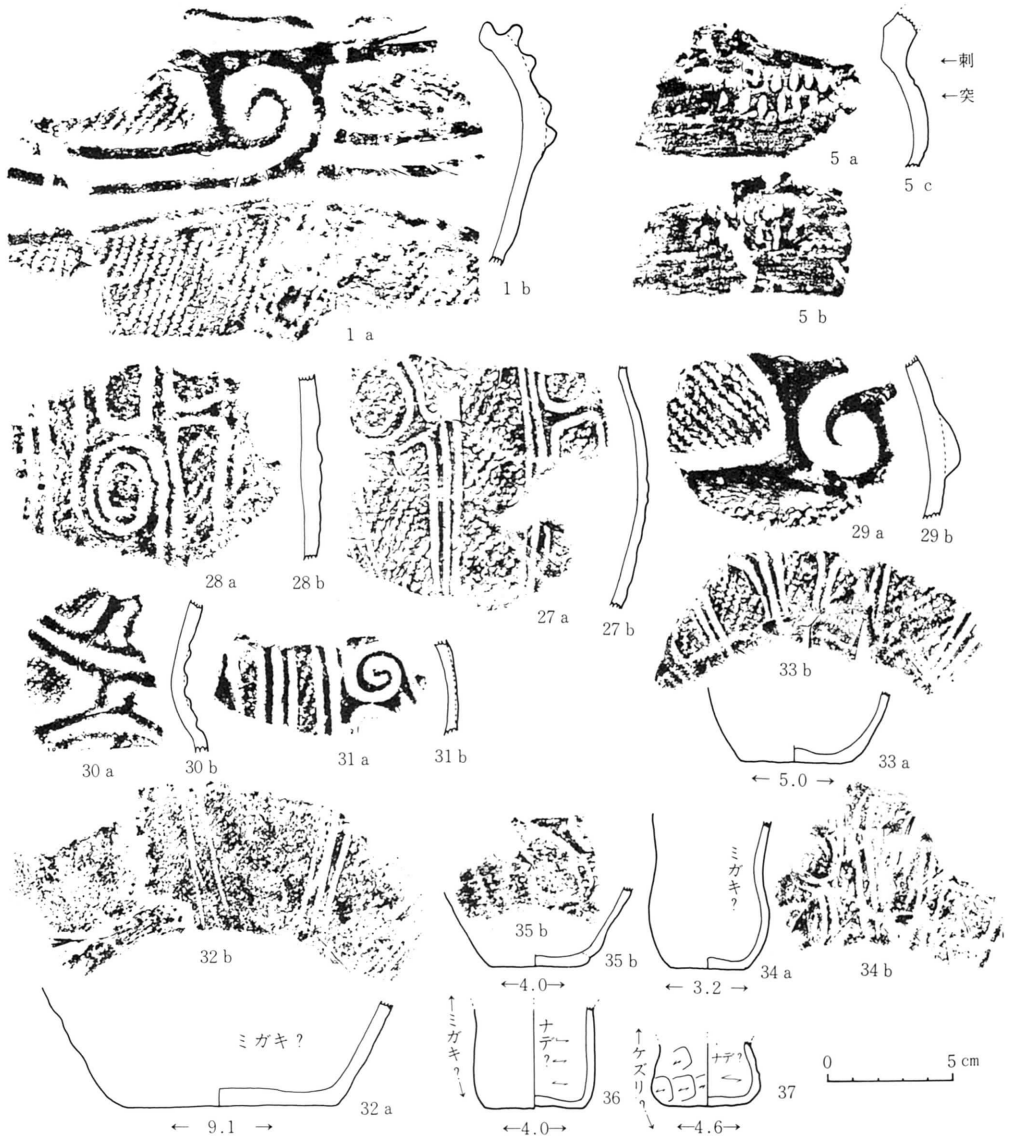
第37図
E c62住居跡
出土土器拓影図(1)

No.	地心層位	種別	分類	西			東			口縁	口縁前	体上平	体下平	底	胎土	焼成
				色	調	口縁	口縁	体	体							
7	埋土	深鉢(碗・皿)	V 6 空	35Y R 4/2 赤褐色 胎土 35Y R 5/5 黒褐色	シガキ・クワ・クワ	35Y R 6/5 黄褐色	シガキ・クワ・クワ	35Y R 6/5 黄褐色	中突起・穿孔 肩部に凹部、凹部下部無文	溝文なるも不明					粗砂	焼成
14	表面	"	III 6 1	35Y R 4/2 赤褐色 胎土 5Y R 5/5 黒褐色	シガキ・クワ・クワ 刺突なし・僅*	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	縁部隆起 肩部外反・無文、フラック	上縁隆起・溝文(沈線) 地文不明					焼成	好
15	埋土	"	I 6 2	35Y R 4/2 赤褐色 胎土 35Y R 5/5 黒褐色	シガキ	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色		地文不明						
16	Q 1	"	III 6 2	35Y R 4/2 赤褐色 胎土 35Y R 5/5 黒褐色	クワ・クワ	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色		上縁隆起・溝文(隆・沈線) 地文 R 10 < 1					精良	良好硬質
17	Q 1	"	V 6 2	35Y R 4/2 赤褐色 胎土 35Y R 5/5 黒褐色	"	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	縁隆起* 下縁隆起までシガキ・僅	上縁隆起・溝文(隆・沈線) 地文 R 10 < 1					精良	良好硬質
18	Q 1	深鉢(碗・皿)	V 6 4	35Y R 4/2 赤褐色 胎土 35Y R 5/5 黒褐色	全面入念シガキ 平滑	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	縁隆起*、内反 縁隆起シガキ・無文	上縁隆起支列1、溝文(隆・沈線) 地文 R 10 < 1					精良	良好硬質
19	Q 1	"	V 6 5	35Y R 4/2 赤褐色 胎土 35Y R 5/5 黒褐色	"	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	縁隆起*内縁* 下縁隆起までの無文帯巾広し	地文不明						
20	"	"	V 6 5	35Y R 4/2 赤褐色 胎土 35Y R 5/5 黒褐色	"	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色		刺突支列2 地文不明、その他同上						
21	"	"	V 6 5	35Y R 4/2 赤褐色 胎土 35Y R 5/5 黒褐色	シガキ*	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	*	刺突支列1 地文 R 10 < 1、その他同上					粗砂	焼成
22	"	"	II 4 5	35Y R 4/2 赤褐色 胎土 35Y R 5/5 黒褐色	シガキ	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	平縁隆起隆起口縁隆起凹部	溝文のみ 上縁 < 1					普通	
23	"	"	II 4 5	35Y R 4/2 赤褐色 胎土 35Y R 5/5 黒褐色	シガキ クワ・クワ	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	シガキ・無文	"						
24	表面	"	V 6 5	35Y R 4/2 赤褐色 胎土 35Y R 5/5 黒褐色	"	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	平縁・肥厚	溝文(隆起) 地文 R 10 < 1						
25	Q 4	埋土	I 4 3	35Y R 4/2 赤褐色 胎土 35Y R 5/5 黒褐色	シガキ	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	35Y R 6/5 黄褐色	平縁 胎土の一部に35Y R 6/5 赤褐色	溝文 R 10 < 1 胎土無文・シガキ					精良	良好



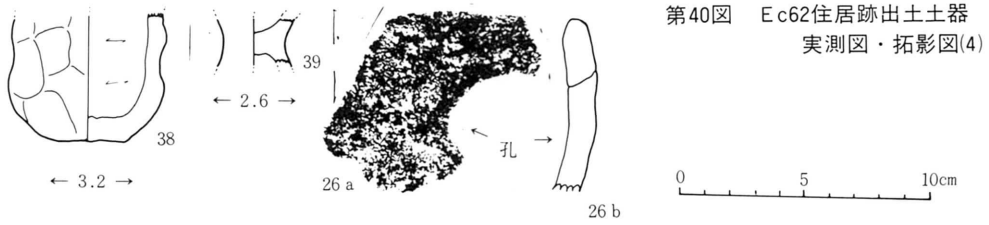
第38図 E c62住居跡出土土器拓影図(2)

No	地点	層位	種別	分類	内面			外面			胎土			焼成		
					色	調	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁		口縁	
2	Q 2	埋土	深鉢(碗・口)	ⅤB⑤	13Y R5%焼成 胎土13Y R5%黒	ミガキ クラック、剥落	10Y R5%明黄緑	平縁、地帯彩文、渦文 クラック	—	—	—	—	—	—	—	—
3	Q 4	"	"	ⅤB⑤	5Y R5%焼成 胎土—	"	5Y R5%明赤褐	中突起ある?、腰部に凹部形成、 上長軸凹形文。地文 R L< ↓ ↓	—	—	—	—	—	—	—	—
4	Q 4	"	"	ⅤB⑤	5Y R5%に20%焼成 胎土5Y R5%焼成	"	13Y R5%に20%焼成 胎土13Y R5%焼成	その地は上に同じ	—	—	—	—	—	—	—	—
6	Q 2	"	"	ⅤB⑤	13Y R5%焼成 胎土13Y R5%黒	ミガキ下 クラック濃し	13Y R5%黄緑	中突起、渦文、口縁端に凹部	全面渦文(降・沈線) 地文 R L< ↓ ↓	—	—	—	—	—	—	—
8	Q 3	"	"	ⅤB⑤	13Y R5%焼成 胎土13Y R5%黒	"	13Y R5%黄緑	螺旋状?乃至中突起 腰部に凹部	渦文(降・沈線) 地文 L R< ↓ ↓	—	—	—	—	—	—	—
9	Q 1	"	"	ⅤB⑤	13Y R5%焼成、部分的に13Y R5%焼成 胎土13Y R5%黒	ミガキ、入念 平滑	13Y R5%赤褐	中突起、渦文 腰部に凹部その下位ミガキ、無文	地文 R L< ↓ ↓ その地 は同上	—	—	—	—	—	—	—
10	Q 1	"	"	ⅤB⑤	13Y R5%焼成、塊状に13Y R5%焼成 胎土13Y R5%焼成	ミガキ クラック	13Y R5%	中突起、渦文 腰部に凹部、クラック	渦文(降・沈線) 地文 R L< ↓ ↓	—	—	—	—	—	—	—
11	Q 1	"	"	ⅤB⑤	13Y R5%焼成 胎土13Y R5%焼成	ミガキ	13Y R5%	螺旋状、腰部に凹部	渦文(降・沈線) 地文 R L< ↓ ↓	—	—	—	—	—	—	—
12	Q 4	"	"	ⅤB⑤	13Y R5%焼成 胎土—	ミガキ 赤色塗彩?	—	螺旋状 腰部に凹部、赤色塗彩?	—	—	—	—	—	—	—	—
13	Q 1	"	"	ⅤB⑤	13Y R5%に20%焼成 下半は13Y R5%焼成 胎土13Y R5%黒	ミガキ クラック	13Y R5%に20%焼成 クラック	不突起、凹部に凹み 腰部ミガキ、無文	上縁斜交文列 それ以下渦文(降・沈線) 地文 R L< ↓ ↓	—	—	—	—	—	—	—
42	Q 4	"	"	ⅤB⑤	5Y R5%焼成	ミガキ	—	凹部、ミガキ	渦文 R L< ↓ ↓	—	—	—	—	—	—	—
40	Q 1	"	"	ⅤB⑤	13Y R5%焼成	ミガキ クラック	13Y R5%明褐	—	渦文(降・沈線) 地文 R L R< ↓ ↓	—	—	—	—	—	—	—
41	"	"	"	ⅤB⑤	同上	"	—	凹左	凹文、渦文 上縁沈線? 渦文	—	—	—	—	—	—	—



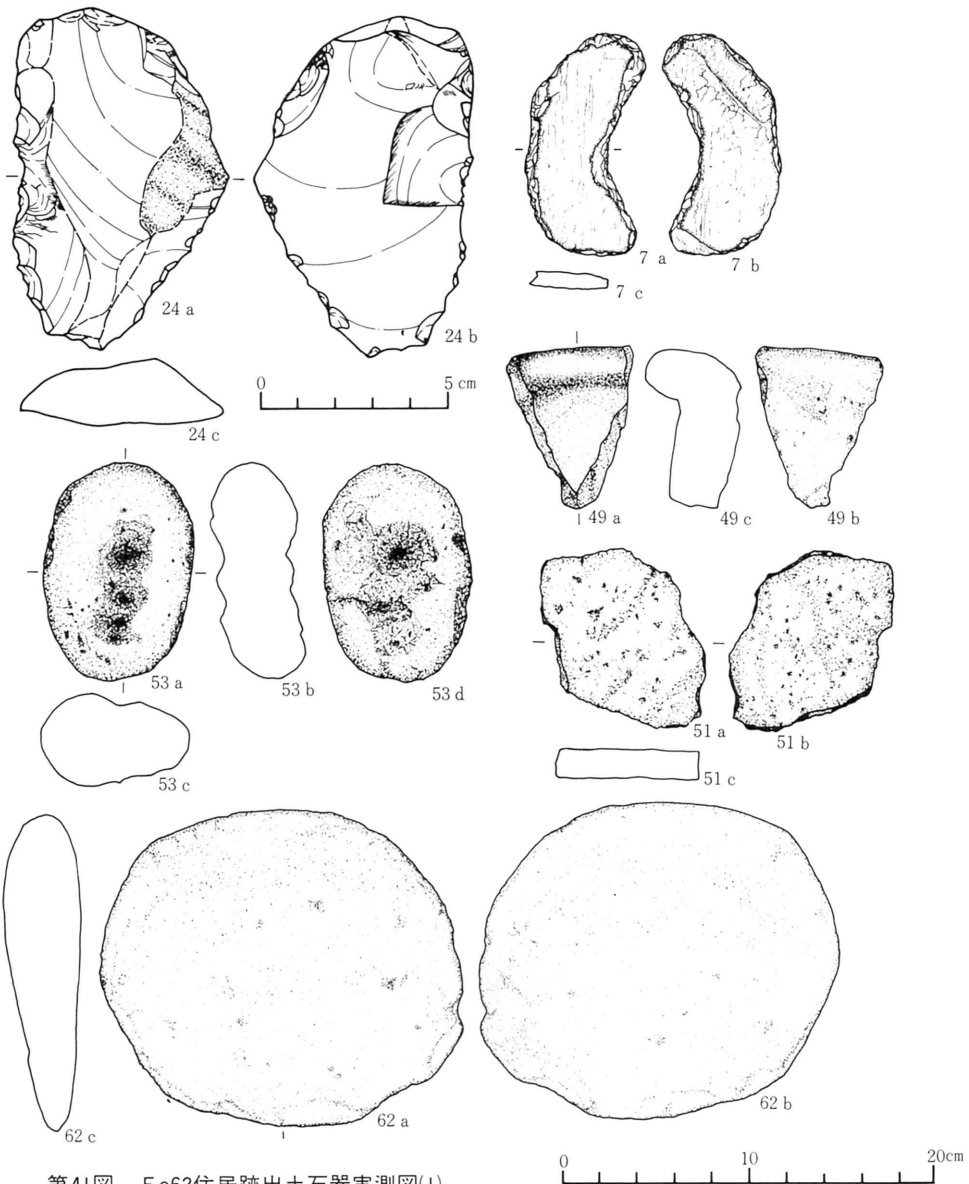
第39図 E c62住居跡出土土器拓影図・実測図(3)

No.	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	焼成		
					色	調	口縁	口部	胴	底	色	調			口縁	口部
1	Q 1	埋1	探鉢 (破・口)	Ⅱb①	7.5Y R 6.5黄緑 胎土同	---	---	---	---	同左。部分的に5Y R 6.5黄 緑。胎土同。	---	---	---	---	粗砂ある もはは精	良好
5	Q 3 Q 4	"	"	Ⅱb①	7.5Y R 6.5黄緑 部分的に7.5Y R 6.5黄 胎土同	---	---	---	---	同左。部分的に5Y R 6.5黄 緑。胎土同。	---	---	---	---	粗砂ある もはは精	良好
27	Q 1	"	探鉢 (破・底)	---	5Y R 6.5黄緑 胎土同	---	---	---	---	同左。部分的に5Y R 6.5黄 緑。胎土同。	---	---	---	---	粗砂ある もはは精	良好
28	Q 1	"	"	---	5Y R 6.5黄緑 胎土同	---	---	---	---	同左。部分的に5Y R 6.5黄 緑。胎土同。	---	---	---	---	粗砂ある もはは精	良好
29	Q 2	"	"	---	7.5Y R 6.5黄緑 胎土同	---	---	---	---	同左。部分的に5Y R 6.5黄 緑。胎土同。	---	---	---	---	粗砂ある もはは精	良好
30	Q 4	"	"	---	7.5Y R 6.5黄緑 胎土同	---	---	---	---	同左。部分的に5Y R 6.5黄 緑。胎土同。	---	---	---	---	粗砂ある もはは精	良好
31	Q 1	"	"	---	7.5Y R 6.5黄緑 胎土同	---	---	---	---	同左。部分的に5Y R 6.5黄 緑。胎土同。	---	---	---	---	粗砂ある もはは精	良好
32	Q 4	"	探鉢 (破・底)	---	7.5Y R 6.5黄緑 胎土同	---	---	---	---	同左。部分的に5Y R 6.5黄 緑。胎土同。	---	---	---	---	粗砂ある もはは精	良好
33	Q 1	"	"	Ⅲb①	7.5Y R 6.5黄緑 胎土同	---	---	---	---	同左。部分的に5Y R 6.5黄 緑。胎土同。	---	---	---	---	粗砂ある もはは精	良好
34	Q 1	"	"	Ⅲb①	7.5Y R 6.5黄緑 胎土同	---	---	---	---	同左。部分的に5Y R 6.5黄 緑。胎土同。	---	---	---	---	粗砂ある もはは精	良好
35	Q 2	"	探鉢 (破・底) 磨鉢	Ⅲb①	7.5Y R 6.5黄緑 胎土同	---	---	---	---	同左。部分的に5Y R 6.5黄 緑。胎土同。	---	---	---	---	粗砂ある もはは精	良好
36	Q 4	"	"	---	7.5Y R 6.5黄緑 胎土同	---	---	---	---	同左。部分的に5Y R 6.5黄 緑。胎土同。	---	---	---	---	粗砂ある もはは精	良好
37	Q 1	"	"	---	5Y R 6.5黄緑 胎土同	---	---	---	---	同左。部分的に5Y R 6.5黄 緑。胎土同。	---	---	---	---	粗砂ある もはは精	良好

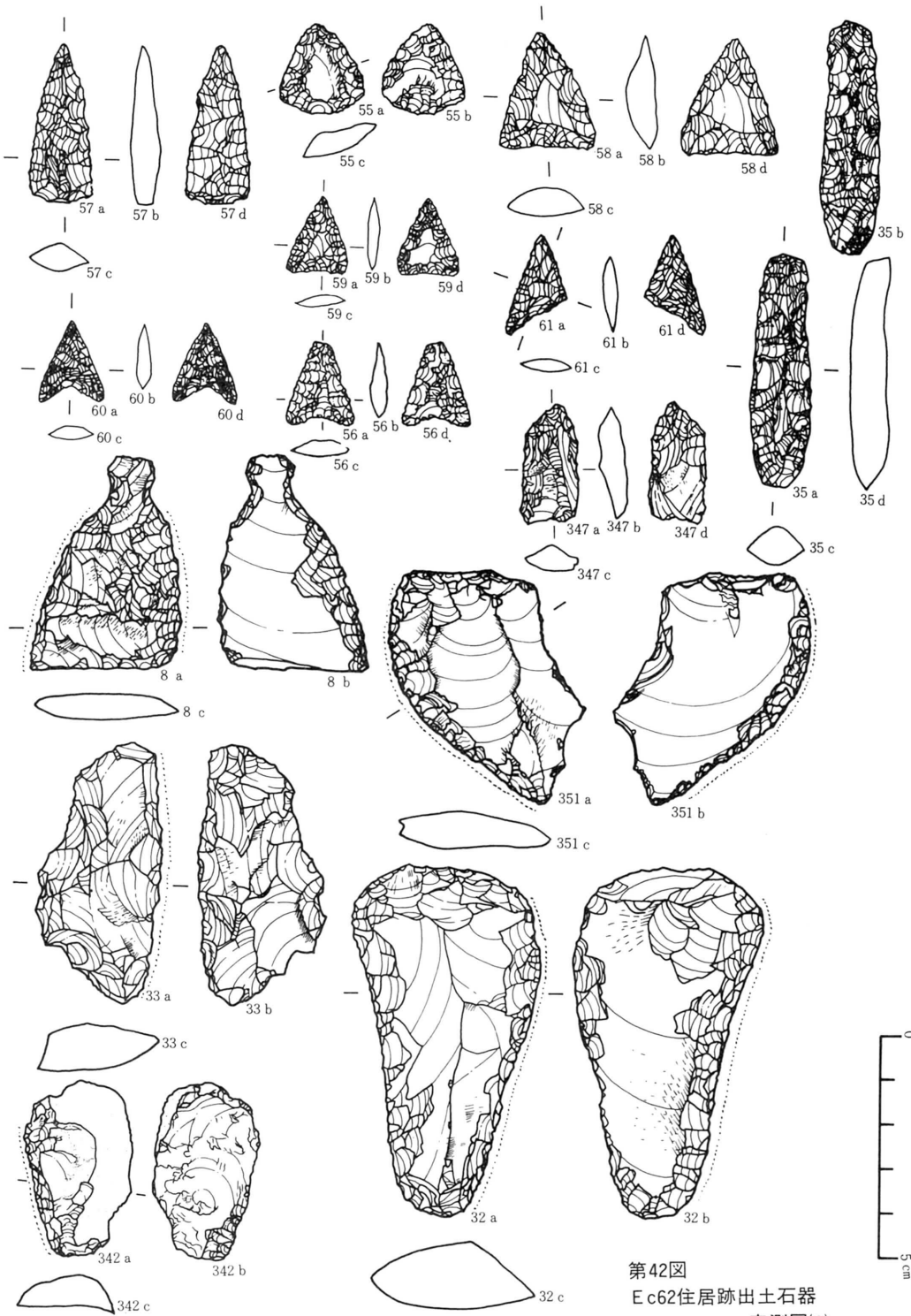


第40図 E c62住居跡出土土器
実測図・拓影図(4)

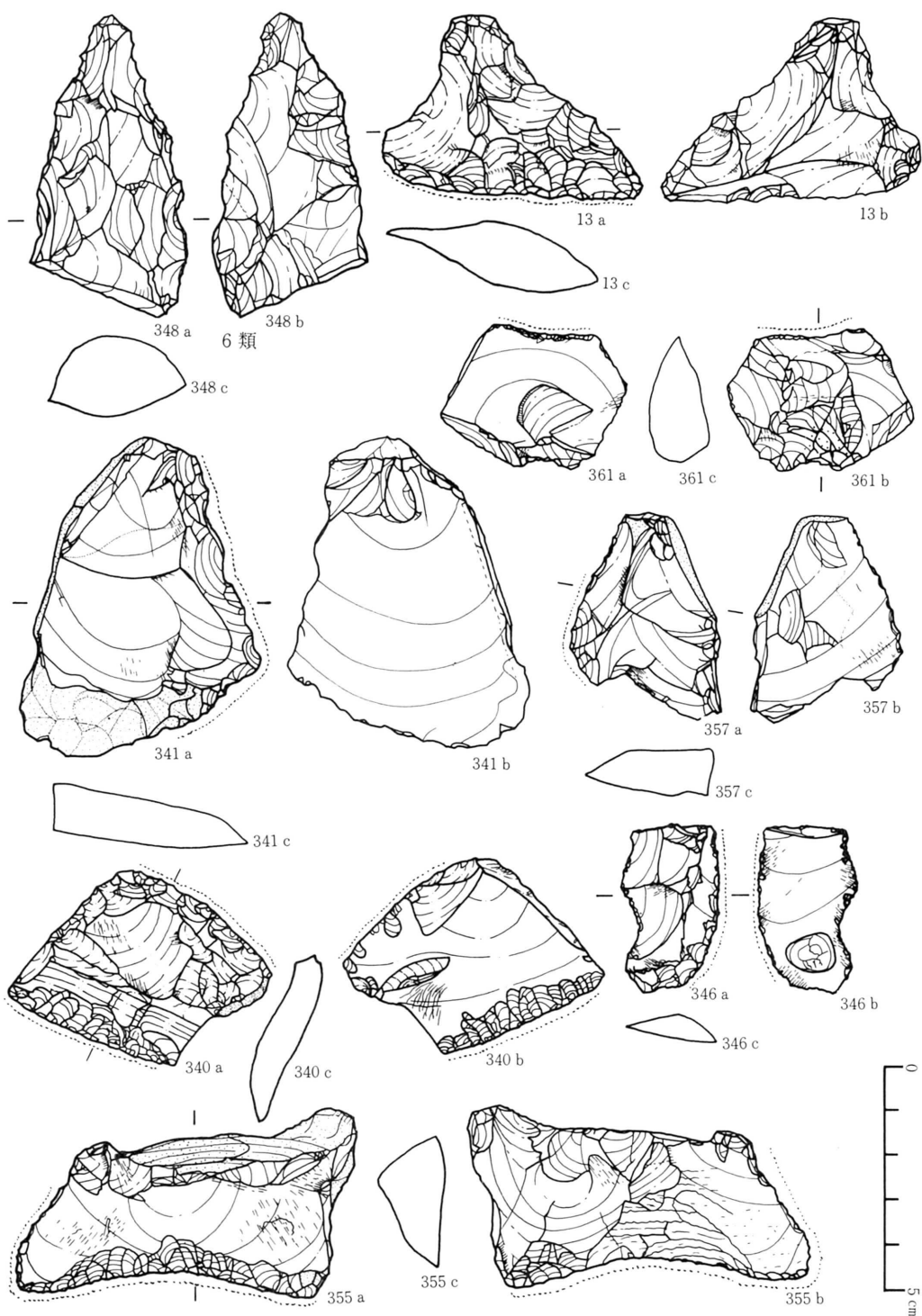
No.	地点	層位	種別	分類	内 面					外 面					胎土	焼成							
					色	調	口	縁	頸	体	底	色	調	口			縁	頸	体	上半	体	下半	底
38	Q 2	埋土	鉢(破)	—	S Y R 粉灰地、粘土 S Y R 粉灰地	—	—	ナナ?	—	—	—	S Y R 粉灰地、斑状に S Y R 粉灰地	—	—	—	—	—	手づくね痕?凹凸ミガキ?	—	—			
39	Q 2	?	台?	—	S Y R 粉灰地、粘土同	—	—	ミガキ?	—	—	—	同	左	—	—	—	—	—	—				
26	Q 1	?	?	?	S Y R 粉地、粘土 S Y R 粉灰地	—	—	ミガキ?、クラック	—	—	—	同	左	—	—	—	—	意図的穿孔あり	不	明	—	粗砂	普通



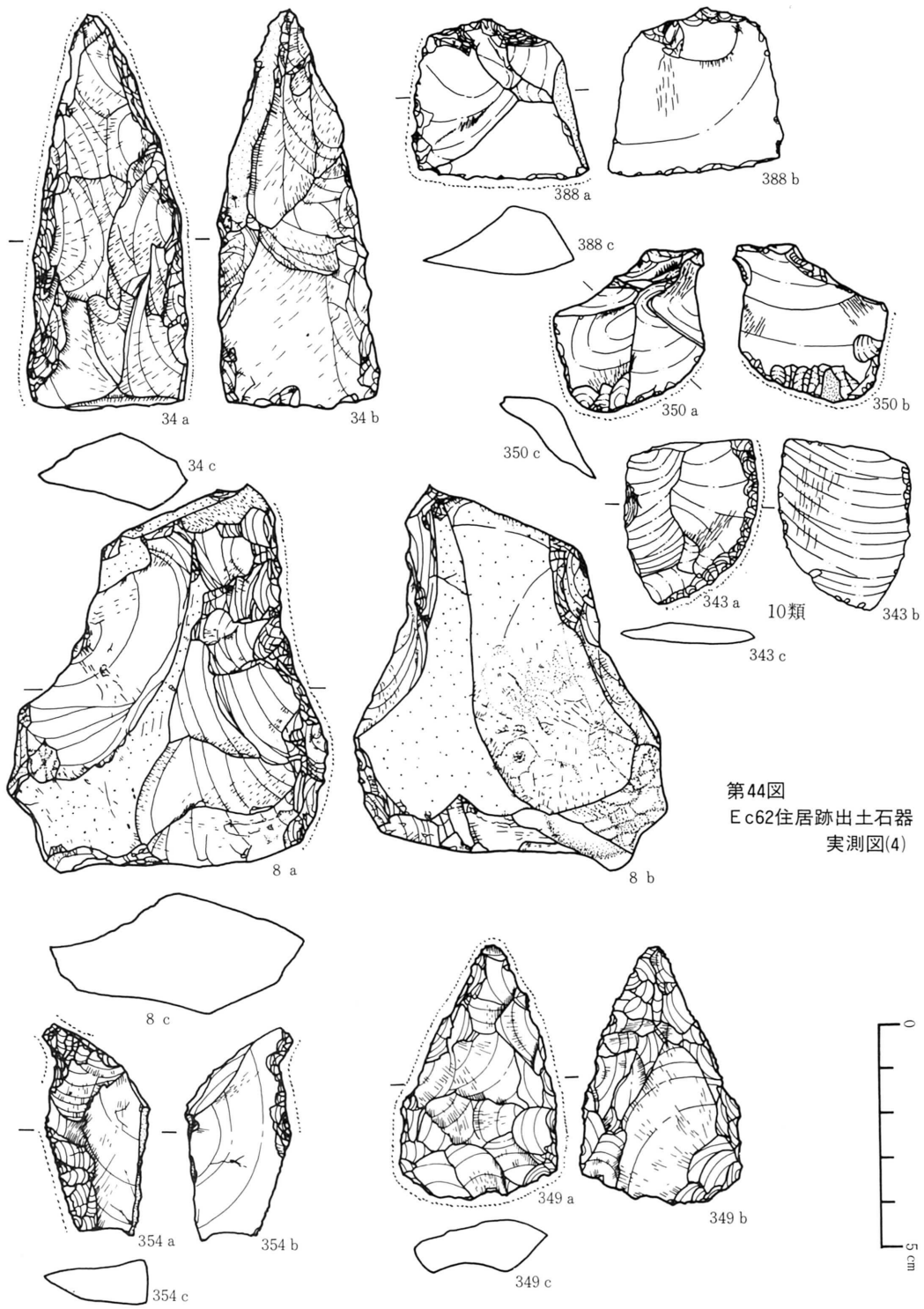
第41図 E c62住居跡出土土器実測図(1)



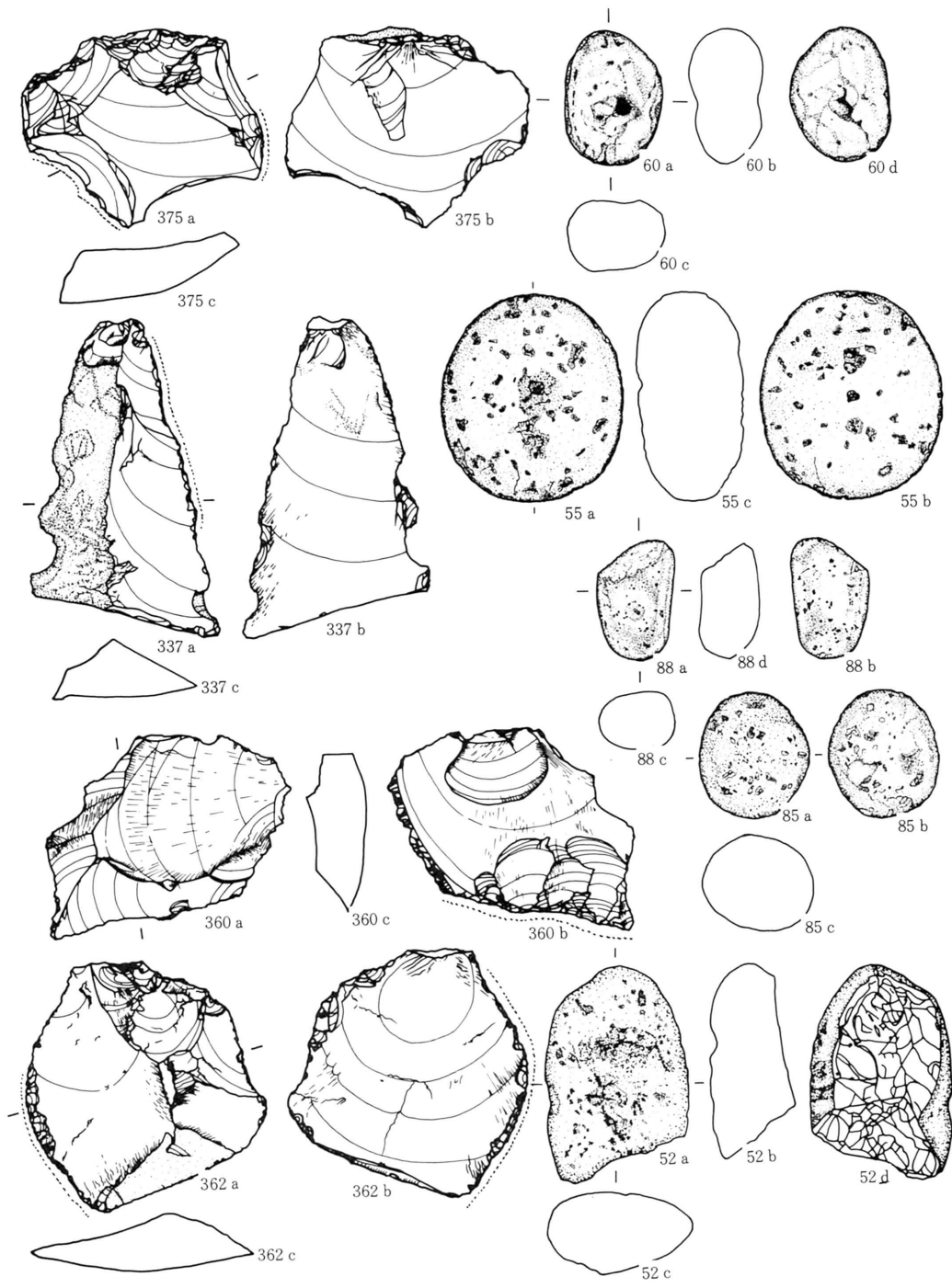
第42图
E c62住居跡出土石器
実測图(2)



第43图 E c62住居跡出土石器実測图(3)



第44図
E c62住居跡出土石器
実測図(4)

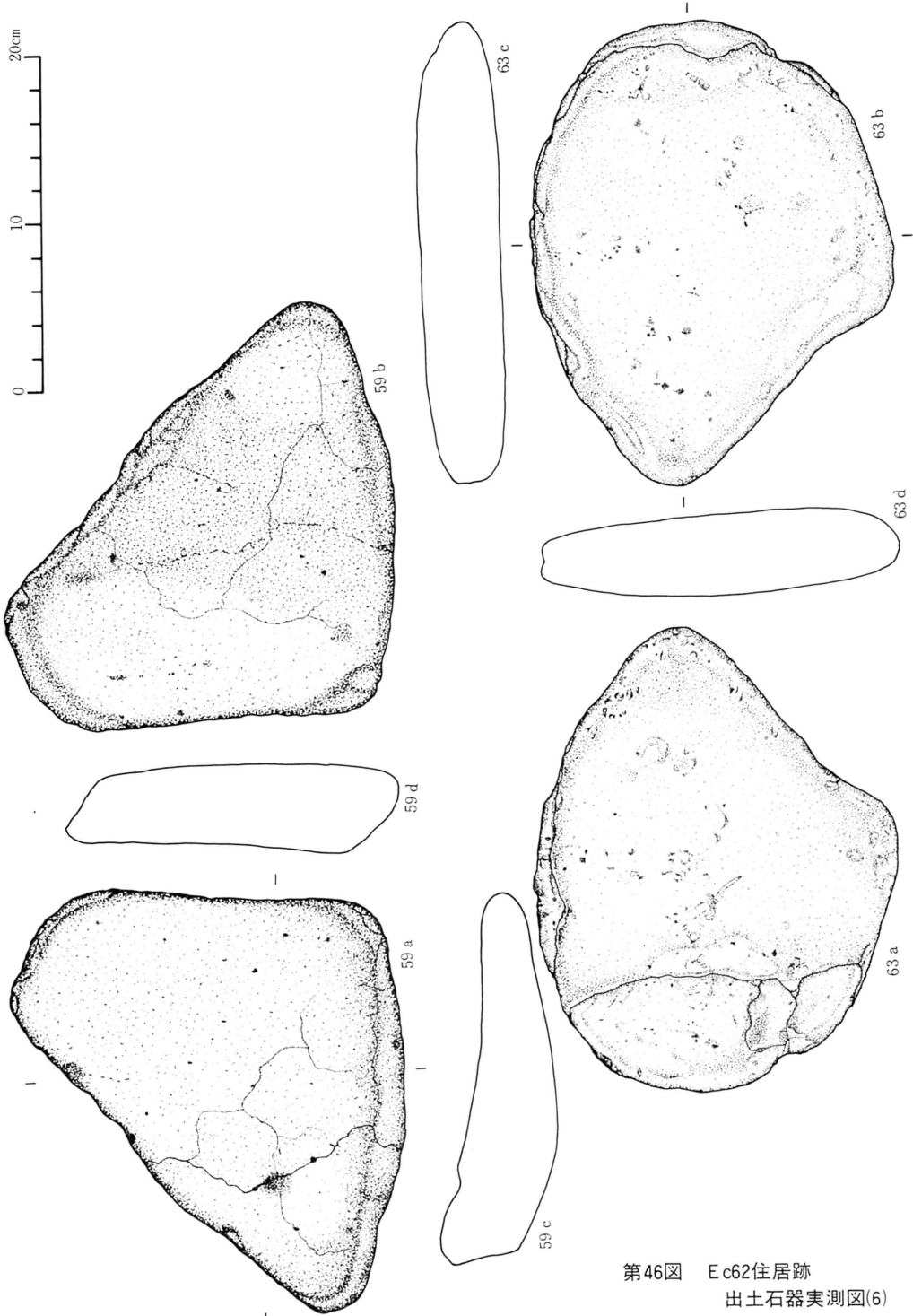


0 5 cm

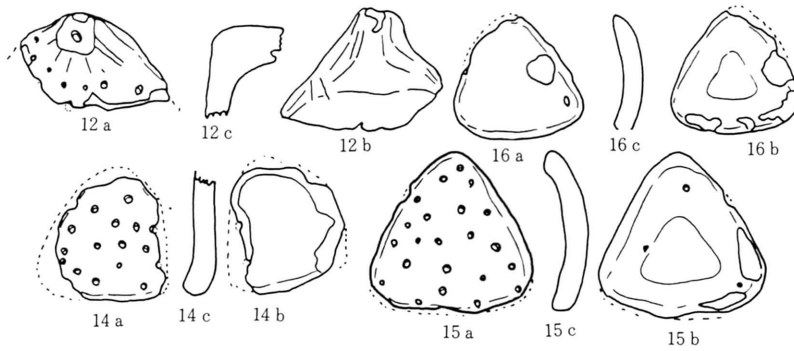
第45图

E c62住居跡出土石器実測图(5)

0 10cm



第46図 E c62住居跡
出土石器実測図(6)



第47図 Ec62
住居跡出土土製品
実測図

種別	登録番号	地点	層位	計測値 cm・g				材質	分類	備考
				たて	よこ	あつき	重さ			
石 核	1		埋土	8.05	6.2	5.1	212.55	白色細粒凝灰岩	1類	剥離が進み、多面体化
	2		床面	10.9	8.5	2.9	284.5	"	"	板状の礫

種別	登録番号	地点	層位	計測値 cm・g				材質	分類	破損	素材	断面	つまみ加撃点	打面	技法	つまみ	アスファルト
				たて	よこ	あつき	重さ										
石	57		埋土	3.5	1.35	0.65	2.6	硬質泥岩	3類 A②	c	イ			II			
"	58	Q 4	"	2.75	2.1	0.6	2.75	流紋岩質凝灰岩	" C①	a	ハ			IV			
"	59	Q 1	"	1.75	1.3	0.2	0.55	黄褐色極細粒珪質凝灰岩	" " a	ニ				III			
"	56	Q、ピット中	ピット埋土	1.9	1.45	0.35	0.75	硬質泥岩	" D①	b	イ			II			
"	60	Q 1	埋土	1.9	1.45	0.25	0.5	松脂岩	" " a	イ				II			
"	61	"	床面	2.35	1.1	0.3	0.4	流紋岩質凝灰岩	" " d	イ				II			
石 匙	13	Q 4	埋土	5.8	4.0	1.3	20.6	凝灰質硬質泥岩	5類 A	a	III	イ	1		W	X	
"	8	Q 1	"	4.75	3.2	0.6	10.3	"	" " c	I	ホ	1	う	V	X		
石 鹿 状	34	Q 4	"	8.9	3.7	1.65	47.3	凝灰質硬質泥岩	6類	b	III	ハ		う	V		
"	348	Q 1	"	6.75	3.35	1.7	34.05	硬質泥岩	"	b	III	ホ		う	V		
"	349	Q 2	"	5.7	3.6	1.3	24.55	珪質泥岩	"	a	III	ホ		う	V		
定型的 撈器	32	Q 4	"	7.9	4.0	1.7	47.65	"	7類	a	I	ホ		あ	V		
"	35	Q 1	"	5.25	1.45	0.8	7.7	"	"	a	III	ハ		う	V		
ノッチ 撈器	355	Q 2	埋土	8.1	3.85	1.75	29.6	珪質泥岩	8類	a	II?	イ		あ	W		
両刃の不定形撈器	340	Q 1	"	5.75	3.85	1.1	21.7	凝灰質珪質泥岩	9類 A	a	III	ニ		う	P	O	
"	350	Q 3	"	4.4	2.7	0.75	8.3	凝灰質硬質泥岩	" A	a	II	ニ		う	P		
"	351	Q 4	"	5.9	3.7	0.8	15.4	硬質泥岩	9類 B	a	I	ニ		あ	P		
"	362	Q 1	"	6.9	6.45	1.6	67.1	"	" B	a	IV	イ		あ	P		
片刃の不定形撈器	337	Q 2	埋土	9.45	5.6	1.75	57.2	"	10類								
"	338	Q 4	"	4.5	3.6	1.6	19.3	凝灰質珪質泥岩	"								
"	339	Q 1	"	5.95	4.05	1.75	32.35	"	"								
"	341	Q 4	"	7.2	4.9	1.5	39.3	凝灰質硬質泥岩	"								
"	342	(2)	"	3.95	2.4	1.25	10.8	鉄質石英	"								
"	343	Q 3	"	4.2	2.85	0.4	5.3	黄褐色極細粒珪質凝灰岩	"								
"	344	Q 1	"	4.85	3.45	1.35	18.8	硬質泥岩	"								
"	345	"	"	8.2	6.75	2.05	119.8	白色細粒凝灰岩	"								
"	346	"	"	3.7	2.1	0.5	4.1	硬質泥岩	"								
"	347	"	"	2.75	1.2	0.5	1.8	珪質泥岩	"								
"	352	Q 2	"	5.15	4.6	1.9	36.7	凝灰質珪質泥岩	"								
"	353	Q 4	"	4.5	3.8	1.7	23.6	"	"								
"	354	Q 2	"	5.0	2.3	1.0	9.75	珪質泥岩	"								
"	356	Q 3	"	4.1	2.3	1.05	6.3	黄褐色珪質極細粒凝灰岩	"								
"	357	Q 4	"	4.8	3.25	0.9	13.9	"	"								
"	358	"	"	6.1	3.9	2.65	52.5	"	"								
"	359	"	"	3.85	2.75	0.65	5.8	凝灰質珪質泥岩	"								
"	360	Q 4	"	8.4	5.35	1.65	58.0	凝灰質珪質泥岩	"								
"	361	"	"	4.1	2.9	0.9	11.5	"	"								
片刃石器	9	Q 1	埋土	9.25	7.6	2.85	192.7	硬質泥岩	14類								
両刃石器	7	Q 1	埋土	10.15	6.15	4.7	317.1	流紋岩	13類								
"	8	Q 4	"	9.6	7.35	3.35	175.9	凝灰質珪質泥岩	"								
石 鏃	7	Q 3	"	11.8	4.7	1.05	85.5	淡緑色層灰岩	完全品16類								

種 別	登録 番号	地 点	層 位	計 測 値 cm・g			材 質	破 損	凹 部		凹部数		そ の 他
				た て	よ こ	あ つ き			重 さ	両 面	片 面	単	
凹み石 20類	52		埋土	11.4	8.2	4.9	600.0	複輝石安山岩	破	○?		○	半欠、火力をうけた?
" "	53		"	11.2	7.4	4.7	450.0	浮石質角礫凝灰岩	完	○		○	大型凹部
" "	54		"	10.3	8.4	5.8	63.0	複輝石安山岩	"		○	○	
" "	55		"	11.4	9.7	5.7	930.0	"	"		○	○	
" "	59		"	12.1	7.9	4.3	510.0	"	"		○	○?	
" "	60		"	7.7	5.7	4.0	230.0	"	"		○	○	大型凹部
磨石 21類	74		"	5.7	5.0	4.3	150.0	"	完				
" "	75		"	6.3	6.3	4.3	240.0	"	"				
" "	76		"	9.9	6.7	4.7	290.0	"	半欠				
" "	77		"	5.0	4.5	3.5	80.0	"	完				
" "	78		"	5.2	4.8	3.5	100.0	"	"				

種 別	登録 番号	地 点	層 位	計 測 値 cm・g			材 質	分 類	備 考		
				た て	よ こ	あ つ き			重 さ		
磨石 21類	79		埋土	7.2	6.2	5.0	280.0	複輝石安山岩	完		
" "	80		"	5.8	5.9	4.7	200.0	"	"		
" "	81		"	5.5	5.1	3.8	110.0	"	"		
" "	82		"	4.9	4.5	3.7	70.0	白色細粒凝灰岩	"		
" "	83		"	4.8	4.6	2.4	65.0	複輝石安山岩	"		
" "	84		"	7.4	5.2	2.8	120.0	"	"		
" "	85		"	7.2	6.2	5.4	270.0	"	"		
" "	86		"	8.8	6.7	4.6	340.0	"	"		
" "	87		"	6.8	4.7	4.1	140.0	"	"		
" "	88		"	7.0	4.3	3.3	130.0	"	半欠		
" "	89		"	5.3	4.0	3.0	60.0	"	完		
" "	90		"	2.2	1.9	1.8	5.0	"	"		
黒曜岩	6	Q 3	埋土	2.15	1.6	0.85	2.2				
石皿 19類	47		埋土	10.0	8.0	1.7	150.0	泥質細粒凝灰岩	破	板状礫	
" "	48		"	12.0	9.8	3.5	550.0	複輝石安山岩	"	"	
" "	49	Q 1	"	8.4	5.0	3.2	180.0	浮石質粗粒凝灰岩	"	縁部あり	
" "	50		"	11.8	11.7	4.4	640.0	プロピライト質角礫凝灰岩	完	板状礫	
" "	51		"	10.0	7.2	1.4	210.0	複輝石安山岩	破	板状	
" "	52		"	20.6	9.4	4.6	1,350.0	"	完	楕円形礫	
" "	53		"	14.9	9.0	4.5	980.0	"	"	"	
" "	54		"	12.0	5.2	5.3	490.0	"	破	礫	
" "	55		"	10.3	9.8	1.3	370.0	"	"	板状	
" "	56		"	11.6	10.0	5.2	990.0	"	"	縁部に丸味、火力をうけたか?	
" "	57		"	14.6	10.7	4.0	1,130.0	"	完	楕円形礫	
" "	58		"	16.0	11.2	2.3	600.0	"	破	半製品	
" "	59		"	24.0	23.0	4.8	3,220.0	"	完	板状	
" "	60		"	12.7	10.8	3.1	450.0	"	破	"	
" "	61		"	17.0	15.0	6.9	2,320.0	"	完	礫	
" "	63		床面	27.2	21.0	4.4	3,490.0	"	"	板状	
片刃の不整形撞器	344	Q 1	埋土	4.85	3.45	1.35	18.8	硬質泥岩	10 類		
" "	345	"	"	8.2	6.75	2.05	119.8	白色細粒凝灰岩	10 類		
" "	346	"	"	3.7	2.1	0.5	4.1	硬質泥岩	"		
" "	347	"	"	2.75	1.2	0.5	1.8	珪質泥岩	"		
" "	265	Q 3	"	3.65	3.45	1.0	14.75	珪質泥岩	"		
石皿	62		床面	19.7	16.6	4.0	1,650.0	複輝石安山岩、新期熔岩	19 類	E c 62 (古)	

自然石、流紋岩質凝灰岩 2、斜長石流紋岩 2

E d 62住居跡（第48～53図、図版8、11）〔遺構の確認〕調査地南端で、中央部からやや東寄りのⅢ層上面に検出した。段丘面から段丘崖への遷移点にあたり、全体的に南・西方へ傾斜する。

〔重複・増改築の事実〕その北部でE c 62(古)住居跡と重複し、それより新規である。さらにE c 62(新)よりも新規である。その南部でE e 65住居跡と重複し、それが新規である。西南部は近世以降の墓地と重複し、当然それが新規である。炉が2基検出されるものの2棟分のみあう各種遺構が検出されないこと、断面観察によっても重複を示す現象を観察できないことから、増改築が行なわれたと思われる。レベル・残存状況などから炉(2)が古期である。両者の長軸方向が90°ずれている点に若干疑問が残るが、以上の如くにのべておく。

〔平面形・方向〕各種の重複関係や調査の不備から正確に示しえないが、方形のヴァリエーションを示す壁様の部分を検出しえないから、円形乃至楕円形を呈すものであろう。長径6.5m×短径6m程度が想定される。炉(2)の長軸方向をとらえればSW—NE方向に長いものとなろう。

〔堆積土〕シルト質で、黒乃至暗褐色系統のしまりのある土が堆積している。ブロック状に堆積するなどの特異な現象は観察できない。

〔床面〕ほぼ平坦である。現地形の傾斜ほどのものは見られない。貼床等も見られない。

〔柱穴〕残存する限りでの壁外周部にはピット類はなく、すべて床面上に位置する。計10のピット・掘り込み類が関連すると思われるが、P₆・9は柱穴ではないと思われる。うちP₆は炉に連続する掘り込み部に相当する可能性が大である。その他は0.3～0.6m前後とかなり深くしっかりしたものである。その平面配置は明確ではないが、炉の南北両側、掘り込み部北端部の南北両側、壁際の三つの基本的位置が存在するかのようである。P₇のみが斜位となる。

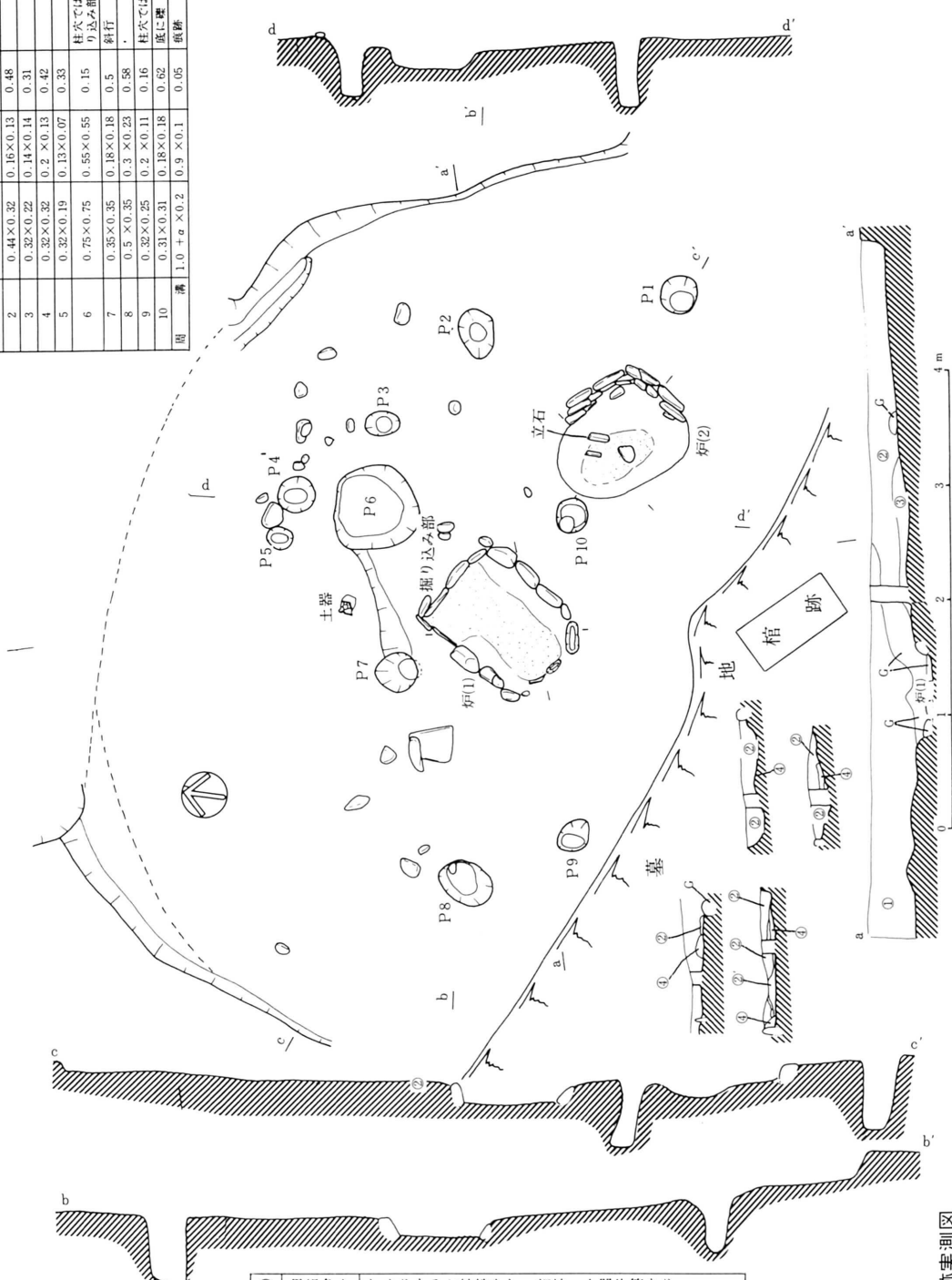
〔炉1〕燃烧部たる石囲い部と、掘り込み部の組み合わせからなる。後者は痕跡的な残存状況であるが、浅い円形の掘り込みと、床面上の段差から想定しうる。前者は平面形が長方形乃至狭長なカマボコ型に近いと思われる。その外湾気味の南短辺の礫を欠落し、抜き取られた可能性がある。その他の辺は一重の礫からなる。その形状は変化に富み、若干特異である。礫の構築法は断ち割りを実施せず不明である。

〔炉2〕痕跡的なものを1基検出した。平面形は狭長なカマボコ型と思われるが、北・西辺の礫が抜き取られている。残存礫は2～3重になっている。燃烧部底は皿状に凹む。その底部ほぼ中央に角礫が一本立った状態で検出された。その性格は不明である。支柱でもあろうか。掘り込み部の有無は確認できないが、存在したとすればそれは炉の東南方であろう。長軸方向はNW—SEである。

〔その他の施設〕周溝の痕跡を検出したのみである。

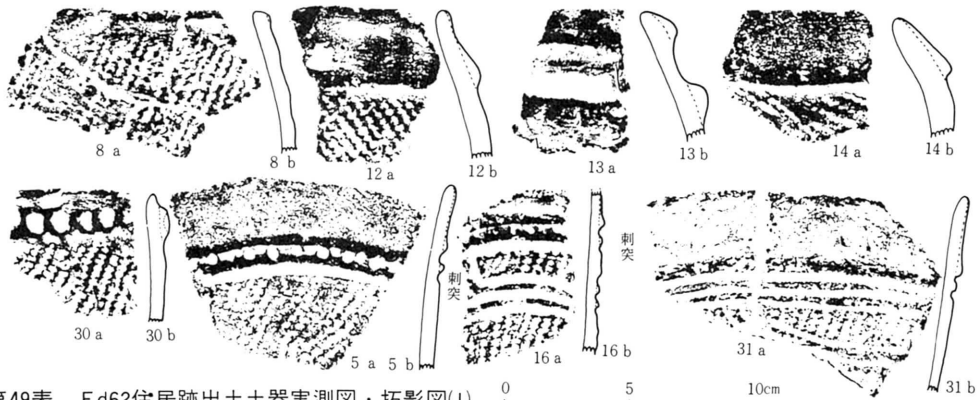
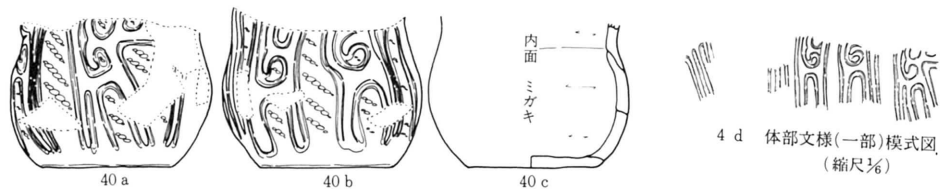
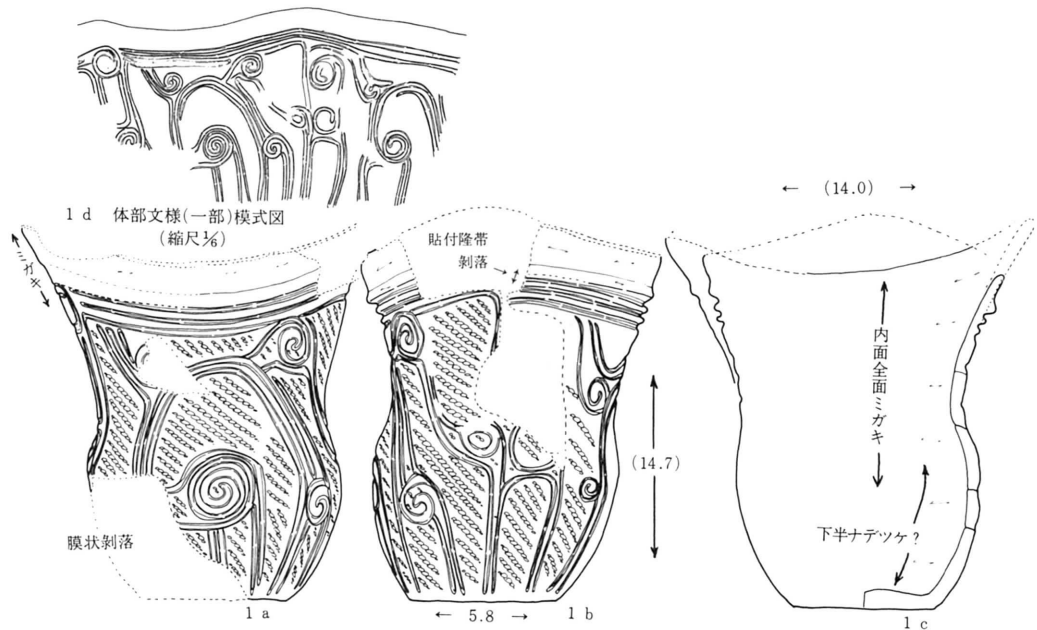
〔年代決定の資料〕床面出土の土器類である。縄文時代中期と思われる。

Pit 周溝No.	上	径	底	径	深さ(m)	備	考
1	0.35×0.3	0.2	0.17	0.63			
2	0.44×0.32	0.16	0.13	0.48			
3	0.32×0.22	0.14	0.14	0.31			
4	0.32×0.32	0.2	0.13	0.42			
5	0.32×0.19	0.13	0.07	0.33			
6	0.75×0.75	0.55	0.55	0.15			柱穴ではなく、掘り込み部関連か?
7	0.35×0.35	0.18	0.18	0.5			斜行
8	0.5×0.35	0.3	0.23	0.58			
9	0.32×0.25	0.2	0.11	0.16			柱穴ではない?
10	0.31×0.31	0.18	0.18	0.62			底上層
周溝	1.0 + a × 0.2	0.9	0.1	0.05			痕跡



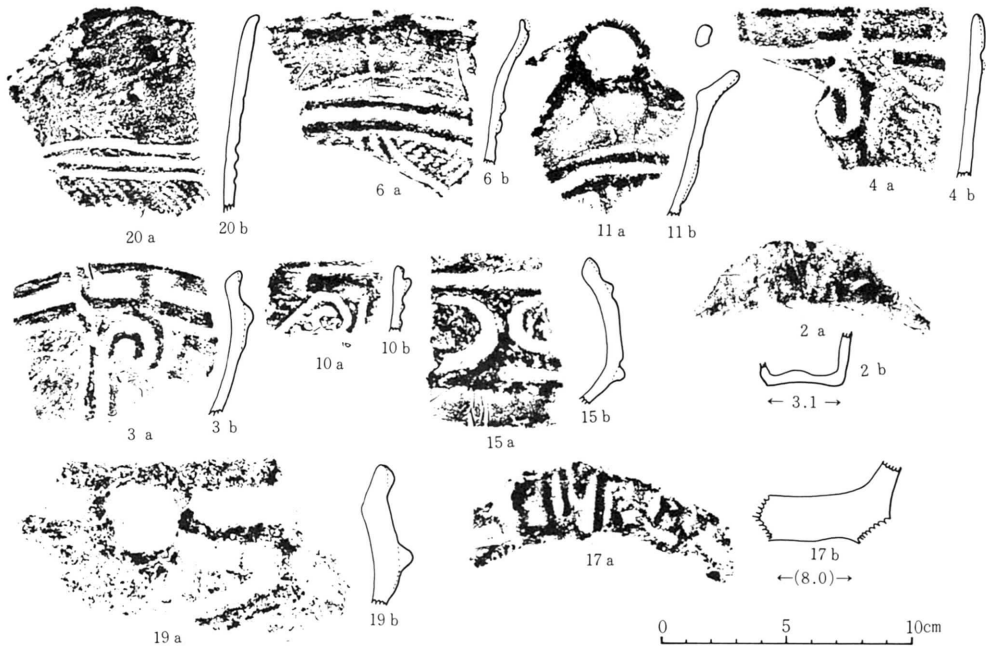
①	黒褐色土	しまりあるか粘性なし、細粒、土器片等あり
②	暗褐色土	しまり強く粘性もややある、細粒、全体に炭化物粒混入
③	"	②に焼土粗粒・塊を混じる
④	焼土	若干軟質

第48図 E d62住居跡実測図



第49表 E d62住居跡出土土器実測図・拓影図(1)

No	地点	層位	種別	分群	内面				外面				胎土	焼成		
					色	調	肌	装	色	調	肌	装				
1		床面	深鉢 (復可・中型)	田b	7.5Y R5/6 刷毛	全面ミガキ	口縁口頸体底	5Y R5/6	口縁口頸体底	体上半体下半	下腹隆帯までミガキ・無文	上腹沈線3・全面渦文(沈線)	ミガキ	粗砂	良好	
5		覆土		田b	7.5Y R5/6 刷毛	胎土2.5Y R5/6		7.5Y R5/6 刷毛			刷毛状	下腹隆帯までミガキ・無文	上腹列点以下渦文?	無文	精	良好
8	Q4	"	"	I a 3	2.5Y R5/6 刷毛	胎土2.5Y R5/6	ミガキ	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
12	Q4	"	"	II a	5Y R4にミガキ	全面ミガキ	入金	5Y R4	平輪	平輪	平輪	平輪	平輪	平輪	平輪	平輪
13	"	"	"	II a	10Y R5/6 刷毛	胎土2.5Y R5/6 刷毛	入金・平輪				平輪	平輪	平輪	平輪	平輪	平輪
14	Q2	"	"	II a	5Y R5/6	胎土2.5Y R5/6	全面ミガキ	クワック			7.5Y R5/6 刷毛	下部内縁・二重口縁	ミガキ・無文	不明	不明	不明
16	"	"	"	田b	5Y R5/6	胎土2.5Y R5/6					5Y R5/6	刺突	刺突	刺突	刺突	刺突
40	Q1	"	"	田c	10Y R5/6						同左	同左	同左	同左	同左	同左
30	"	"	"	田b	5Y R5/6						同左	同左	同左	同左	同左	同左
31	Q3	"	"	田b	2.5Y R5/6						ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ



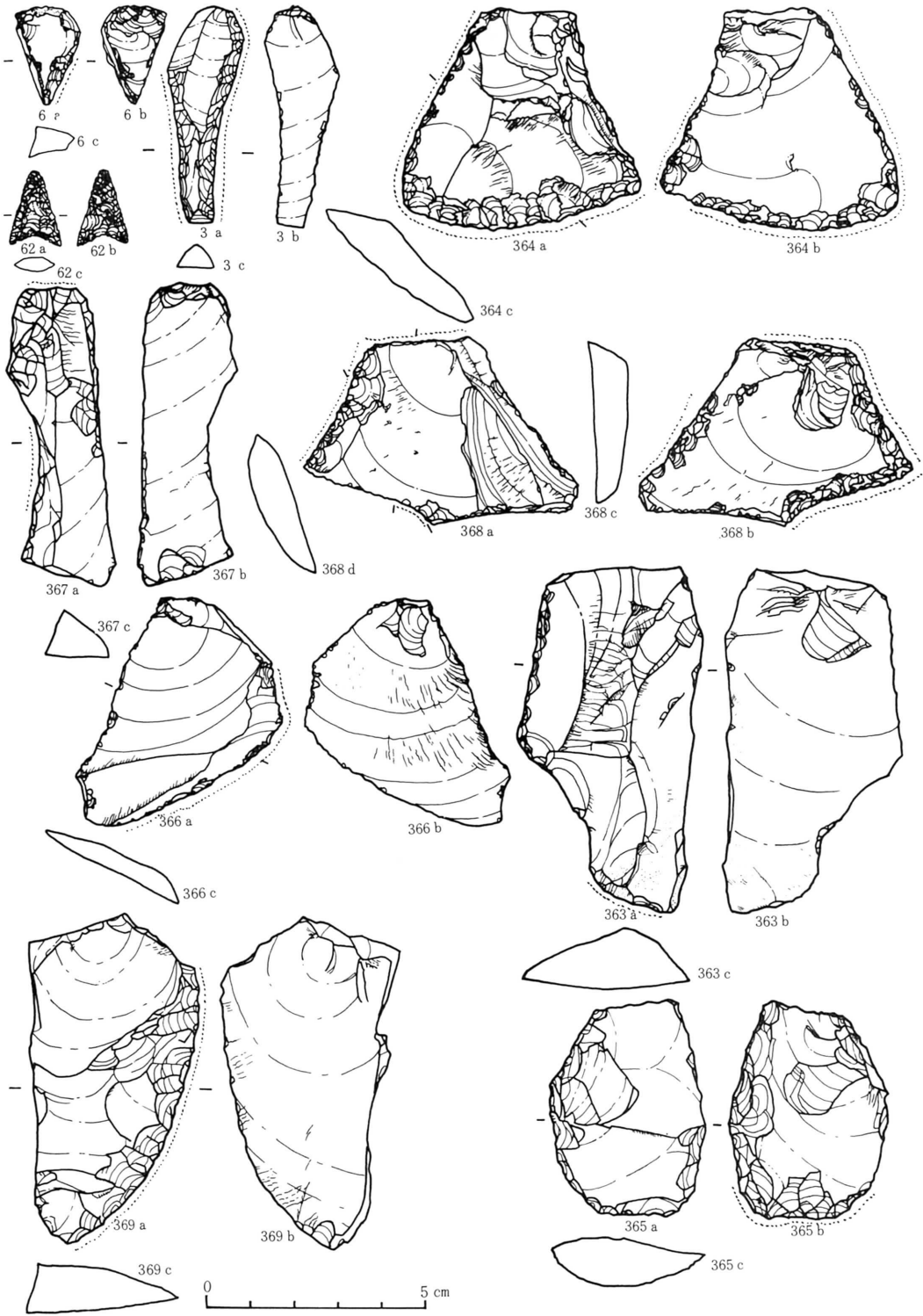
第50図 E d62住居跡出土土器拓影図(2)

No.	地点	層位	種別	分類	内 面				外 面				土 質	破 壊	
					口	縁	胎	底	口	縁	胎	底			
2	埋1	面 鉢 (灰、流、磨珍)	III b類	35 Y R 5/6 浅黄褐色 胎土 35 Y R 5/6 褐灰	口	縁	胎	底	35 Y R 5/6 褐色 胎土に 35 Y R 5/6 褐色	口	縁	胎	底	シグキ+無文	粗砂ある 良好
3	Q 2	床面	V a類	35 Y R 5/6 浅黄褐色 胎土 35 Y R 5/6 褐灰	口	縁	胎	底	35 Y R 5/6 褐色 胎土に 35 Y R 5/6 褐色	口	縁	胎	底	シグキ+無文	粗砂ある 良好
4	Q 2	中	V a類	35 Y R 5/6 浅黄褐色 胎土 35 Y R 5/6 褐灰	口	縁	胎	底	35 Y R 5/6 褐色 胎土に 35 Y R 5/6 褐色	口	縁	胎	底	シグキ+無文	粗砂ある 良好
6	Q 4	"	IV c類	35 Y R 5/6 浅黄褐色 胎土 35 Y R 5/6 褐灰	口	縁	胎	底	35 Y R 5/6 褐色 胎土に 35 Y R 5/6 褐色	口	縁	胎	底	シグキ+無文	粗砂ある 良好
10	Q 1	"	IV c類	35 Y R 5/6 浅黄褐色 胎土 35 Y R 5/6 褐灰	口	縁	胎	底	35 Y R 5/6 褐色 胎土に 35 Y R 5/6 褐色	口	縁	胎	底	シグキ+無文	粗砂ある 良好
11	埋1	面 鉢 (灰、流)	IV c類	35 Y R 5/6 浅黄褐色 胎土 35 Y R 5/6 褐灰	口	縁	胎	底	35 Y R 5/6 褐色 胎土に 35 Y R 5/6 褐色	口	縁	胎	底	シグキ+無文	粗砂ある 良好
15	Q 4	"	III b類	35 Y R 5/6 浅黄褐色 胎土 35 Y R 5/6 褐灰	口	縁	胎	底	35 Y R 5/6 褐色 胎土に 35 Y R 5/6 褐色	口	縁	胎	底	シグキ+無文	粗砂ある 良好
17	Q 3	"	III b類	35 Y R 5/6 浅黄褐色 胎土 35 Y R 5/6 褐灰	口	縁	胎	底	35 Y R 5/6 褐色 胎土に 35 Y R 5/6 褐色	口	縁	胎	底	シグキ+無文	粗砂ある 良好
19	Q 4	"	III b類	35 Y R 5/6 浅黄褐色 胎土 35 Y R 5/6 褐灰	口	縁	胎	底	35 Y R 5/6 褐色 胎土に 35 Y R 5/6 褐色	口	縁	胎	底	シグキ+無文	粗砂ある 良好
20	Q 4	"	III b類	35 Y R 5/6 浅黄褐色 胎土 35 Y R 5/6 褐灰	口	縁	胎	底	35 Y R 5/6 褐色 胎土に 35 Y R 5/6 褐色	口	縁	胎	底	シグキ+無文	粗砂ある 良好

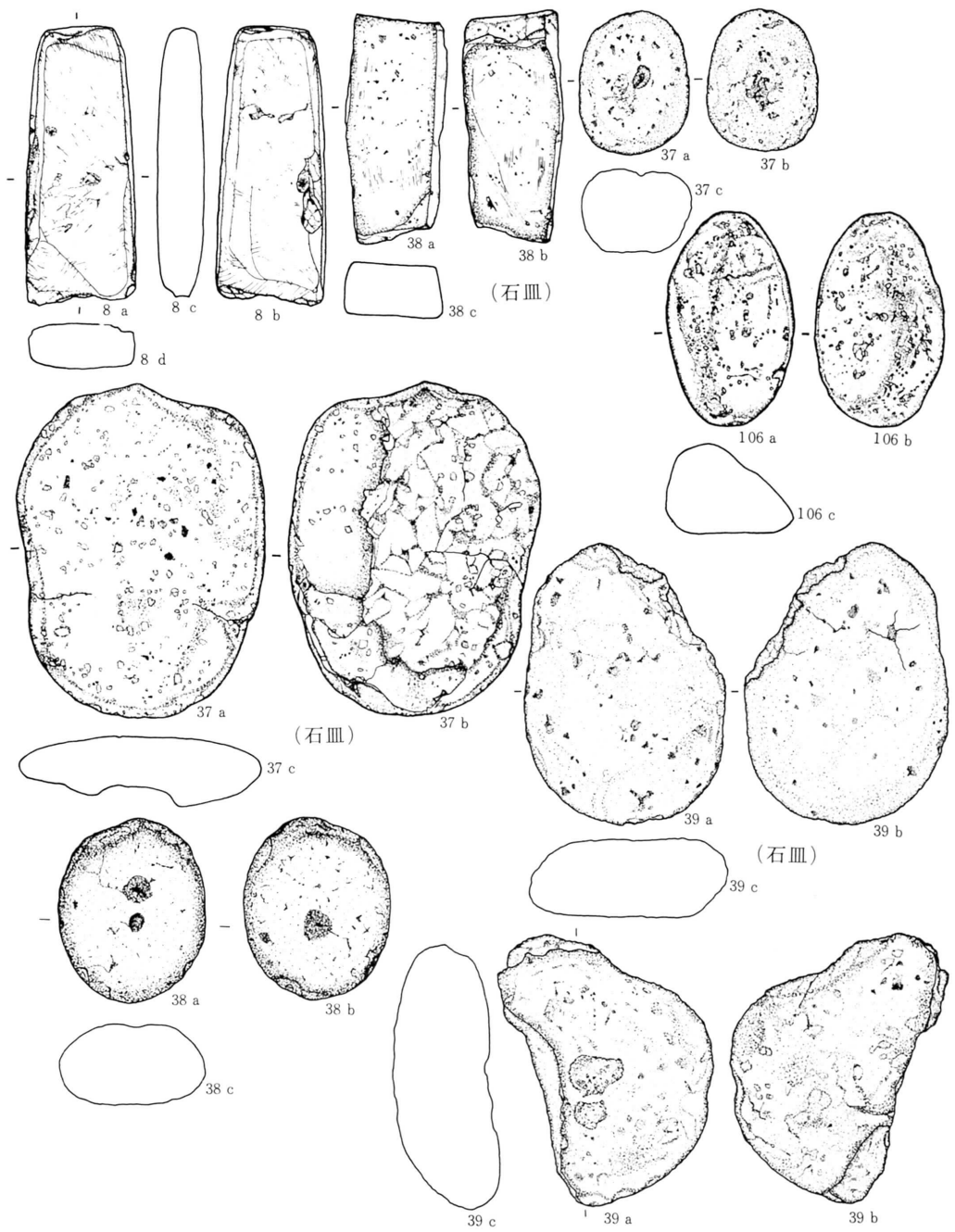
〔遺物〕 (1) 土器 床面上より復元可能土器1と若干量の破片を得た。それらはIII b類 (1)、IV類 (6)、V a類 (4)、VI類 (10)、VII b類 (3)などである。埋土中よりは比較的多量の破片類を得た。それらはI a類 (8)、II a類 (12~14)、II b類 (30)、III c類? (40)、III d類 (17)、IV類 (11)、VII b類 (15・19)、その他(ケズリ痕が条痕文を有する褶珍土器的な底部破片) などからなる。

(2) 石器類 床面からは12類(磨製石斧) 1、19類(石皿) 3、20類(凹み石) 2、21類(磨石) 1、22類(石剣類) ともみえるもの1を得た。19・20類の一部が炉中から検出されていることは、それらの用途の具体相の一部を反映するとみえ、留意されるべきであろう。

埋土からは3類(石族D) 1、4類(石錐) 1、9類(両刃ね不定形搔器) 6、10類(片刃の不定形搔器) 4、20類2、21類2、24類1などがそれぞれ検出され、さらに黒曜岩剥片・白色細粒凝灰岩の礫などの素材関連のものも得られた。石材の中に北上山地に供給源が想定されるものが混ざる点に注目すべきであろうか。他に耳栓1、首飾1を得た。

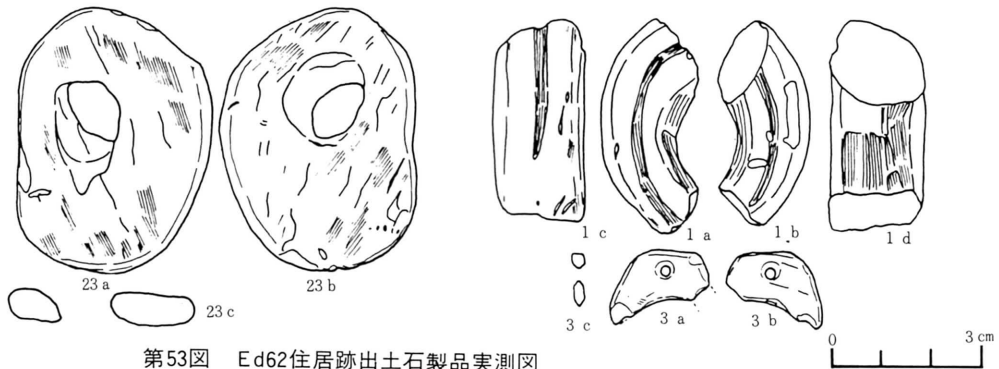


第51图 E d62住居跡出土石器実測图(1)



第52図 Ed62住居跡出土石器実測図(2)

0 10 20cm



第53図 E d62住居跡出土石製品実測図

種別	登録番号	地点	層位	計測値 cm・g				材質	分類	破損	素材	断面	打面	技法	つまみ	アスファルト
				たて	よこ	あつさ	重さ									
石	鏝	62	埋土	1.75	1.1	0.25	0.35	松脂岩	3類D-①	b d		イ		II		

種別	登録番号	地点	層位	計測値 cm・g				材質	分類	破損	素材	断面	打面	技法	つまみ	アスファルト
				たて	よこ	あつさ	重さ									
石	錐	3	埋土	4.9	1.5	0.45	3.6	泥質凝灰岩	4類	b	あ	ホ	イ	あ	II	

種別	登録番号	地点	層位	計測値 cm・g				材質	分類	刃部	素材	断面	打面	技法	表皮	刃漬し	その他
				たて	よこ	あつさ	重さ										
両刃の不定形掻器	364	Q 2	埋土	5.25	4.9	0.95	26.25	凝灰質硬質泥岩	9類	B	II	ニ	あ		P		
"	365	Q 1	"	4.9	3.5	1.1	19.15	"	"	B	II	イ	あ		P		
"	367	Q 2	"	6.65	2.05	1.6	18.1	凝灰質珪質泥岩	"	A	I	イ	あ		P		
"	368	Q 1	"	6.15	4.1	1.2	23.5	硬質泥岩	"	A	II	ニ	あ		P		
"	369	Q 4	"	7.5	3.9	1.7	30.8	凝灰質珪質泥岩	"	B	II	イ	あ		P		
"	370	"	"	8.9	5.55	1.8	103.15	硬質泥岩	"	A	I	ニ	い		P		
片刃の不定形掻器	267	Q 4	"	3.3	2.3	0.5	3.3	凝灰質珪質泥岩	10類								
"	268	"	"	4.3	4.2	1.0	18.6	珪質泥岩	"								
"	363	Q 2	"	7.75	4.0	1.5	40.0	凝灰質硬質泥岩	"								
"	366	Q 4	"	5.6	4.0	0.4	11.1	珪質泥岩	"								
石	斧	8	Q 4	床面	15.95	6.25	2.5	537.0	輝緑凝灰岩、古生界	完全	12類						
石	皿	37		床面	19.0	14.2	3.6	1,320.0	複輝石安山岩	完	19類	円盤状礫					
"	38		炉中		11.8	4.9	2.8	410.0	"	破	"	板状					
"	39		床面		15.8	11.7	3.8	720.0	石英安山岩質角礫凝灰岩	"	"	円盤状礫					

種別	登録番号	地点	層位	計測値 cm・g				材質	分類	破損	凹み		凹部数		その他	
				たて	よこ	あつさ	重さ				両面	片面	単	複		
凹み	石	37	Q 2	埋土	7.4	5.8	4.9	330.0	複輝石安山岩	20類	完	○		○		
"		38		"	10.2	8.3	4.8	570.0	"	"	"	○		○		
"		39		炉中	15.6	9.0	5.4	1,160.0	"	"	破		○	○?		半欠、火力をうけた?
"		47		床面	10.2	8.1	7.5	750.0	"	"	完		○	○		
磨	石	99	Q 4	埋土	5.5	4.5	4.7	130.0	"	"	完					
"		100		"	4.0	3.3	3.4	50.0	"	"	"					
"		106		床面	12.3	7.5	5.1	530.0	"	"	"					
(石剣?)		12		床面	14.15	8.35	1.15	122.1	層灰岩、中新統中部	22類	破					
不明磨製品		23	Q 2	埋土	5.2	3.8	0.85	22.4	淡緑色凝灰岩、中新統中部	24類						
剥片					省略				黒曜岩							

埋土中より、白色細粒凝灰岩(中新統上部) 6

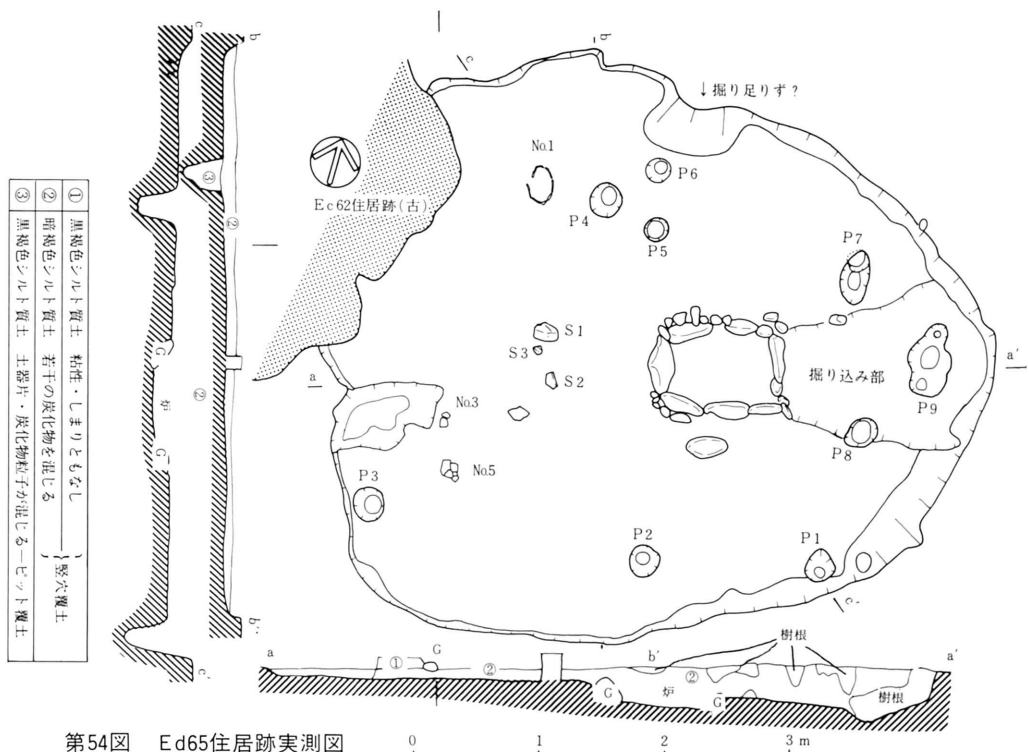
E d 65住居跡（第54～58図、図版12）〔遺構の確認〕調査地東南端近くのⅢ層上面に検出した。段丘崖を南にひかえたほぼ平坦部である。

〔重複・増改築の事実〕西北部でE c 62住居跡(古)と重複し、それが新規である。その南に樹根と思われる攪乱部がある。さらに炉東隣の掘り込み部にも樹根が入り込んでいるが、住居跡の構造を伏明にするほどのものではない。遺構それ自体には増改築の痕跡は観察できない。

〔平面形・方向〕重複等の理由から正確な形状は不明であるが、その規模は長径5.5m×短径4.6m×深さ0.2m以上で、卵形に近いものになるとと思われる。炉の長軸と掘り込み部の方向(それは堅穴の長軸方向に一致)を基準とすれば、ほぼ南西方向からややNE～SW方向にふれるものとなる。

〔堆積土〕耕作・樹根などによる攪乱のほかシルト質土が一様に見られ、異常は観察できない。なお現存壁高はきわめて浅い。

〔床面〕樹根等の影響はあるものの大略平坦である。なおこの部分の基盤は純粹のⅢ層であり礫の露出はほとんど無い。貼床等の処置は観察できない。礫・土器若干量が散布する。



第54図 E d65住居跡実測図

PitNo	上径	底径	深さ(m)	備考	PitNo	上径	底径	深さ(m)	備考
1	0.25×0.25	0.09×0.07	0.42		6	0.2×0.2	0.1×0.1	0.33	
2	0.25×0.25	0.1×0.08	0.44		7	0.45×0.22	0.15×0.1	0.3	底部斜行
3	0.3×0.25	0.15×0.13	0.1	柱穴ではない?	8	0.3×0.2	0.17×0.13	0.32	
4	0.3×0.25	0.15×0.11	0.31		9	0.6×0.35	0.2×0.14	0.14	柱穴ではない、樹根?
5	0.2×0.2	0.14×0.14	0.44						

〔柱穴〕壁外周部には検出できず、すべて床面上に8ヶ検出した。深さ0.3m以上のもののみであり、形状には共通点が多い。その配置はそれほど整然としていないが、炉の周囲・壁際などにその位置が予定されているとも見える。P₉には若干疑問がある。

〔炉〕床面中央の若干東寄りに、石囲いの燃焼部とそれに連続する掘り込み部の組みあわせで存在する。前者は所謂石囲い炉であり、大小の礫を用いてほぼ長方形（1.0×0.7m）に構築している。基本的には一重構造であろう。西辺は巨礫一個で構成されているが、外縁部が若干張り出すその礫自体の形状（の選択）に意図性があると仮定すれば、石囲いの形状は一辺にふくらみをもつ狭長なカマボコ型に近いことになろう。礫の構築法は断ち割りを実施しなかったので不明であるが、おそらくは、あらかじめ若干大きめの掘り込みをうがち、その中に据える形式のものであろう。

掘り込み部は石囲いの東辺に連続する東方へ深くなる長台形（0.7×1.3m）のものである。ただし、東端は樹根の影響をうけて不明である。その北縁に小礫が1個見られただけで、その他の異常は観察できない。P₃は樹根の影響をうけた部分そのものであり若干疑問あることは既にふれた。

〔その他の施設〕周溝他は検出できなかった。なお北壁中央の南方への張り出しは、掘り足りなさの結果の可能性が強い。

〔年代決定の資料〕床面上検出の土器類である。縄文時代中期と思われる。

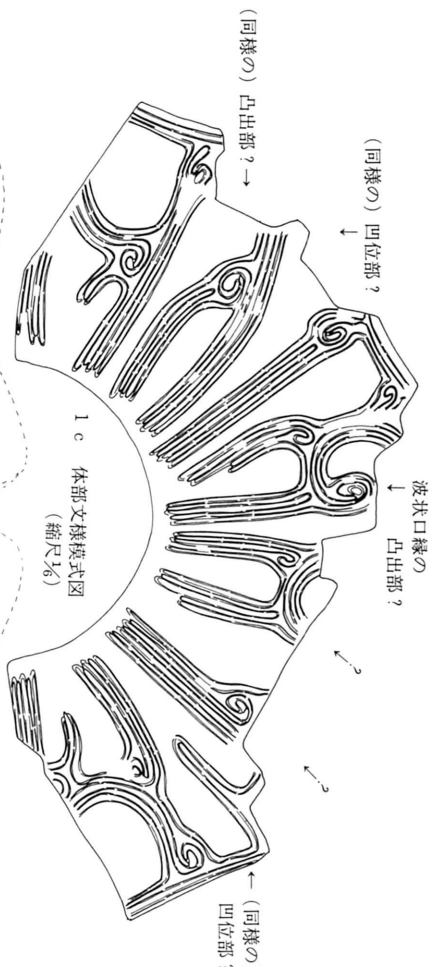
〔遺物〕（1）土器類 床面上からは、復元可能土器2と、若干量の破片を得た。床面出土量としては、本遺跡中では比較的多いといえよう。それらはI a類（3）、III c類（5）、V a類（1）、VI類（6）などからなる。1・5ともに縦位に展開する印象を与える隆・沈線による渦文（棘を伴う）1より体部文様帯がうずめられ、特徴的である。埋土中からは少量の底部破片を得たのみである。隆・沈線による渦文、沈線によるそれをもつものがあり、III～VII類のいずれかに該当しようが、特定できない。

（2）石器類 床面からは19類（石皿）3を得たのみである。埋土からは10類（片刃の不定形搔器）1、3類（石族D）2、などを検出した。

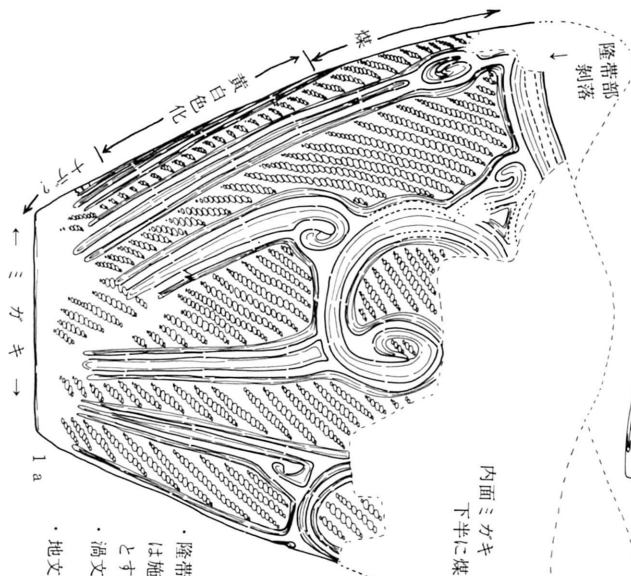
第55図 Ed65住居跡出土土器 (P 1、No 1)

実測図 (1)

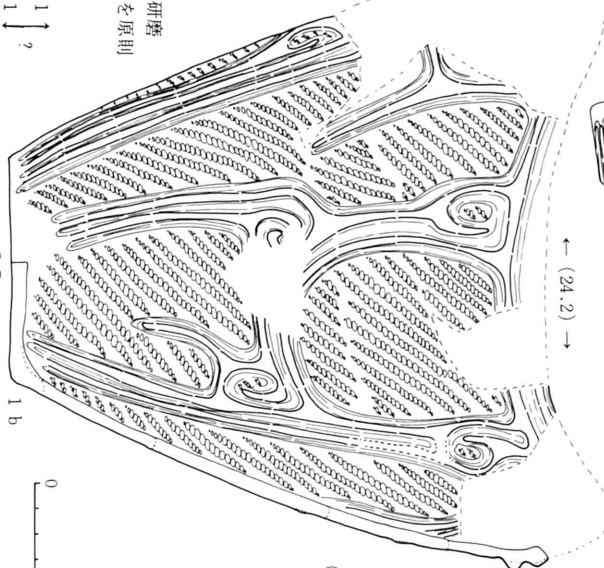
色調 内面 7.5Y R_{9/4}に3.5V橙
胎土 7.5Y R_{9/4} 黒
外面 7.5Yに3.5V橙、斑状に7.5Y R_{9/4}粗灰
胎土 粗砂あるもほぼ精良
焼成 良好・硬質
床面上出土
分類 Va ㉞



1c 体部文様模式図 (縮尺左)

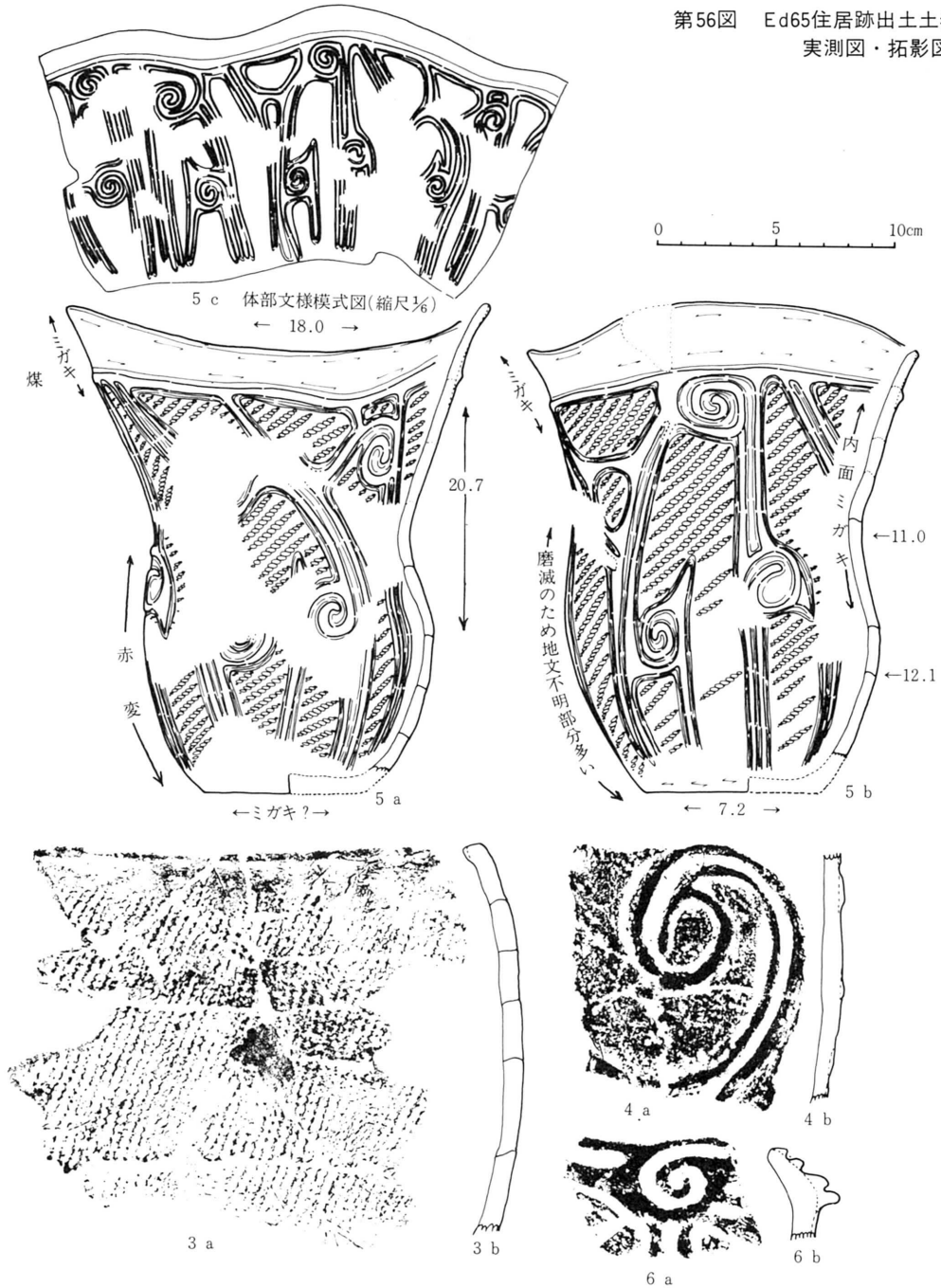


・隆帯部以外への研磨は施さないのを原則とする。
・福文 隆・沈線
・地文 RLR<1 1?

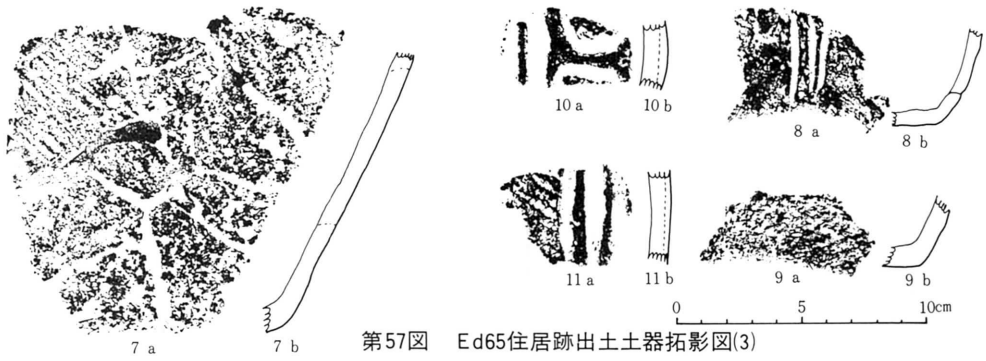


0 5 10cm

第56図 Ed65住居跡出土土器
実測図・拓影図(2)

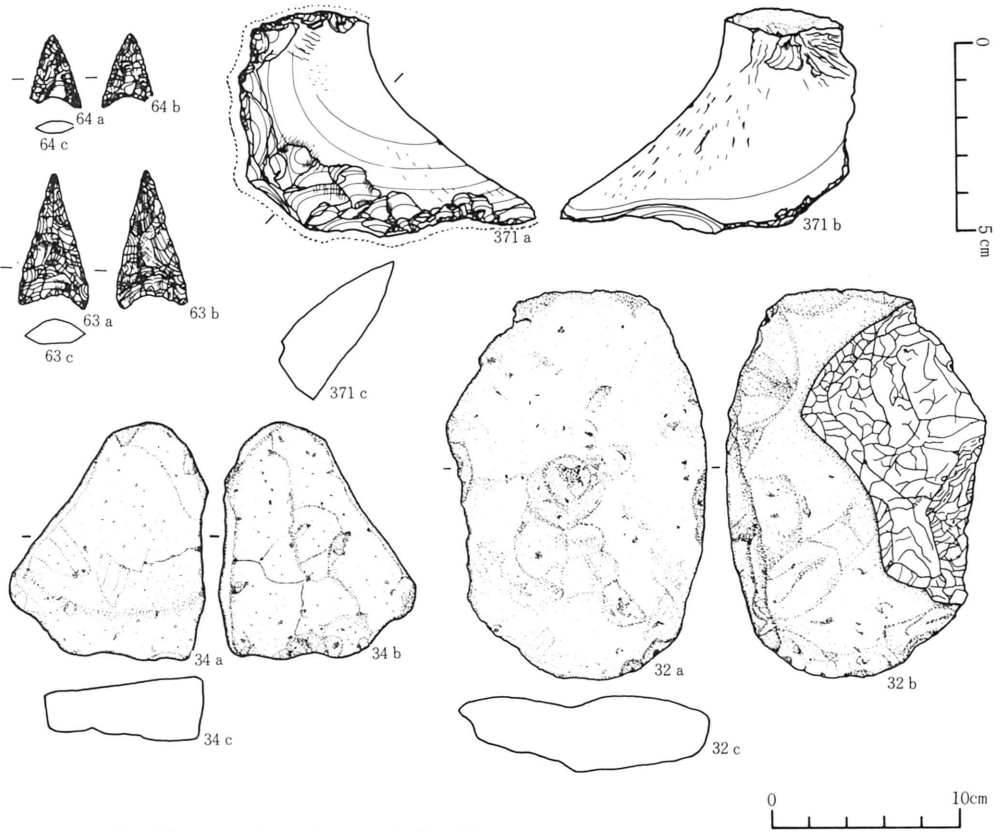


No	地点	層位	種別	分類	内面						外面						胎土	焼成						
					色	調	口縁	口内	胴	体底	色	調	口縁	口内	胴	体底								
3	P3	床面	深鉢	I a 3	5 Y R 5/6 滑	全面	大ミガキ	口縁	口内	胴	体底	5 Y R 5/6 滑	口縁	口内	胴	体底	全面	大ミガキ	口縁	口内	胴	体底	精	良好
4	P4	"	"	"	船土5 Y R 5/6 滑	全面	ミガキ、クラック	口縁	口内	胴	体底	部分的に5 Y R 5/6 滑	口縁	口内	胴	体底	全面	ミガキ、無文	口縁	口内	胴	体底	小石	脆弱
5	"	"	"	"	船土5 Y R 5/6 滑	全面	ミガキ、クラック	口縁	口内	胴	体底	5 Y R 5/6 滑	口縁	口内	胴	体底	全面	ミガキ、無文	口縁	口内	胴	体底	"	良好
6	P1	"	"	"	船土10 Y R 5/6 滑	全面	ミガキ、クラック	口縁	口内	胴	体底	同左	口縁	口内	胴	体底	全面	ミガキ、無文	口縁	口内	胴	体底	"	"



第57図 E d65住居跡出土土器拓影图(3)

No.	地点	層位	種別	分類	内 (裏) 面				外 (表) 面				胎土	焼成			
					色調	調			色調	調							
						口	縁	口		縁	体	上半			体	下半	底
7	P 2	床面	深鉢 (破・底)	—	7.5 Y R 5/6 におい褐 斑状に7.5 Y R 5/6 夕陽灰	—	—	—	—	5 Y R 5/6 赤褐	—	—	—	—	粗砂	不良 脆弱	
8		埋土	" (")	III b ④ ?	10 Y R 3/6 におい黄橙	—	—	—	—	7.5 Y R 5/6 におい橙	—	—	—	—	—	粗砂	良好
9		"	" (")	—	7.5 Y R 5/6 浅黄橙	—	—	—	—	7.5 Y R 5/6 橙	—	—	—	—	—	小石	"
10		"	" (破・体)	—	7.5 Y R 5/6 浅黄橙	—	—	—	—	同左	—	—	—	—	—	粗砂	"
11		"	" (")	—	7.5 Y R 3/6 におい橙	—	—	—	—	5 Y R 3/6 橙	—	—	—	—	—	精良	"



第58図 E d65住居跡出土土器実測图

種 別	登録 番号	地点	層位	計 測 値 cm・g				材 質	分 類	備 考	
				たて	よこ	あつさ	重 さ				
片刃の不定形搔器	371		埋土	9.0	7.6	1.7	58.65	凝灰質硬質泥岩	10 類		
石	皿	32	S 1	床面	20.5	13.0	4.3	1,340.0	複輝石安山岩	19 類	破、円盤状礫
"	"	33	S 2	"	12.0	10.1	5.5	1,000.0	浮石質角礫凝灰岩	"	破、板状
"	"	34	S 3	"	13.0	10.5	1.8	430.0	複輝石安山岩	"	破、円盤状礫
石	鉄	63		埋土	3.7	1.85	0.6	2.95	凝灰質硬質泥岩	3 類 D②	
"	"	64		"	2.05	1.3	0.2	0.4	珪質泥岩	" D①	

E e 65住居跡（第59～62図、図版13）〔遺構の確認〕調査地南端部のⅢ層上面に検出した。段丘崖を臨む地点であり、文字どおりの南端部である。

〔重複・増改築の事実〕北部においてE d 62住居跡と重複し、それより新規であり、西南部において近世墓地と重複する。遺構の残存状況が極めて不良で、それ自体の増改築等の事実は不明である。

〔平面形・方向〕上述の理由からこれらも不明である。ただし、北東部壁が本来のものであるならば、その平面形は方形のカテゴリに入るべきものかもしれない。方向については、推定される炉の長軸方向をとれば、東西方向となるかもしれぬ。



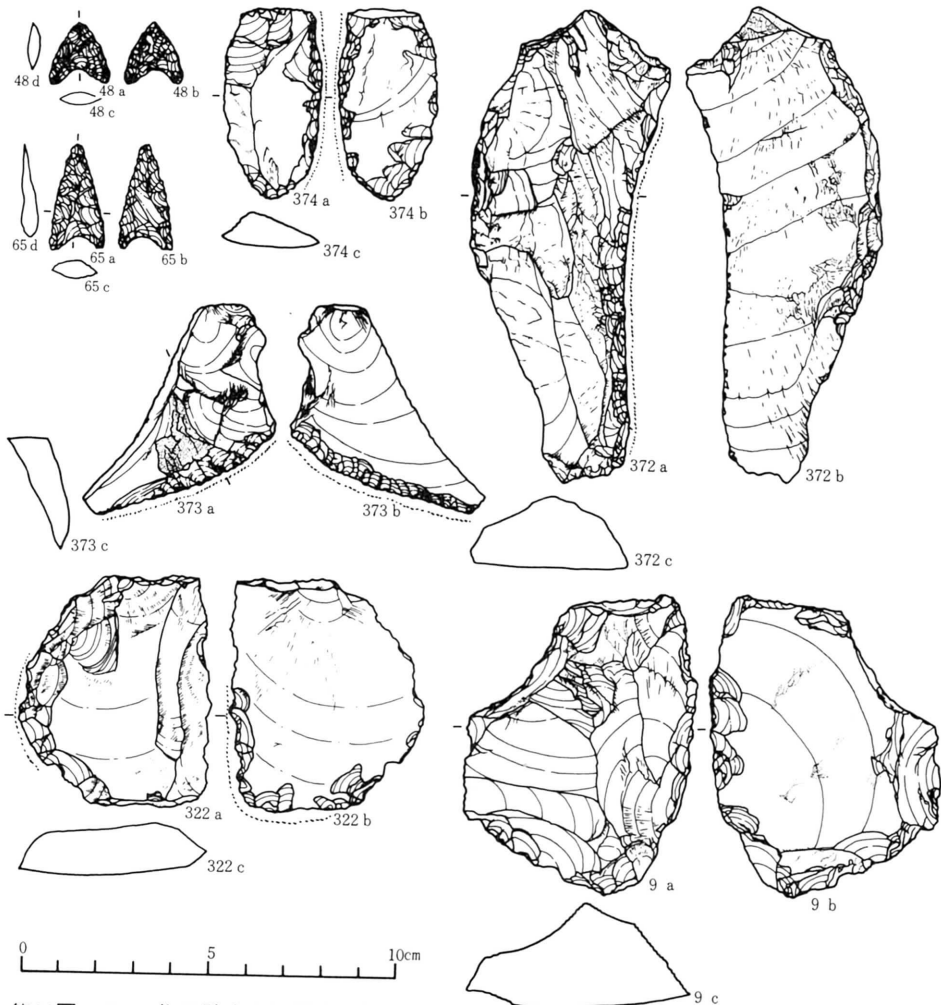
第59図 E e 65住居跡実測図

〔堆積土〕後世の攪乱をうけていることもあり、本来の覆土の残存は半分程度である。暗褐色シルト質土がほぼ単に堆積している程度である。攪乱は既述の墓地関連のものである。

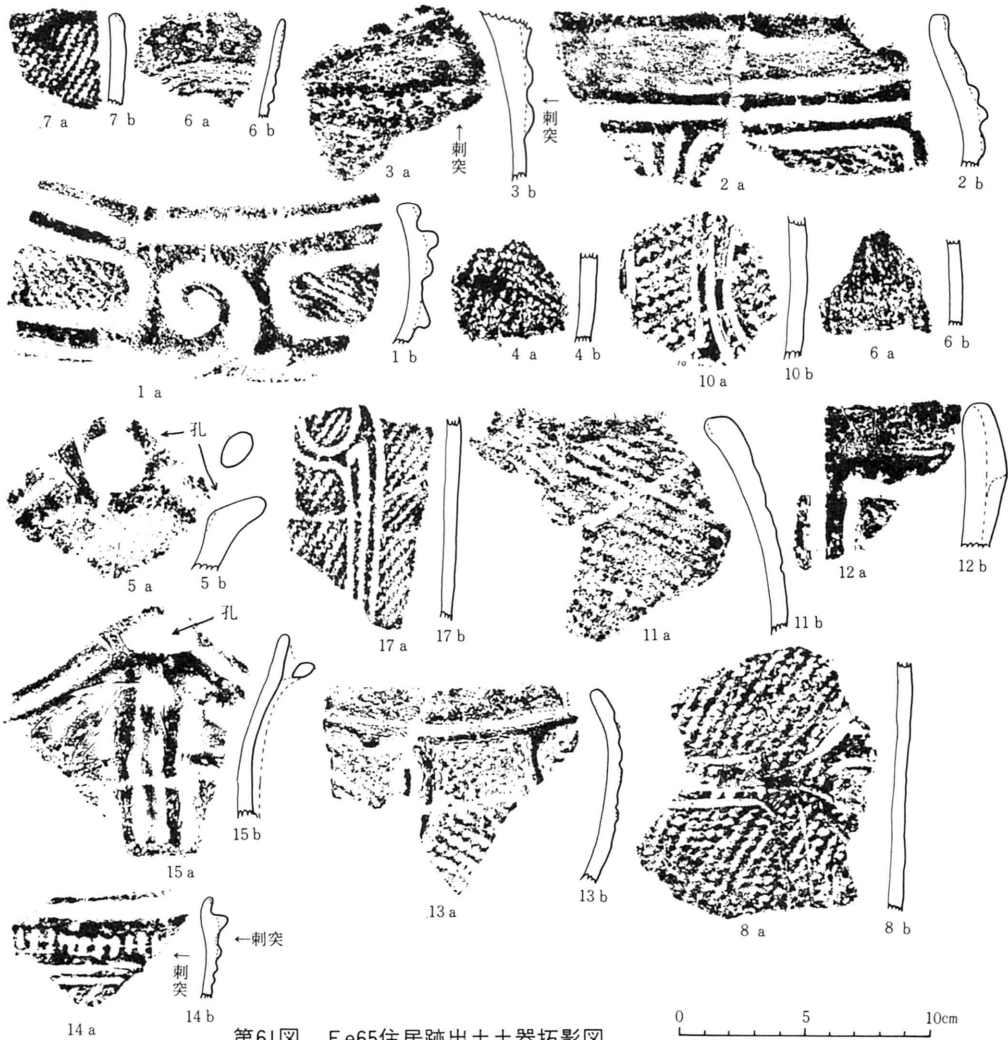
〔床面〕本来は地盤の傾斜に沿って西南方へ緩やかに傾斜する他は、あまり凹凸のないものであったと思われる。貼床等は見られない。礫が散在するが性格不明である。

〔柱穴〕床面と思われる部分に計6個のピットを検出したが、建物関連と思われるものはない。わずかに壁直下のP₁・P₂が0.3m以上の深さを持ち、関連する可能性をもつと思われるにすぎない。その場合は所謂主柱とは考えられない。したがって柱穴については不明である。

〔炉〕痕跡的なものを1ヶ所検出した。本来の姿を保っておらず、詳細不明である。北半は礫を欠き、その下位の据え方の痕跡が見られる。したがって“抜き取り、行為があったことを示すといえる。しかし、その時期については、攪乱部に隣接することもあり、断言しえない。

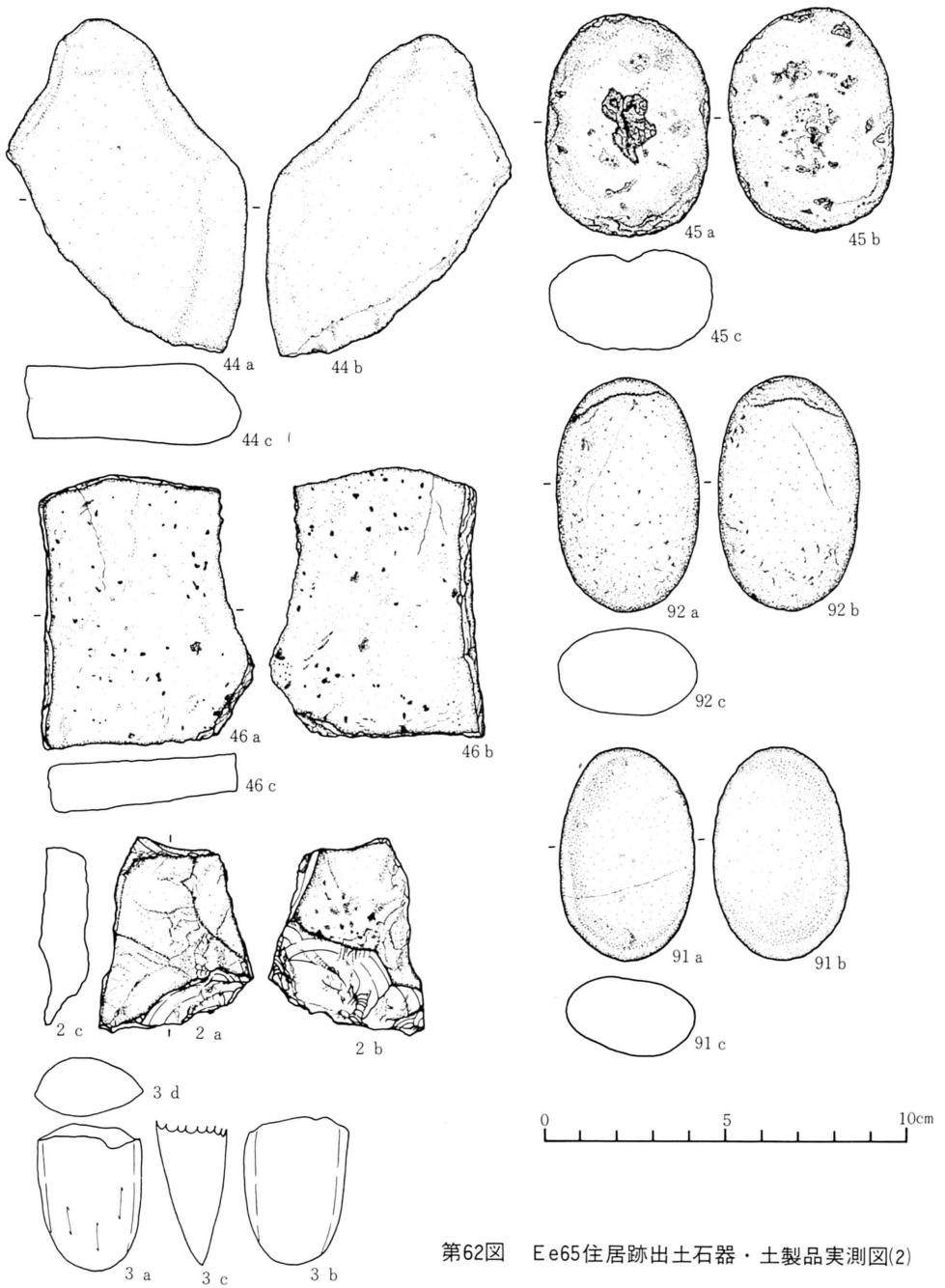


第60図 E e65住居跡出土石器実測図(1)



第61図 E e65住居跡出土土器拓影図

No.	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	焼成			
					色	調	口縁	口内	底	色	調	口縁			口内	体	下半
1			深鉢 (破・口)	V b ⑤	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	全面「シガキ」 クラック	—	—	—	同 左	—	—	—	—	—	粗砂	普通
2			"	V b ⑤	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	"	"	"	同 左	—	—	—	—	—	—	"	"
3			"	IV ④	10Y R 7.5/6黄褐色 胎土10Y R 7.5/6暗灰	"	"	"	同 左	—	—	—	—	—	—	"	"
4			"	(破・体)	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	"	"	"	7.5Y R 7.5/6黄褐色 使用痕?	—	—	—	—	—	—	"	"
5			深溝 (破・口)	N ④?	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	"	"	"	同 左	—	—	—	—	—	—	"	"
6			"	(破・体)	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	煤付着	"	"	7.5Y R 7.5/6黄褐色	—	—	—	—	—	—	"	"
7			中鉢	I a 1 ②	5Y R 7.5/6黄褐色 胎土10Y R 7.5/6暗灰	「シガキ」 クラック	—	—	5Y R 7.5/6黄褐色 胎土10Y R 7.5/6暗灰	—	—	—	—	—	—	ほぼ精	良好
8			床面 Q 3	(破・体)	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	「シガキ」 クラック	—	—	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	—	—	—	—	—	—	粗砂ある もほぼ精	"
9			床面 (破・口)	(破・口)	5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	「シガキ」 クラック	—	—	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	—	—	—	—	—	—	"	"
10			床面 (破・体)	(破・体)	5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	「シガキ」 クラック	—	—	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	—	—	—	—	—	—	精	良好
11	Q 4		埋土 深鉢 (破・口)	I a 3 ②	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	「シガキ」 クラック	—	—	5Y R 7.5/6黄褐色 胎土10Y R 7.5/6暗灰	—	—	—	—	—	—	"	"
12			"	V b ⑤	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	"	"	"	同 左	—	—	—	—	—	—	小石	"
13	Q 3		"	V b ⑤	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	"	"	"	同 左	—	—	—	—	—	—	"	"
14	Q 2		"	VI ④	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	"	"	"	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	—	—	—	—	—	—	上層位刺突文列	良好
15	Q 4		"	N ④?	5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	"	"	"	5Y R 7.5/6黄褐色 胎土10Y R 7.5/6暗灰	—	—	—	—	—	—	"	"
17	周溝		深鉢 (破・体)	(破・体)	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	「シガキ」 クラック	—	—	7.5Y R 7.5/6黄褐色 胎土13.5Y R 7.5/6暗灰	—	—	—	—	—	—	"	"



第62図 Ee65住居跡出土石器・土製品実測図(2)

平面形は隅丸方形（東西に長い）と思われる。構築法等は不明である。

〔その他の施設〕 何ら観察できない。

〔年代決定の資料〕 床面と思われる部分・周溝中・炉中検出の土器である。縄文中期であろう。

〔遺物〕 (1) 土器類 いずれも細片の形で得られた。床面上・周溝中・炉中からは、I a 類 (7)、IV 類 (3・5)、V b 類 (2)、VII b 類 (1) の各類を得た。埋土中から I a 類 (11)、IV 類 (15)、V b 類 (12・13)、VI 類 (14) の各類の出土を見た。相互に共通したあり方を示していると思われる。

(2) 石器類 床面上からも比較的多く出土している。9 類 (両刃の不定形搔器) 1、13 類 (両刃石器) 1、19 類 (石皿) 1、20 類 (凹み石) 9、21 類 (磨石) 1 などであり、他に原石関係のものそして硬質泥岩・凝灰質硬質泥岩・砂質凝灰岩・凝灰質砂岩の礫も得られた。20 類の多さはやや異常とも見える。埋土からは 3 類 (石族 D) 2、9 類 1、10 類 2、19 類 2、21 類 2 などが得られた。

種 別	登録 番号	地点	層位	計 測 値 cm・g				材 質	分 類	破 損	素 材	断 面	加 撃 面み	打 面	技 法	つまみ	ア ルス トフ
				た	よ	こ	あつさ										
石 鏃	48	Q 2	埋土	1.8	1.55	0.3	0.6	珪質泥岩	3 類 D-①	a		イ			II		
"	65	Q 3	"	2.85	1.4	0.4	1.2	玉 髓	" D-②	b		イ			II		
両刃の不定形搔器	373		床面	6.75	3.2	0.85	14.0	鉄質石英	9 類	B	II	イ		あ	V	P	
"	374		埋土	5.1	2.5	0.85	11.5	流紋岩	"	"	"	"		"	V		
片刃の不定形搔器	372	Q 3	"	12.6	4.4	2.1	97.0	凝灰質硬質泥岩	10 類								
"	375	Q 4	"	7.15	5.6	1.45	59.15	流紋岩質細粒凝灰岩	"								
両 刃 石 器	9		床面	8.15	5.9	3.5	128.9	"	13 類								
石 皿	43		"	16.1	9.2	5.0	1,000.0	複輝石安山岩 中新統中部	19 類	破				円盤状礫			
"	44		"	19.2	10.8	4.0	1,380.0	" "	" "	" "				縁部研磨			
"	45		埋土	15.4	10.9	3.2	680.0	" "	" "	" "				板 状			
"	46		床面	14.5	11.3	2.1	890.0	" "	" "	" "				"			
"	64		埋土	17.5	14.3	2.5	1,330.0	" "	" "	" "				"			

種 別	登録 番号	地点	層位	計 測 値 cm・g				材 質	分 類	破 損	凹 部			凹 部 数	そ の 他
				た	よ	こ	あつさ				重 さ	両面	片面		
凹 み 石	40		床面	13.5	6.7	4.9	490.0	複輝石安山岩 中新統中部	20 類	完?	○		○		
"	41		"	13.1	7.8	4.0	520.0	" "	" "	" "		○	○		大型凹部
"	42		"	10.4	5.3	3.5	240.0	" "	" "	" "	○		○		
"	43		"	11.5	8.4	5.2	750.0	" "	" "	" "	○			○	
"	44		"	11.2	7.3	5.4	590.0	" "	" "	" "	○			○	
"	45		"	11.1	6.8	3.3	540.0	" "	" "	完		○		○	
"	46		"	7.4	5.2	3.8	180.0	" "	" "	" "		○	○		
"	48	ヒ ト	埋土	10.1	8.8	7.4	930.0	" "	" "	" "		○	○		
"	49		床面	10.8	5.4	6.8	480.0	" "	" "	破		○	○		半欠
磨 石	91		床面	11.5	7.3	4.4	530.0	花崗斑岩	21 類	完					
"	92		埋土	12.8	7.8	4.8	720.0	" "	" "	" "					
"	93		"	2.8	2.7	1.8	10.0	複輝石安山岩 中新統中部	" "	" "					
原 石	3		床面	11.5	11.45	9.05	1,155.0	硬質泥岩	1 類						
"	2		"	10.9	8.5	2.9	284.5	凝灰質硬質泥岩	" "	" "					

他に自然石として、砂質凝灰岩 1、凝灰質砂岩 1

E e 68住居跡（第63～72図、図版14～16）〔遺構の確認〕調査地南東端部付近で、その東縁部のⅢ層上面に検出した。南方直近に段丘崖をひかえた、段丘面の南縁近くである。平坦である。

〔重複・増改築の事実〕北部においてE f 68遺構、南部においてE i 68遺構とそれぞれ重複し、それらより新規である。炉の可能性のあるものが複数存在し、単期使用ではない可能性もある。

〔平面形・方向〕その東半部は道路用地外に位置しているので、その西半部しか明らかでない。西半部をもとにすると、円形ではなく、南北長6.5m×東西長3.0+ α m×深さ0.2～0.1m程度のもとなれると思われる。西壁の方位は磁北より若干西にふれている。壁は凹凸に富む。

〔堆積土〕既述の如く現壁高が浅いこともあり、基本的には、暗褐色系統のシルト質土がほぼ一様に堆積している程度である。床面上に焼土の堆積部があり、その上位に土器片、その内部に炭化した果実（後述）等が存在した。その他の特記事項はない。

〔床面〕既述のように床面上に焼土・土器・炭化果実等が比較的多く見られた。焼土は床面が焼けたものではない。他に巨礫も散在する。その他は大略平坦である。貼床等の措置は観察できない。

〔柱穴〕その可能性あるものを4個検出した。いずれも西壁に沿っており、あまり床面中央に入り込んではいない。深さは0.3m前後以上と深いもののみである。P₅の覆土上位より先と同様の炭化した果実が出土している。貯蔵穴の可能性もある。

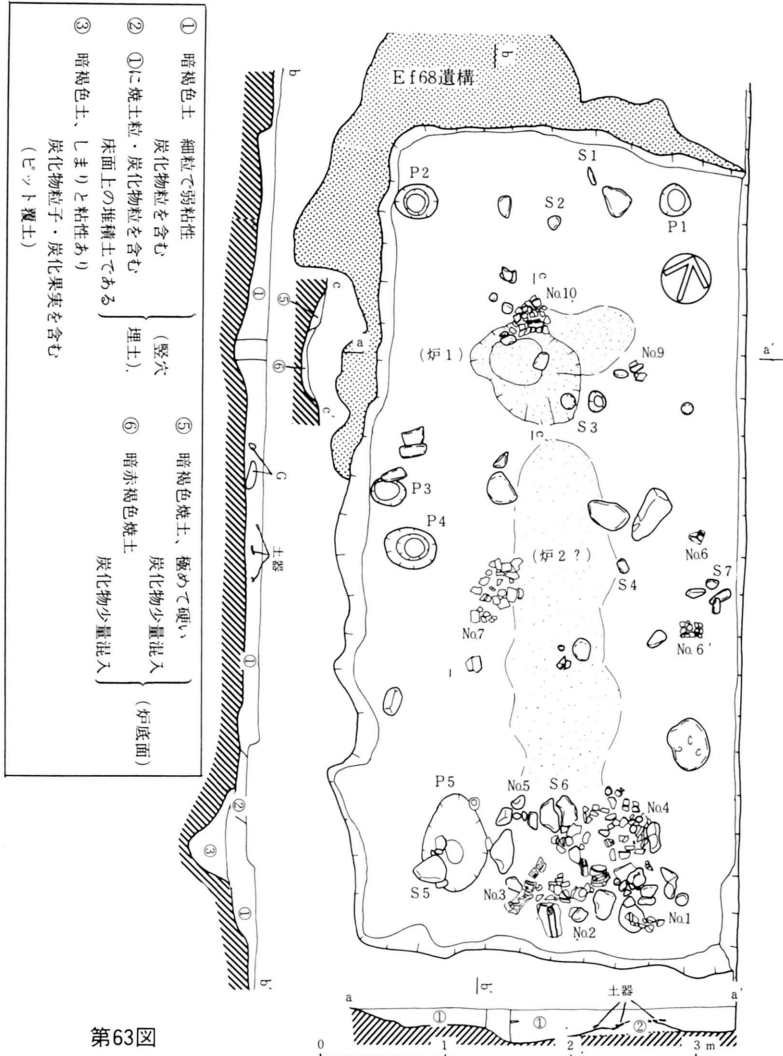
〔炉〕明らかにそうと判断してよいものは、中央より若干北寄りに1個所検出した（炉1）。若干不整形ではあるが、長径0.8×短径0.7m×深さ0.15m程度の規模をもつ。礫の抜き取り穴と見做すべき痕跡は観察できないので、石囲い炉ではなく所謂“地床炉、であろう。炉中とその北西隣に焼土が分布し、さらに北縁部に土器が存在する。埋設土器ではないと思われる。

炉1の南に、わずかな焼土の中断部において、再度、巾0.7m平均で焼土が帯状に分布し、その南端部（南壁直前）に土器類他が多くのもっている。この焼土下位に掘り込み（炉の燃焼部）が存在するか否かは、そこに断ち割りを実施しなかった調査上の不備から、一切不明である。巾がほぼ一定である点を考慮すると、炉であった可能性が強い。帯状に連続する点は、単に焼土のかき出し行為の結果だけではなく、炉のさらなる複数存在の可能性をも示すものである。明確になしえない点はまことに遺憾である。

土器片・礫等は焼土上のもっているだけで、本来の床面レベルよりはかなり高位置にある。しかし、その下位に腐蝕土などの層が見られないことから、遺構とそれほど時間差をもたないものと思われる。

〔年代決定の資料〕床面・焼土上・焼土中出土の土器片、炭化果実等である。縄文中期である。

〔遺物〕（1）土器類 床面他より比較的多量のものを得たが、原形に復しうるものは少な



第63図 Ee68住居跡実測図

PitNo.	上径	底径	深さ(m)	備考
1	0.25×0.25	0.15×0.13	0.02	柱穴ではない?
2	0.35×0.28	0.15×0.15	0.4	中段あり、柱あたり?
3	0.28×0.2	0.2×0.14	0.33	
4	0.43×0.32	0.15×0.15	0.25	中段あり、柱あたり?
5	0.75×0.5	0.18×0.15	0.4	

い。I a類 (16・17・18・19)、I b類 (3)、I c類 (15)、III c類 (11・21)、III d類 (13)、V a類 (10・20)、V b類 (6~8)、VII a類 (2・24)などを床面上、ピット中から得た。これらが遺構の年代に近いものであろうことには既にふれた。埋土中よりはVI類 (22)を得た程度であり量的に極めて少なく、若干不自然さを感じる。これは遺構確認にいたる以前に、包含層出土資料として取り上げられた可能性があることの反映かとも思われる。したがって、EブロックのNo68グリッド出土の資料中に埋土出土のものが混じている可能性が大であることを一言のべておく。

床面上からの如上の多量の土器類の出土状況は、住居廃棄直後(床面上に腐蝕土が発達する以前)における土器の投棄とも考えられよう。そのような資料の一つとして提示する。

(2) 石器類 床面上より13類(両刃石器)1、20類(凹み石)3、21類(磨石)2、敲打器

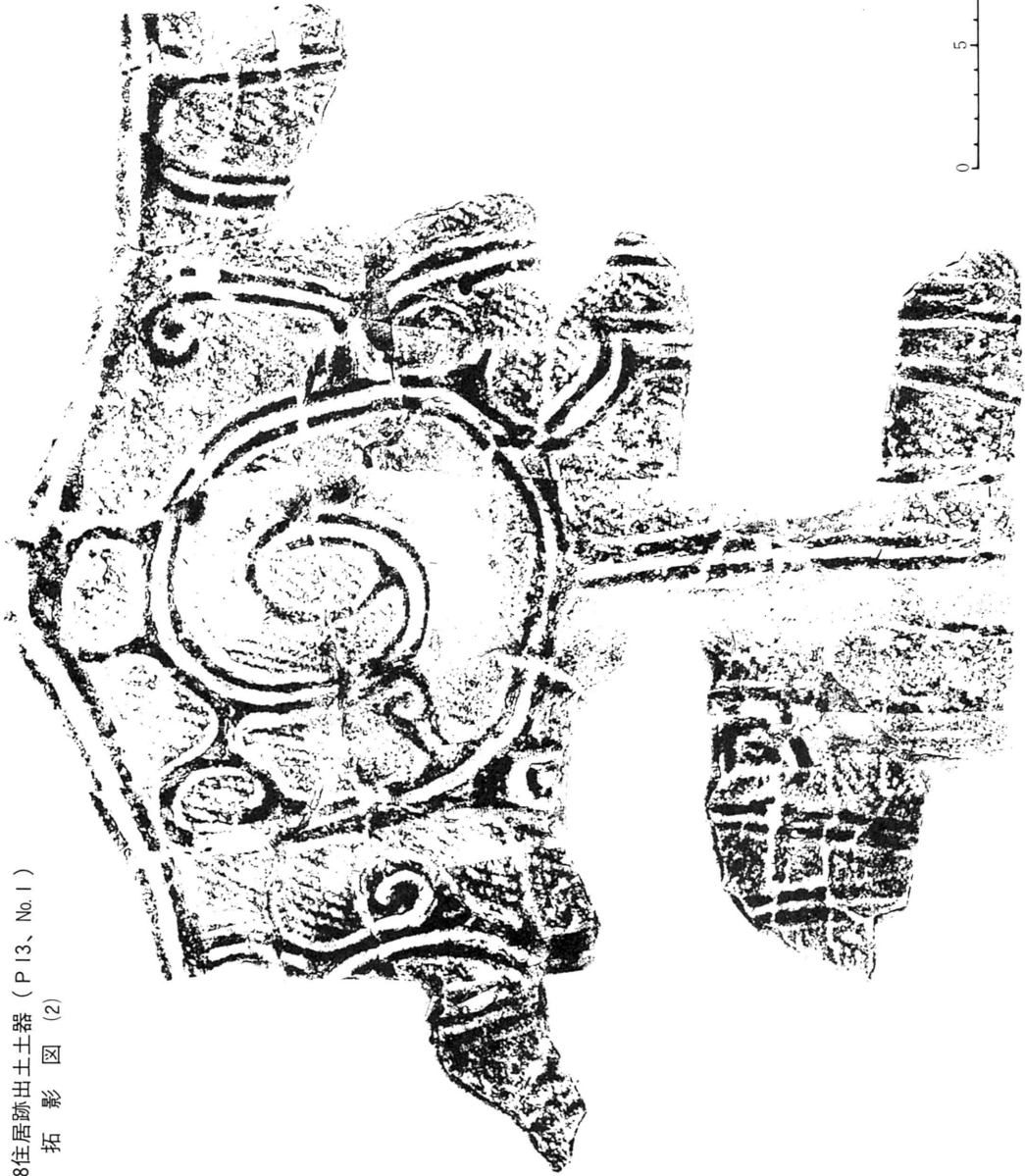
第64図 E68居住跡出土土器 (P13、No.1) 実測図(1)

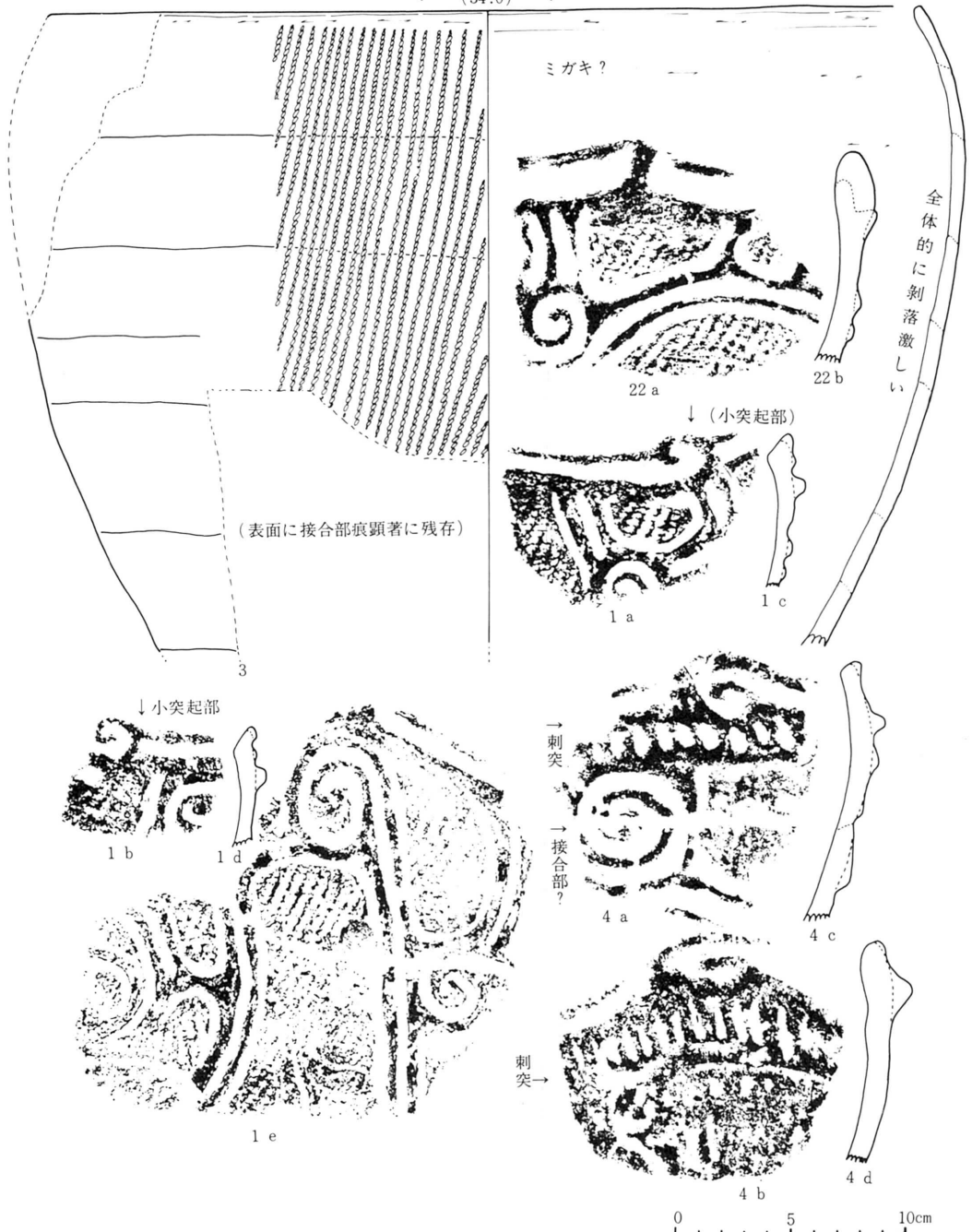
胎土 小石多く粗
焼成 良 好

色調 内面 5YR% 橙
胎土 7.5YR% 黒褐
外面 上半 7.5YR% 灰褐
下半 7.5YR% 浅黄橙
分類 VI(7)



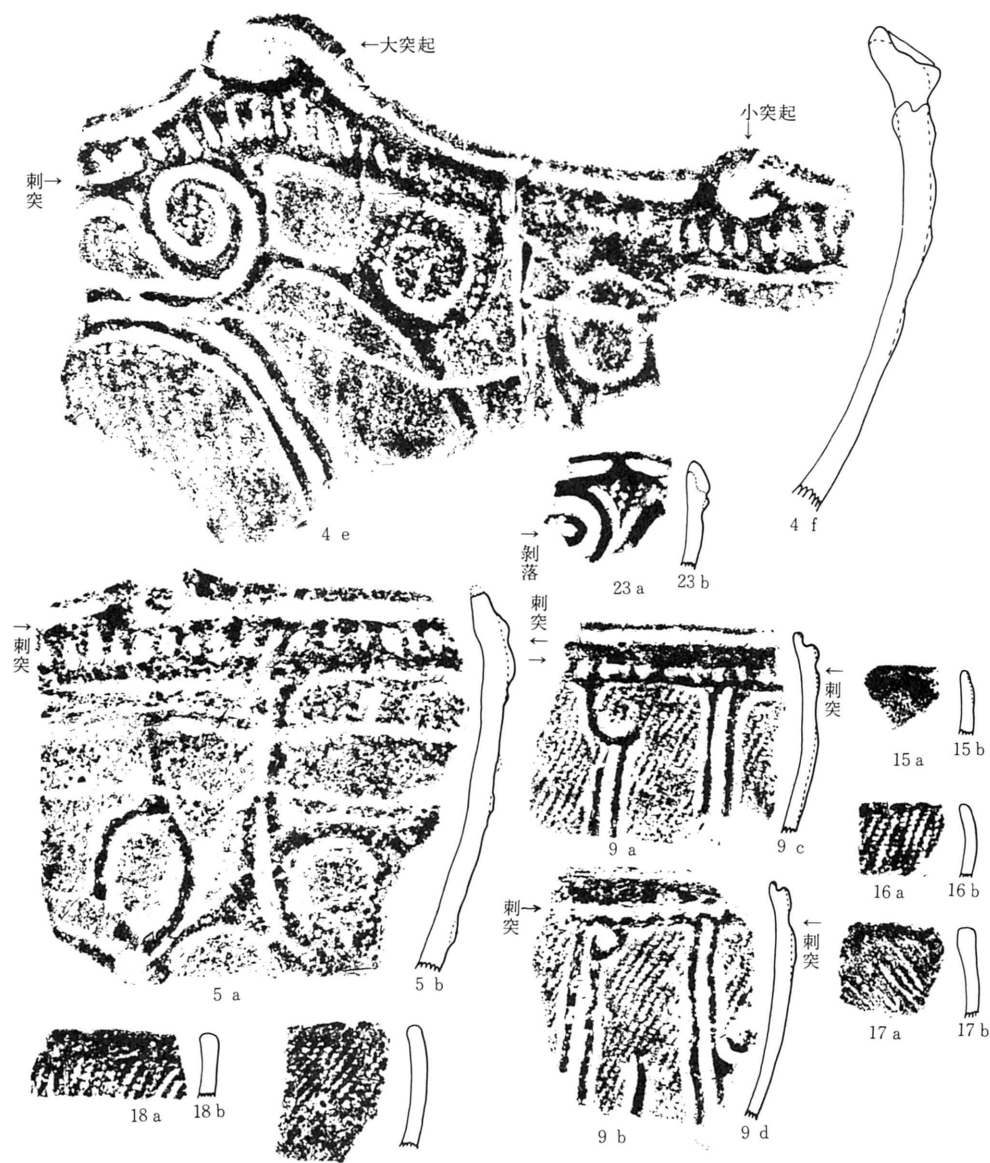
第65图 E 668住居跡出土土器 (P 13、No. 1)
拓影图 (2)





第66図 Ee68住居跡出土土器実測図・拓影図(3)

No.	地点	層位	種別	分類	内面			外面			胎土	焼成		
					色	調	口	種	口	種			口	種
1	P13 P11	体面	深鉢(平突口+体)	青空	5Y R5/6 胎土7.5Y R5/6黒灰	全面にウキ、横位 体下半剥落重し 使用痕?	体	黄	体上半まで7.5Y R5/6灰黒 下半7.5Y R5/6浅黄橙 使用痕?	中流状突起、渦文沈線+凹み それか口縁へも連続 3/ウキ、クラック、縦状剥落	全面渦文(降・沈線) 地文 R L< ; ↓	-	小石	良好
3	P10	"	"(碗・口+体)	1 b 3 青	7.5Y R5/6 胎土7.5Y R5/6黒灰	下半に剥落重し 下半に胎土露出使用痕(?)	体	黄	7.5Y R5/6 縦状に7.5Y R5/6成時?	半輪、内湾 口縁にウキ	縦文が豪快文のみ 裏地接し手(巾4.5cm)	-	"	"
4	P11 P4	"	"(碗・口+体)	青空	7.5Y R5/6浅黄橙 体下半7.5Y R5/6に3/ウキ 胎土7.5Y R5/6黒灰、使用痕	全面にウキ 上半横位、下半縦位 下半に剥落部多し	体	黄	10Y R5/6浅黄橙 下半に5Y R5/6 使用痕	縦大流状2(凹)同中流状2、渦文 口縁に凹みと折沈線部部に縦位刺突文別、クラック剥落重し	渦文(降・沈線) 地文 R L< ; ↓	-	"	"
22	大丘(3) P6	埋土	"	青空	10Y R5/6黄橙 胎土10Y R5/6灰黒	同上 クラック	体	黄	10Y R5/6 凹部に10Y R5/6	縦流状、内陥しそこに凹み	同上	-	小石	良好



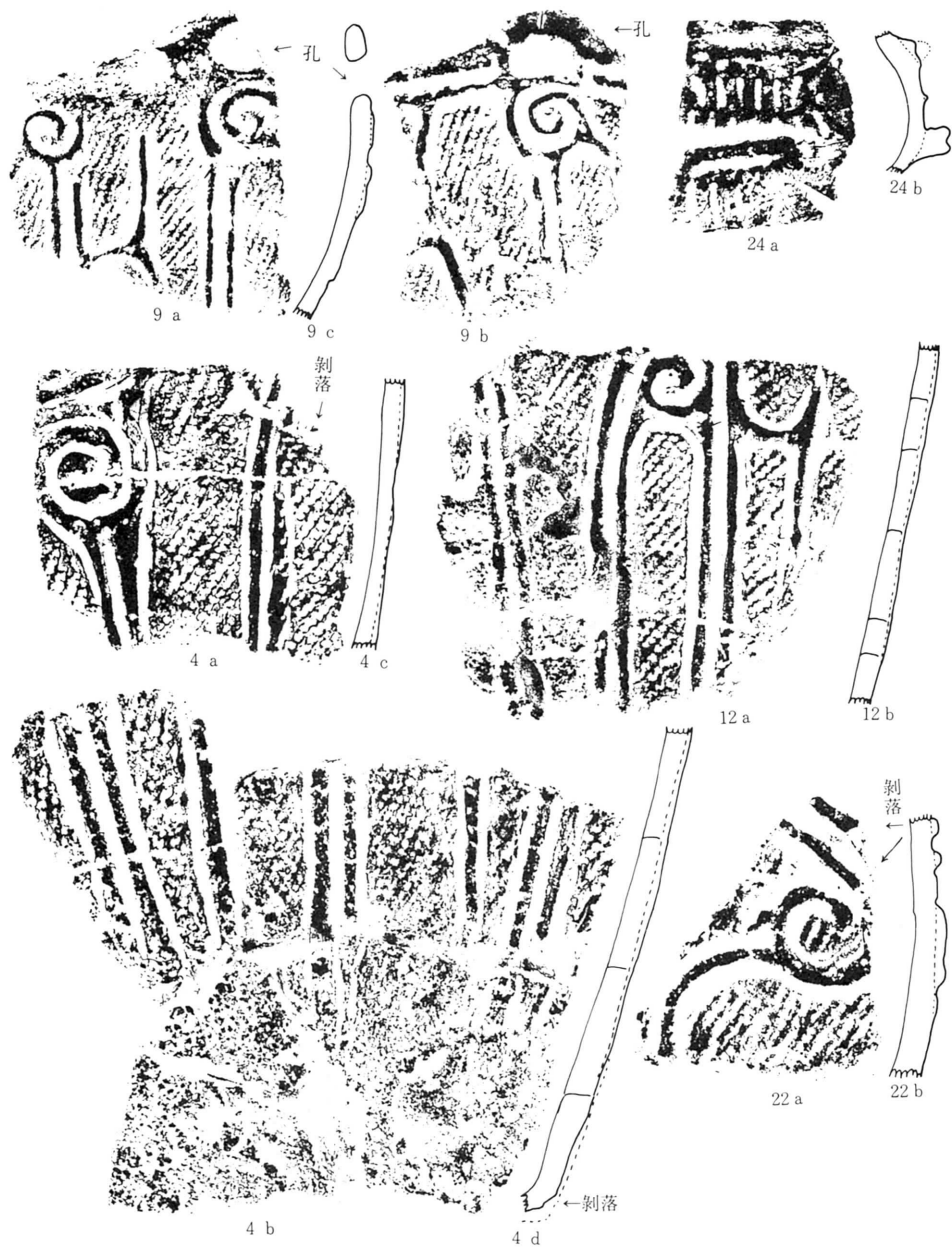
第67図 E e68住居跡出土土器拓影図(4)

No.	地点	層位	種類	分類	内面				外面				胎土	焼成		
					色	調	口	縁	口	縁	体	底				
5	P11	床面	深鉢 (磁・口)	Ⅵ①	1.5Y R 5/6 淡黄 胎土10Y R 5/6 黄橙	口縁に口・頸・体・底 ミグキ、下半クラック、 刺突部多し使用痕?	底	1.5Y R 5/6 淡黄	同上	口縁に口・頸・体・底 同上	同上	同上	同上	粗砂	脆弱	
9	P7	床面	"	Ⅵ②	口縁5Y R 5/6 帯 それ以下5Y R 5/6 に濃い赤褐 胎土5Y R 5/6 黒褐	ミグキ クラック 刺突顯著	底	1.5Y R 5/6 帯 それ以下5Y R 5/6 帯 使用痕?	縦溝状突起・穿孔 口縁に凹み、ミグキ 全面黄文(除・沈線) 地文なし<1%	上半連続刺突文 全面黄文(除・沈線) 地文なし<1%	同上	同上	同上	小石	良好	
15	"	"	"	I c 3 (磁・口)	5Y R 5/6 に濃い赤褐 胎土5Y R 5/6 黒褐	ミグキ? 多孔質	底	1.5Y R 5/6 に濃い赤褐	半線、薄化、端部ミグキ、無文帯 それ以下織文?	同上	同上	同上	同上	粗砂	良好	
16	"	"	"	I a 3 (")	1.5Y R 5/6 帯底 胎土同	ミグキ 入念	底	左に同じ	半線、薄化、口縁のみミグキ 直下に織文、且上<1%	同上	同上	同上	同上	小石ある 右は沈線	"	
17	"	"	"	I a 3 (")	端部1.5Y R 5/6 帯 それ以下1.5Y R 5/6 帯 使用痕	"	底	1.5Y R 5/6 帯赤 煤付着使用痕	織文不明 クラック	同上	同上	同上	同上	小石ある 右は沈線	"	
18	P2	床面	深鉢 (磁・口)	Ⅰ a 3	1.5Y R 5/6 淡黄橙 胎土1.5Y R 5/6 帯底	ミグキ クラック	底	端部1.5Y R 5/6 それ以下1.5Y R 5/6	半線、口縁、端部ミグキ、無文帯 それ以下R.L.<1%織文	同上	同上	同上	同上	小石ある 右は沈線	良好	
19	Q4	"	"	Ⅰ a 3 (")	1.5Y R 5/6 帯赤褐 胎土1.5Y R 1.7/赤黒	同上	底	同上	同上	同上	同上	同上	同上	小石	"	
23	Q2	床面	"	Ⅵ①	5Y R 5/6 に濃い赤褐使用痕? 斑状に1.5Y R 5/6 淡黄橙 胎土1.5Y R 5/6 帯赤褐	同上	底	1.5Y R 5/6 帯赤褐	同上	同上	同上	同上	同上	同上	粘	良好



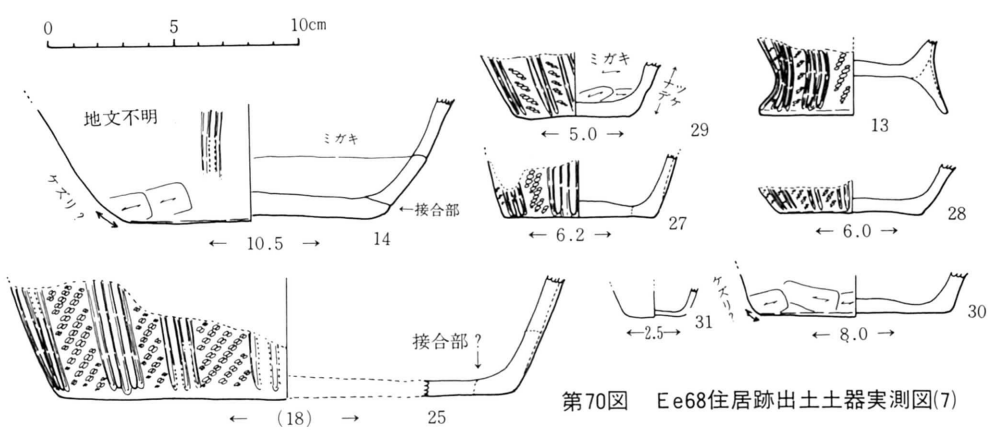
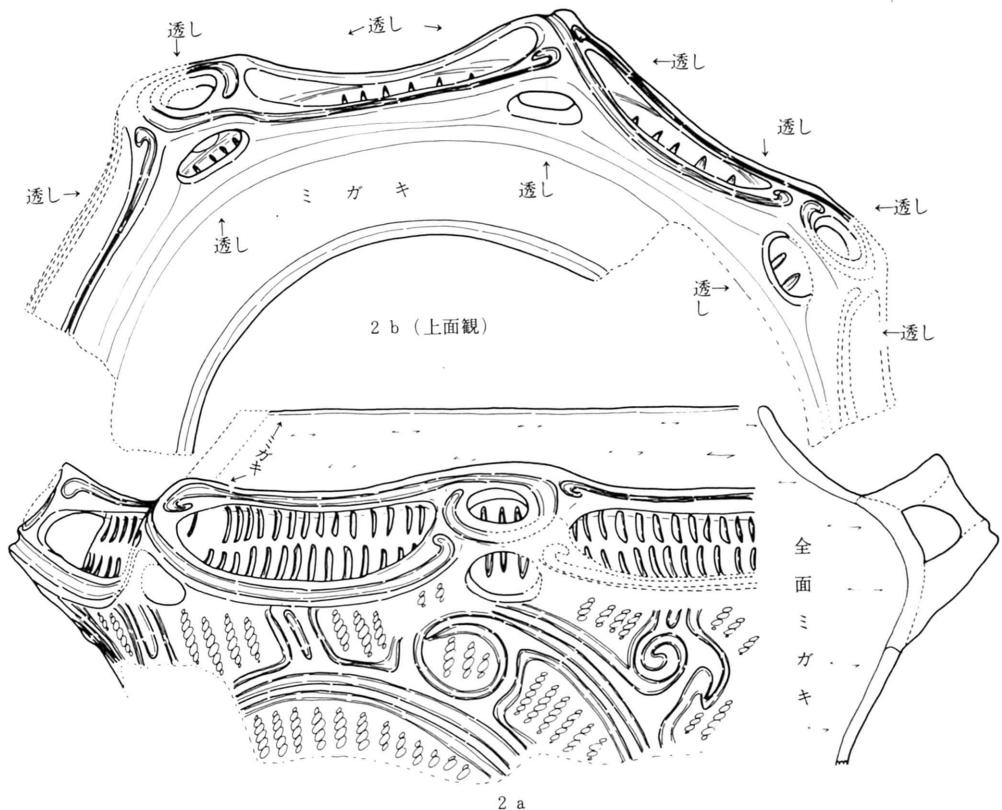
第68图 E668住居跡出土土器拓影图(5)

No.	地内	層位	種別	分期	陶				土				刺	備	
					色	質	11	種	11	節	色	質			11
9	D-1	深鉢	深鉢	V期	1.5V H% 敷1.5V H% A黄粉	1.5 2.0 2.0			同左						
10	P-2	"	"	V期	1.5V H% 敷1.5V H% A黄粉	1.5 2.0 2.0			同左						
11	P-12	"	"	V期	1.5V H% 敷1.5V H% A黄粉	1.5 2.0 2.0			同左						
10	D-4	"	"	V期	1.5V H% 敷1.5V H% A黄粉	1.5 2.0 2.0			同左						
11	P-6	"	"	田	1.5V H% 敷1.5V H% A黄粉	1.5 2.0 2.0			同左						
20	Q-3	"	"	V期	1.5V H% 敷1.5V H% A黄粉	1.5 2.0 2.0			同左						
21	P-2	"	"	田	1.5V H% 敷1.5V H% A黄粉	1.5 2.0 2.0			同左						
50	P-5	深鉢	深鉢	田	1.5V H% 敷1.5V H% A黄粉	1.5 2.0 2.0			同左						



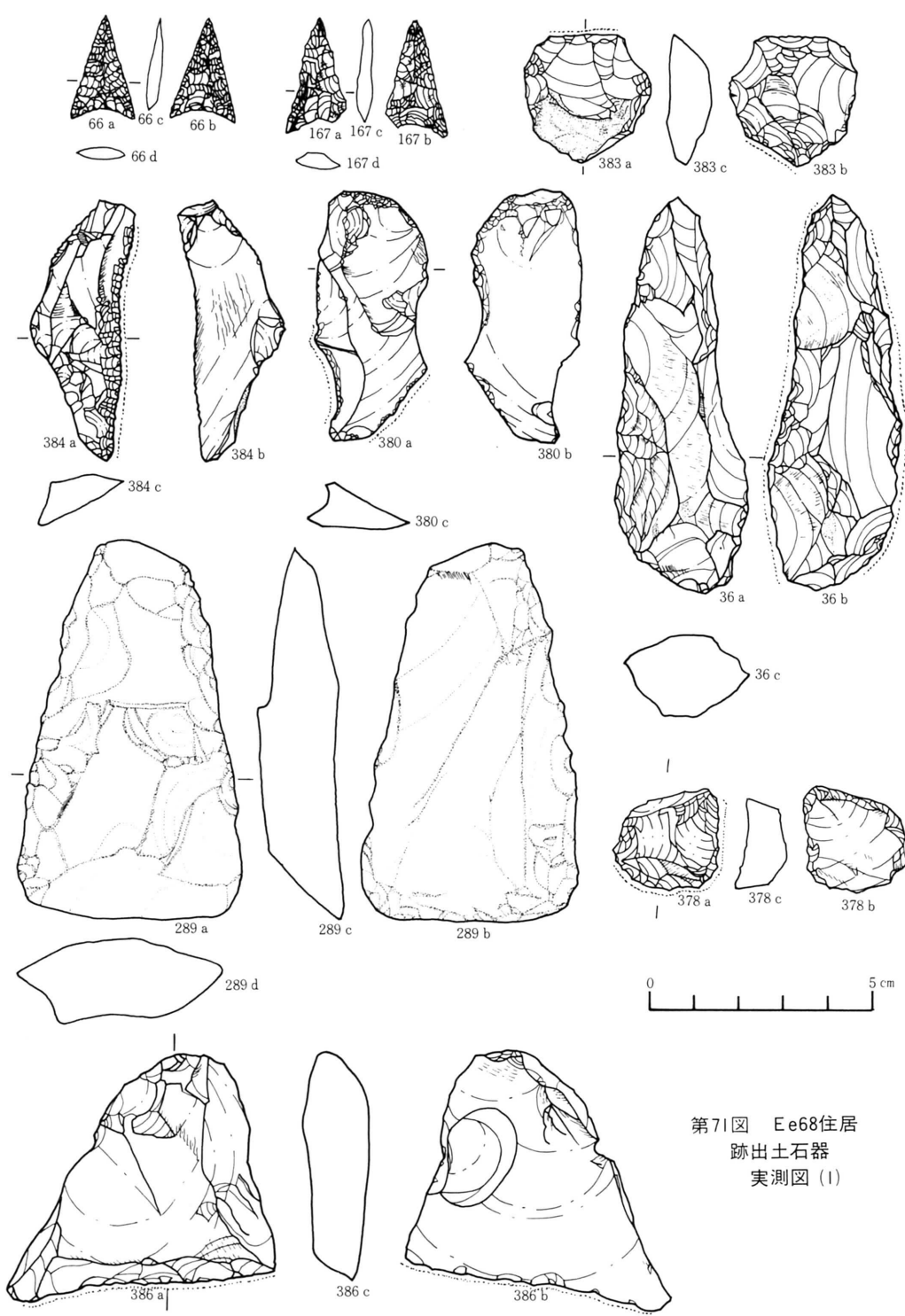
第69図 E e68住居跡出土土器拓影图(6)

No	地点	層位	種別	分類	内面				外面				最大長				胎土	焼成	
					色調	調整			色調	調整			器高	口径	底径	頸径			胴径
						口縁	口頸	体底		口縁	口頸	体上半							
12	大ビット	埋土	深鉢 (破・体)	—	7.5Y R 5% 浅黄橙 胎土7.5Y R 5% 褐灰	ミガキ、クラック 紐づくり織巾 2.5~3.0cm	—	10Y R 5% 黄橙 隆帯10Y R 5% にふい黄橙	—	—	—	—	—	—	—	—	粗	不良	
24	P11	"	" (")	Ⅷ a ③	7.5Y R 5% 浅黄橙	No 2 に同じ	同左 胎土も同一	No 2 に同じ	—	—	—	—	—	—	—	"	"		

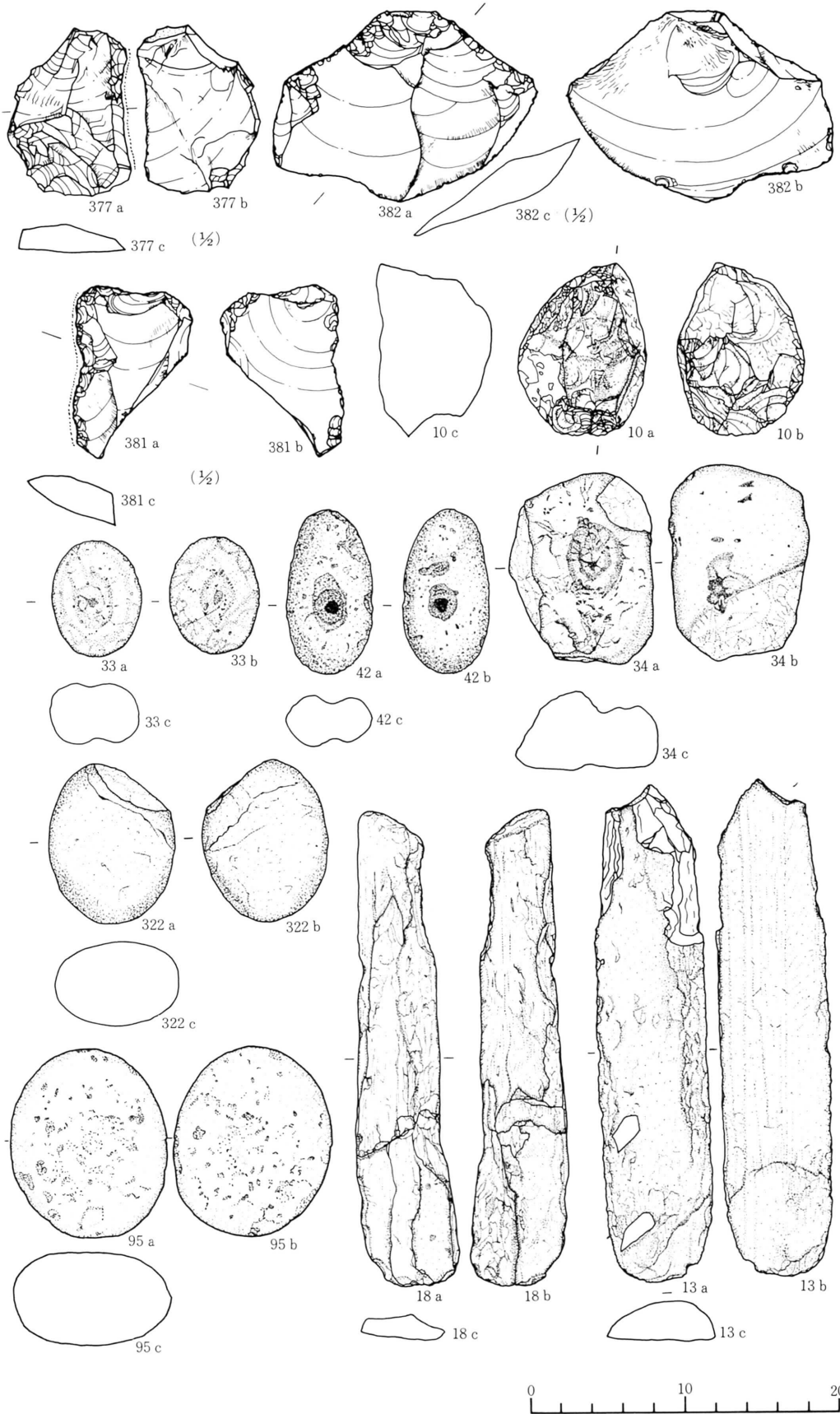


第70図 Ee68住居跡出土土器実測図(7)

No.	地点	層位	種別	分類	内 面				外 面				胎土	焼成		
					色	調	口	縁	口	縁	胎土	胎土				
2	P3	柱面	漆・口	褐色	10Y R 6/4 黄褐色 焼成10Y R 6/4 黄褐色	口	縁	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
13	P1	柱面	漆・口	田	10Y R 6/4 黄褐色 焼成10Y R 6/4 黄褐色	口	縁	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
14	P1	柱面	漆・口	田	10Y R 6/4 黄褐色 焼成10Y R 6/4 黄褐色	口	縁	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
25	P5	柱面	漆・口	田	10Y R 6/4 黄褐色 焼成10Y R 6/4 黄褐色	口	縁	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
27	P2	柱面	漆・口	田	10Y R 6/4 黄褐色 焼成10Y R 6/4 黄褐色	口	縁	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
28	P5	柱面	漆・口	田	10Y R 6/4 黄褐色 焼成10Y R 6/4 黄褐色	口	縁	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
29	Q3	柱土	漆・口	田	10Y R 6/4 黄褐色 焼成10Y R 6/4 黄褐色	口	縁	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
30	P1	柱面	漆・口	田	10Y R 6/4 黄褐色 焼成10Y R 6/4 黄褐色	口	縁	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土
31	Q2	柱土	漆・口	田	10Y R 6/4 黄褐色 焼成10Y R 6/4 黄褐色	口	縁	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土	胎土



第71図 Ee68住居
跡出土石器
実測図 (1)



第72図 Ee68住居跡出土石器実測図(2)

と思われる17類3を得た。上に述べたことに関連してか、埋土中からは、種類・量ともに多量のものを得た。それらは3類（石族D類）2、6類（石筥状）1、7類（定形性ある搔器）1、9類（両刃の不定形搔器）1、10類（片刃の不定形搔器）12、13類（両刃石器）1、20類（凹み石）1、21類（磨石）7などがある。北上山地に供給源を想定しうる石材若干を含む点は留意されるべきであろう。他に斧状土製品1、不明石製品1を得た。

種別	登録	地点	層位	計測値 cm・g				材質	分類	破損	素面	断面	加撃	打面	技法	つまみ	アールストフ
				たて	よこ	あつさ	重さ										
石 鏃	66		埋土	2.4	1.4	0.2	0.5	珪質泥岩	3類D-①	a		イ			II・V		
"	67		"	2.7	1.5	0.4	0.8	黄褐色極細粒珪質凝灰岩	"	d		イ			II・V		
石 筥 状	289	Q 2	埋土	8.45	4.9	1.65	78.65	粘板岩ホルンフェルス	6類	a	III	ニ		う	V		
定形的搔器	36	Q 1	"	8.9	3.0	1.9	42.9	硬質泥岩	7類	a	III	ハ		う	V		

種別	登録番号	地点	層位	計測値 cm・g				材質	分類	刃部	素材	断面	打面	表皮	刃漬し	その他
				たて	よこ	あつさ	重さ									
両刃の不定形搔器	383	Q 1	埋土	2.9	2.85	1.0	8.15	松脂岩	9類	B	IV	ホ	あ			
片刃の不定形搔器	376	Q 3	"	7.9	4.25	1.2	26.2	凝灰質硬質泥岩	10類							
"	377	Q 2	"	5.35	3.7	0.85	20.0	白色細粒泥質凝灰岩	"							
"	378	Q 3	"	2.6	2.1	1.05	4.7	松脂岩	"							
"	379	Q 3	"	4.1	2.2	4.5	5.85	凝灰質硬質泥岩	"							
"	380	Q 3	"	5.6	2.4	1.0	10.8	珪質泥岩	"							
"	381	Q 2	"	5.7	3.85	0.95	20.2	白色細粒泥質凝灰岩	"							
"	382		"	8.8	6.1	1.3	45.5	珪質泥岩	"							
"	384	Q 1	"	7.2	3.7	1.3	31.9	黄褐色極細粒珪質凝灰岩	"							
"	386		"	6.15	5.2	1.4	35.8	珪質細粒凝灰岩	"							
"	290		"	3.85	3.7	1.4	17.7	珪質極細粒凝灰岩 中新統中部	"							
"	385	Q 4	"	7.2	3.7	1.3	31.9	硬質泥岩	"							
両刃石器	10	Q 1	S 1 床面	11.75	8.5	7.75	812.0	粘板岩	13類							

種別	登録番号	地点	層位	計測値 cm・g				材質	分類	破損	凹部		凹部数		その他
				たて	よこ	あつさ	重さ				両面	片面	単	複	
凹み石	33		床面	7.3	5.3	3.7	200.0	複輝石安山岩	20類	完	○		○		
"	34	S 4	"	12.2	9.0	5.2	590.0	砂質凝灰岩 中新統中部	"	破	○			○	研磨
"	35		"	7.0	5.7	2.1	170.0	複輝石安山岩 "	"	"		○		○?	板状・半欠
"	36		埋土	11.4	8.5	5.7	860.0	花崗閃緑岩 古生界	"	"		○	○		
磨石	94		床面	10.3	8.1	5.0	570.0	花崗斑岩 北上山地?	21類	破					
"	95	S 5	"	12.3	10.0	5.8	1,070.0	複輝石安山岩熔岩 新期火山	"	完					
"	96	Q 2	埋土	5.1	3.8	3.4	60.0	複輝石安山岩	"	"					
"	97	"	"	4.7	4.5	3.9	90.0	"	"	"					
"	98	"	"	3.3	3.1	3.1	30.0	"	"	"					
"	101	Q 1	"	9.6	6.6	5.6	430.0	"	"	"					
"	102	"	"	6.7	5.1	4.1	150.0	"	"	"					
"	103	"	"	4.0	3.8	3.2	50.0	"	"	"					
"	104	"	"	3.8	3.2	2.5	30.0	"	"	"					
敲打器?	13		床面	32.0	7.15	3.7	815.0	硬砂岩 古生界、北上山地?	17類						
"	14		"	21.9	4.3	2.9	193.05	珪化木 中新統上部奥羽山地	"						

種 別	登録 番号	地点	層位	計 測 値 cm・g				材 質	分 類
				た て	よ こ	あ つ さ	重 さ		
敲 打 器 ?	15		床面	10.85	4.85	1.25	67.25	粘板岩	17 類
"	16		"	22.1	5.3	2.0	308.7	"	"
"	17		"	5.8	5.0	1.45	41.6	珪化木 中新統土部	"
"	18		"	11.5	4.45	1.0	56.0	粘板岩	"
"	19		"	12.0	3.75	2.05	89.05	珪化木 中新統上部	"
"	20		"	19.0	7.2	4.0	573.0	"	"
"	21		"	5.0	3.2	1.0	13.75	"	"
"	22		"	4.5	1.7	0.4	2.45	"	"
"	23		"	2.9	1.9	0.4	2.9	"	"
"	24		"	4.45	2.05	0.25	2.1	"	"
"	25		"	2.1	1.2	0.3	0.9	"	"
"	26		"	2.3	1.45	0.4	1.35	"	"
"	27		"	2.6	1.3	0.3	1.4	"	"
"	28		"	2.0	1.1	0.2	0.4	"	"
"	30	Q 3	埋土	8.6	3.8	1.3	55.95	"	"
片刃の不定形石器	290	Q 2	"	3.85	3.7	1.4	17.7	珪質極細粒凝灰岩	10 類

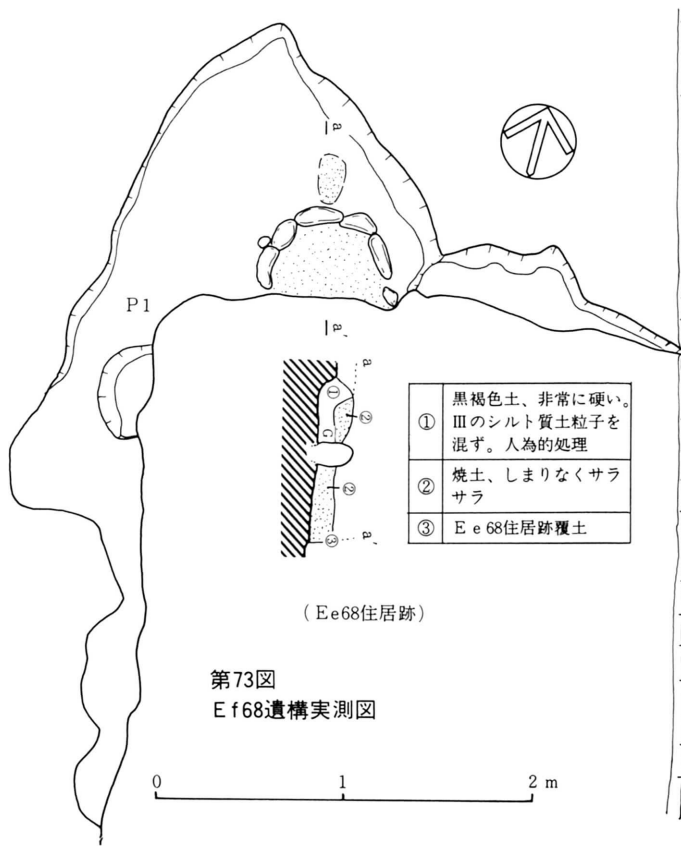
E f 68遺構（第73図・図版7）〔遺構の確認〕調査地東南部近くのIII層上面に検出した。南隣眼前に段丘崖をひかえた、段丘面の周縁部である。

〔重複・増改築の事実〕E e 68住居跡と重複し、それにより遺構南半は破壊され不明である。

〔炉〕上述のように半欠状態である。断ち割りによると、石囲い炉の北に隣接する焼土下位にも掘り込みがみられる。これは炉の重複の痕跡と見做すよりは、単期のもので、若干広めの範囲を掘り凹め、そこに炉石を据えた事業のそれとすべきと思われる。

〔その他〕P₁は深さ0.06mであり、柱穴とは見做しえない。炉周囲の凹みも0.02m程度の浅いものである。

本遺構はこのように炉の半欠とその周辺の若干の凹部のみからなるにすぎない。したがって本遺構を住居跡・屋外炉のいずれとも断定することができない。しかし痕跡的ではあるが、若干の凹部を伴うことからすると、前者の可能性が強い。



E i 68遺構（第74図、図版16）〔遺構の確認〕調査地東南隅の、III層上面に検出した。段丘崖を直近の南隣にひかえた段丘面の南縁部にあたる。

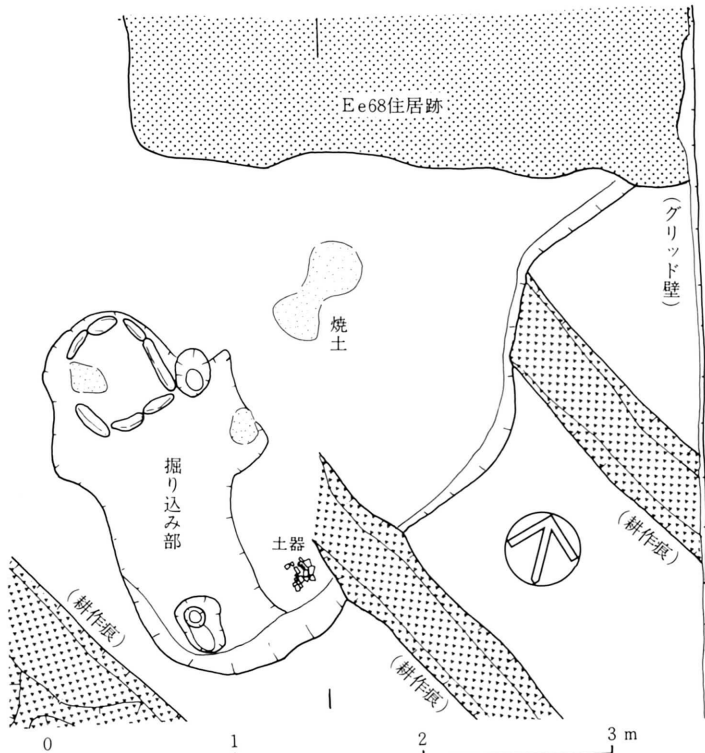
〔重複・増改築の事実〕北部においてE e 68住居跡と重複し、それが新規である。また全体的に耕作時の深耕が及び、1 m間隔の溝状のものが3条重複している。遺構それ自体の詳細は不明である。

〔平面形・方向〕重複のため不明であるが、後述の理由でNW～SEの方向に長軸が走っていた可能性が皆無ではない。

〔堆積土〕現壁高が0.1～0.05mと極めて浅い。暗褐色のシルト質土がほぼ一様に堆積しているのみで、とりたてて異常は観察できない。

〔床面〕基盤の傾斜にしたがい南と西へ傾斜する。それにしがってそれぞれの方向の壁高が低い。その他の床面は大略平坦である。貼床等の措置は観察できない。

〔炉〕所謂石囲い炉とそれに連結する掘り込み部の1セットからなる。前者は礫を一重にめぐらしただけのもので、西方の一部を欠く。隅丸長方形乃至狭長なカマボコ型をなす。掘り込み部は不整形であるが、壁に近づくにつれて深さが漸増する。焼土塊と小ピットが見られる。



第74図 Ei68遺構平面図

種別	登録番号	地点	層位	計測値 cm・g				材質	分類
				たて	よこ	あつさ	重さ		
片刃の不定形搔器	312		埋土	4.9	3.45	0.85	14.3	硬質泥岩	10類

燃焼部と掘り込み部を同時に掘りあげ、その後に礫を据えた可能性がある。

〔年代決定の資料〕 炉の周辺採取の土器類である。縄文中期の可能性が高い。

〔遺物〕 掘り込み部東方より得た若干量の破片である。I a類と思われるが風化が激しく詳細不明である。しかし、他の遺構と大略同時代のものとみなされてよいものであろう。

他に埋土と思われる部分から石器10類（片刃の不定形搔器）1を得た。

遺物包含層 住居跡分布域の西縁の既述の凹部に形成された。遺物出土の詳細は省略するが、意図的埋置の明白なものは皆無であり、廃棄の結果形成されたものと考えられる。生活用具の各種を含み、何らかの特異性を示すものではない。本例は集落に付属して形成された廃棄の場の一つとしてとらえておく。

B 出土遺物

(1) 土器 遺構内・遺物包含層出土の各種土器類を次のように大別する(第75・76図)。大別にあたっては器形・施文手法を基準とした(なお容器たる土器の具体的・個別的機能・用途は多岐にわたると思われ、それはたとえば土器の大小などに端的に反映していると思われるが、ここでは大きさは大別の基準とはせず、大別の下での観察の一項目即ち細別の基準としてとり扱うことにとどめた)。以下大別順に記す。

第Ⅰ群土器 口縁部と肩部(乃至体部)が明確に分化していない深鉢型である。体部上半(口縁部)の形態には、①直上、②外反、③内湾の三者があり、①・③が多い印象をうける。器外面には地文的な施文しか見られないものが多いが具体的には、㊸縄文、㊹捺糸文、㊺無文(ヘラケズリ乃至ヘラミガキ的調整痕が残存する)、㊻条痕文乃至櫛描きの平行沈線文とも見えるもの、などがある。さらに㊼として、簡単な沈線文を併用するものも稀にある。㊸がもっとも多く、㊹が次ぐ。体部下端は大部分がヘラケズリ乃至ヘラミガキされ無文化される。口縁部内面は肥厚し、かつ口唇部上面は内傾する(これは各群土器に共通する)。体部内面はヘラナデ乃至ヘラミガキされ、板状と思われる工具痕も観察できる。底部形成は円盤状粘土板の貼付により、外面平担・ヘラミガキ、内面盛り上がり・ナデツケ様の調整のものが多い。体部下端部径と底径が一致する例が多い。大きさには㊽大、㊾中、㊿小の各種があるが、前二者が主体をなす。本群土器の器種組成内における比率はあまり高くない感がある。平縁のみからなろう。

第Ⅱ群土器 口縁部分化が明確になった深鉢型である。口縁部下限の区画の仕方に二種ある。

Ⅱ群 a 類(Ⅱ a 類) 内湾気味に推移する体部上端とその直下に、素地粘土の補強により隆帯をつくり出す。結果として、隆帯間は凹部(溝状)となる。この三者が口縁部を形成する。ここには横位の入念なミガキが施こされる。施文は粗大な縄文・捺糸文が地文的に施こされるのみである。なお地文が体部上端部まで施文された後に既述の隆帯が貼付されている(隆帯貼付による装飾が、地文施文後に行なわれることは、各群土器に共通する技法である)。器の最大径は体部上半位にある。大きさには主体をなす㊿と、稀な㊽があるらしい。

Ⅱ群 b 類(Ⅱ b 類) 上述のⅡ a 類の口縁の凹部相当部に雄大な刺突文例(凹点列)を1条付す。工具は不明であるが、凹部底には条線が見える。それは指紋ではない。地文は縄文が主らしい。㊿が中心であろう。

以上の二者が共存することは既に明らかである。

第Ⅲ群土器 同様に口縁部の分化が見られる深鉢型で、2個の緩波状口縁と、体部中央でくびれる器形を有するものである。施文方法他で細別しうる。

Ⅲ群 a 類 (Ⅲ a 類) 体部には地文的な縄文のみが施されるものである。体部上端の無文帯(ナデ乃至ミガキ調整)を口縁部と見做しうる。出土比率はあまり多くないが、㊶~㊷までの三者が存在し、㊷がもっとも多いと思われる。なお本類としたものの中には緩波状部が3個になるとと思われるものが1例あるが、仮にここに含めておく。

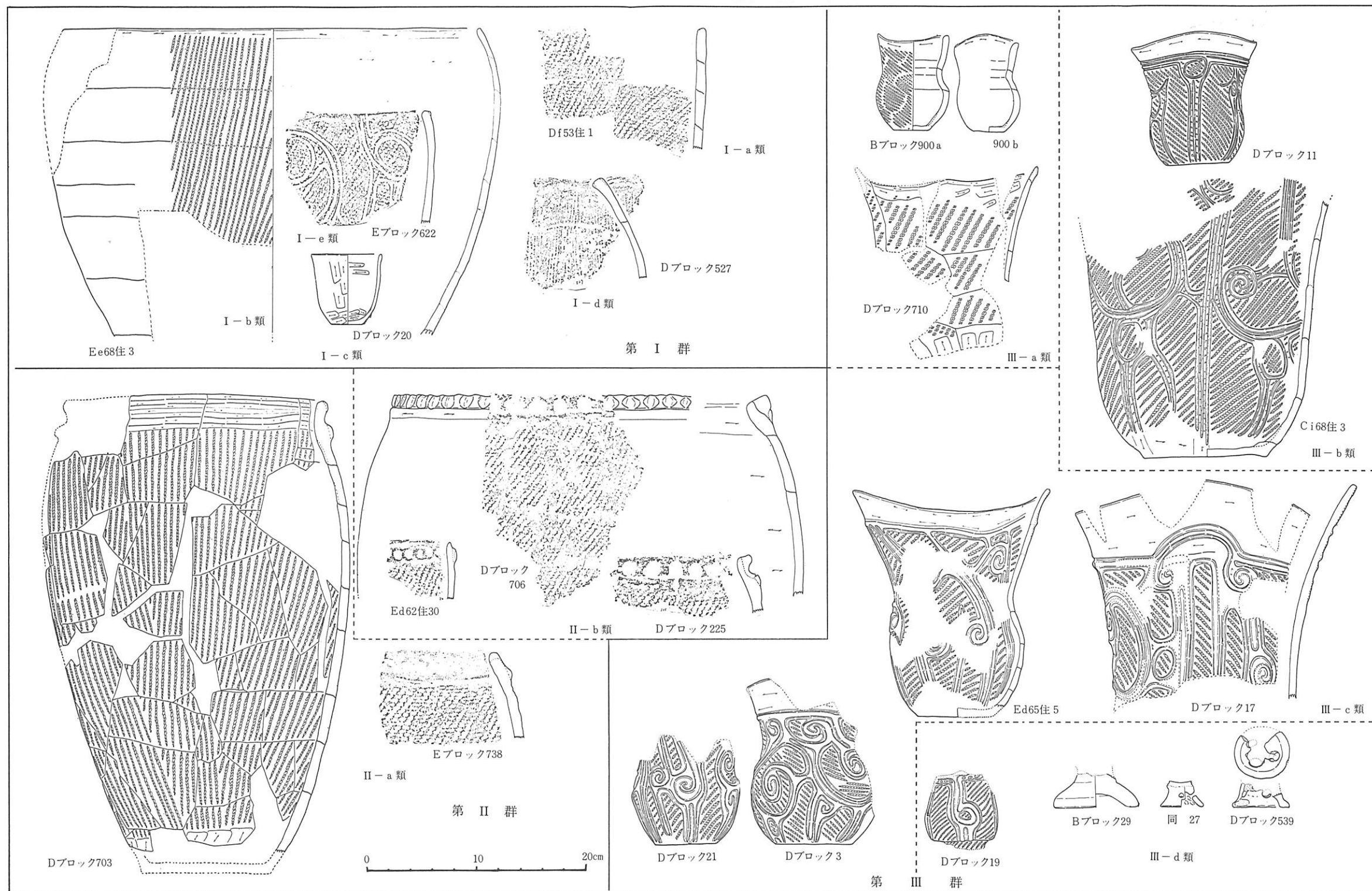
Ⅲ群 b 類 (Ⅲ b 類) 地文に縄文をもち、その上に沈線を用いて渦文他を施文する。くびれ部以上の体部上半は外反に近い。体部上端はミガキにより無文化され口縁部を形成し、その下限は隆帯により区切られる。隆帯は断面三角形を呈し、地文上への粘土補強により形成されるが、現状では剥落した例が多い。無文化された口縁部にも粘土の補強は及んでおり、一部スリッパ的な機能を果していることも見える。口縁端部は器厚をやや減じ、かつ丸味をもつものが多い。隆帯下位に沈線・刺突文列が配され、体部文様はそれらに連結する。体部文様帯には上・下半の別はない。渦文のモチーフに繁・疎の二種があり、㊸→㊹と大型化するにつれ、渦文が複雑化する傾向があると思われる。施文可能部分の広狭と関係するものであろうか。器内面は概ね入念にヘラミガキ乃至ヘラナデされ、極めて平滑である。本類は土器組成の主要な一部を構成する。モチーフについては別に示す。

Ⅲ群 C 類 (Ⅲ c 類) Ⅲ b 類の渦文表現手法たる沈線を、粘土紐貼付による隆帯と、それに沿って施こされるナデ乃至ミガキ調整(隆・沈線)によるものにおきかえたものである。器形・口縁部状・口縁部下限区画の隆帯・隆帯下位の沈線・刺突文列などの諸特徴はⅢ b 類に共通する。体部文様帯は同様に上下の区別なく全面に展開する。渦文とそれから派生する所謂棘文、上下方向にのびる隆・沈線によりモチーフが描出されるが、少なくとも渦文の描出方法はⅢ b 類のそれよりも入念である。これは粘土紐の貼付という工程が入念さを要求することの結果とみなしうる。ここではⅢ b 類に形式化・簡略化の傾向はあえて指摘しないでおく。モチーフの展開のあらましについては別にふれるが、Ⅲ b 類と同様に繁・疎の二種はある。㊶~㊷の三者がそれぞれ組成の主要な一部をなして存在する。


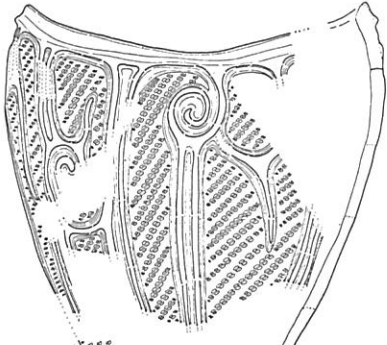
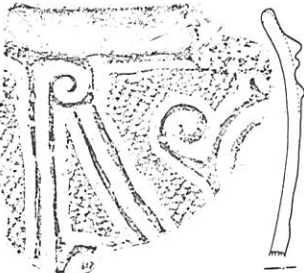

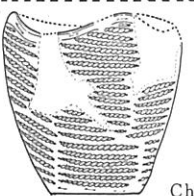
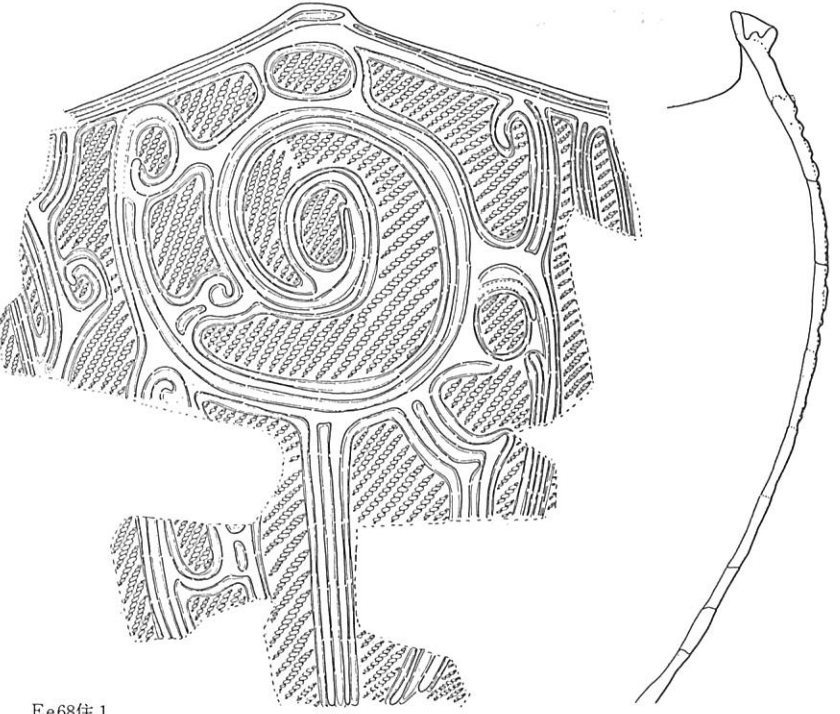
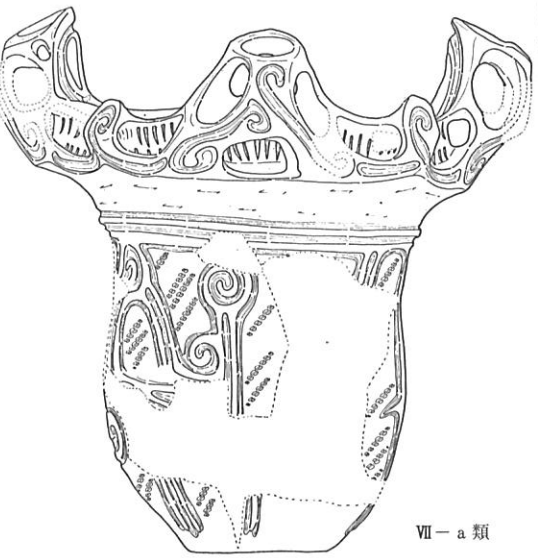

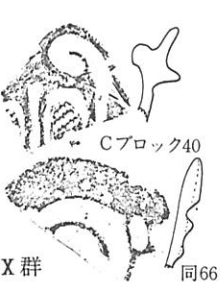
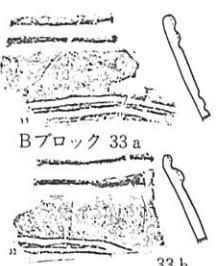

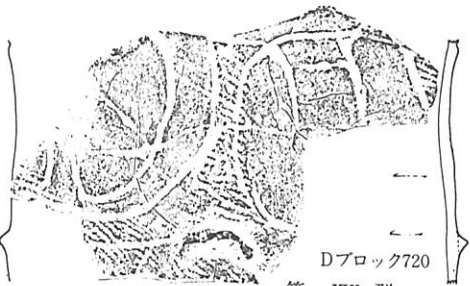
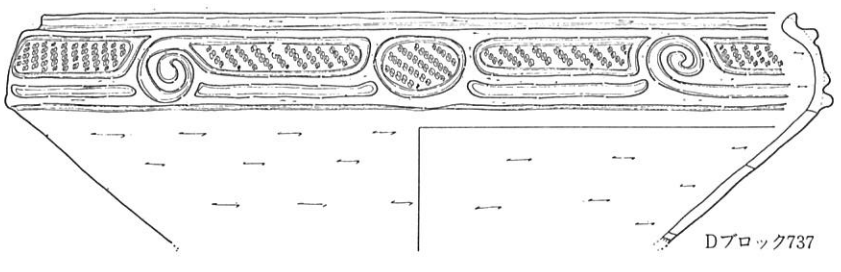

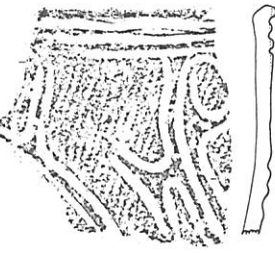
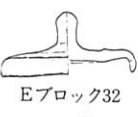

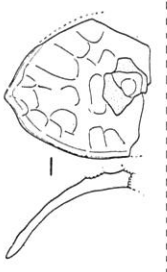

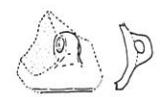
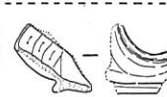
Ⅲ群 d 類 (Ⅲ d 類) 同様の器形をもち、体部下端に台乃至脚部をもつものと、単に台乃至脚部のみの残存例の両者を含めた。したがって後者の中にはⅢ群の深鉢部をもたないものも含まれていよう。たとえば後述のⅥ群の一部に台乃至脚が付される例も知られている。ここでは「脚乃至台をもつもの」程度に本類をとらえてほしい。図示した如き各種の器形があり、かなり変化に富む。大きさも変化に富むが、より大型品はⅢまたはⅥ群に該当するものが多いと思われる。有孔のものの上半部などは不明である。

以上のⅢ群土器は、b・c類が主体をなすものと思われる。

第75図 土器分類基準表



第76図 土器分類基準表 (2)

 <p>Dブロック4 第IV群</p>	 <p>V-a類 Ch56住2 第V群</p>	 <p>Eブロック638 V-b類</p>	 <p>Eブロック751</p>  <p>Ch56住1</p>	 <p>Ee68住1 第VI群</p>
 <p>Df09住3 VII-a類 第VII群</p>	 <p>Df09住2 VII-b類 第VII群</p>	 <p>Cブロック40 第X群 同66</p>	 <p>Bブロック33a 33b 第XI群</p>	 <p>Dブロック272 第XIII群</p>  <p>Dブロック720 第XIV群</p>
 <p>Dブロック737 第IX群</p> <p>0 10 20cm</p>	 <p>Dブロック7 第VIII群</p>	 <p>Cブロック75 第XII群</p>	 <p>Eブロック32</p>  <p>Dブロック723</p>  <p>Dブロック739</p>	 <p>Eブロック787</p>  <p>Eブロック800</p>  <p>Dブロック30</p> <p>その他</p>

第IV群土器 下限に隆帯をもち、ミガキにより無文化され、外反する口縁部を有し、体部文様帯の特徴、器全体の概形はIII b・c類にほぼ類似するが、口縁端部（口唇部）と波状口縁部の形状の異なるものをまとめた。即ち「波状」以上により明確に「大波状乃至突起」部を形成する。その数は（1部不明な点もあるが）おそらくは大・小各2個の計4個になると思われる。突起部には凹線（後述）による渦文が付され、また大突起部に穿孔が施される例もある。口縁端部（口唇部）は明らかに傾斜し、そこに凹線乃至沈線が施され、突起部の渦文へと連結する。体部文様帯の主要モチーフは渦文・棘文であり、表現は隆・沈線による。

以上の土器は器形はIII群に、突起部のつくりはVI群・VII群 a類、口縁部下位と体部の間の外反部の無文化はVII群 a類に、体部文様の描出技法はIII c類・V群～VII群に、それぞれ共通する特徴をもつといえる。器には㊦～㊨までの三者があるが、いずれも量的にはそれほど多くない感がする。

第V群土器 倒卵形ともいべき体部形態と、2～3個の緩波状口縁部形状を有する。比較的単純な器形をもつ。III群のような、体上端部の若干巾広の無文帯（口縁部）をもたず、巾の狭い内傾気味の口縁部をもつのみである。無文帯は粘土の補強によるが上端部よりは下限の方が肥厚し、中央が凹部を形成する例が多い。これはII a・III b・c類などにも共通しよう。口縁端部内面は他と同様に面状をなし内傾するものが多い。口縁端部の肥厚した無文帯に連結して、隆・沈線により渦文・棘文が体部文様帯全面に展開する。縦位に展開する例が多いと思われる。モチーフについては別にふれる。内傾する口縁部の長さにより二種に細分しうる。即ち

V群 a類（V a類） その巾が狭いもの。

V群 b類（V b類） その巾が広く、かつ大型品のもの。

以上のV群は㊩以上の大型品が主体的に存在すると思われる。

第VI群土器 一部不明な点もあるが、大小2種の突起各2、計4個、あるいは各3、計6個の突起を有し、倒卵形の体部をもつものである。さらに一部には台乃至脚部をもつものも含まれる可能性がある。口縁端部には凹部があり、それは突起部にては渦文を形成する。大突起部に穿孔が行なわれるものも多い。口縁端部の凹部直下より体部文様帯が展開する。隆・沈線による渦文が主要モチーフである。他群の渦文に比し、極めて大型のものになるものも多い。文様帯上限に狭い無文帯を残すものと、雄大な刺突文列を加えるものもあるが、区別はしなかった。㊦が多いと思われるが㊧もまた確固とした存在であるらしい。

本群の器形はV a類に、突起のつくり・口縁端部のつくりはIV群のそれに、それぞれ共通することについては既にふれた。

第Ⅶ群土器 ほぼ中央部がくびれた体部と、所謂キャリパー型の口頸部を有する深鉢型である。文様帯は口頸部と体部のそれに二分され、両者の中間部の外反乃至外傾部はヘラミガキされた無文部として残される。これがⅣ群に共通する特徴であることは既にふれたところである。口頸部文様帯も地文と粘土紐貼付の隆帯文の両者で構成される。前者は縄文・刺突文などが多い。縄文の場合はその原体の回転方向は横位（口縁部に平行）のものが多い。これは体部におけるそれが縦位（上下方向）であるに比し、一つの特徴であろう。刺突は刺突文よりは短沈線とも表現すべきような若干の長さを有するものである。1段・2段などの別や、矢羽状配列などの別がある。稀にミガキにより無文化されたものもある。後者は上下限と両者を結ぶ位置に配され、具体的には円形・長楕円形・渦文などが表現される。その表面は入念にミガキが施され、既述の隆・沈線技法の中でも、もっとも入念なものである。器面の区画的な機能も期待されているのであろうが、それについては別にふれてある。本群は突起の有無により二分できる。

Ⅶ群 a 類（Ⅶ a 類） 突起を有するものである。突起は所謂ブリッジ状乃至透し部を有するタイプのものが多いが、内部充慎の単純なものも当然存在する。いずれもその上に凹線による渦文を伴う。大小の組みあわせによるものが多く、各4計8個になるらしい。突起の高さにも二種ある。突起が土器本体の口縁部より上位にくるものが一つである。この場合の口縁部は強く内湾したものとなり、屈曲部の上位にさらなるつくり出しはない。他はそれが口縁部より下位にくるものである。この場合は屈曲部より上位に内傾する口縁部がさらに存在する器形となるらしい。ただしその端部が外反に転ずる点は、他者に共通する。このうちの一例に、突起の一つが注口部様につくり出されたもの、2個一組の穿孔部が相対して（正面と背面）一対つくり出されているものがある。注口部様のものは煙突状に直上している。以上のⅦ a 類には、少なくとも口頸部文様帯に赤色の塗彩を施したものが存在する。

Ⅶ群 b 類（Ⅶ b 類） 突起をもたず、平縁に終始するものである。その他はⅦ a 類に共通する。ただし、本類に含めた資料のうち、体部文様帯が無い（ケズリ乃至ミガキにより無文化されたもの、地文的な縄文しかもたないものなど）例は、深鉢ではなく浅鉢になる可能性が大である。したがって後述のⅨ群土器も含まれる可能性があることをことわっておく。

以上のⅦ群土器の体部文様は、隆・沈線による渦文を主要モチーフにしているが、それはⅥ群に共通する雄大なものである。装飾は他と同様に器全面に対する地文施文終了後に行なわれている。したがって隆帯剥落部には地文が残存・露出するのが常態となっている。大きさは㊦が主体で㊧が次ぐが、稀には㊨に近い小型品もあるらしい。

第VIII群土器 類例は稀であるが独立させた。浅鉢型の体部上半に注口部を有した注口土器がある。外反気味の体下半と内湾気味の上半をもち、上半部に文様帯をもつ。これはVII群の口頸部文様帯に同一性格のものであろう。隆・沈線により横位展開の渦文を施文する。注口部は斜位方向を向く。体下半はミガキ乃至ナデにより無文化される。本群は微量であり、かつ褶珍土器的なもののみであり、土器組成内における位置はあまり大きくないと思われる。

第IX群土器 体部上半に明らかな屈曲部をもつもので、浅鉢型に近い器形になると思われる。装飾文に有無の二種がある。VII b 類の口頸部に共通する隆・沈線による渦文を有するものと、地文的な施文のみ行なわれるものである。㊦・㊧が主体的に存在しようが、組成内における比重はあまり大きくない。

第X群土器 稀な存在であるが、一応区分した。器形はVI群などに似るが、突起部施文の渦文がそれ自体として独立して存在するのではなく、そのまま体部文様へと連結するものである。また隆帯部以外にもミガキ手法が広範囲に採用される。体部文様は長楕円形（縦位の）的なものになると思われる。他群よりは若干新しくなる可能性がある。量的には少ない。

第XI群土器 これも稀少例である。若干内傾気味の体部上半をもつ深鉢型と思われる。口縁端部は二条の隆帯により画され、下位の隆帯は文様帯へと連結するらしい。地文は無くミガキにより無文化される。体部文様は詳細不明であるが、沈線文手法で、棘を伴う渦文が描かれるものと思われる。㊦である。

第XII群土器類 これも同様に少量である。直上する体部上端を有し、そこに横走する隆・沈線（あるいは無文帯部への沈線文）を2～3条配す。それ以下が文様帯をなし、地文の上に沈線文的施文（渦文と思われるが詳細不明）を行なう。㊦・㊧が中心をなすと思われる。詳細不明であるが一応区分した。

第XIII群土器 一例のみ確認したが独立させた。VII a 類的な器形と口頸部文様帯を有するが文様構成の中に燃糸（側面）圧痕文も併用するものである。したがって他群よりは若干時間的に古くなる可能性大のものである。

第XIV群土器 これも一例のみ検出されたものである。平縁とかすかに外反する体上半を有する。口縁端部は巾の狭い無文帯とされる。それ以下の体部全面に磨消縄文手法で帯状の施文が行なわれる。文様帯には孤状の（粘土紐貼付による）隆帯が伴う。孤の方向は部位により異同がある。他例よりかなり新しい要素をもつとみなしうる。

その他の土器 上記以外のものをまとめた。それらは把手付きの浅鉢型、つまみを有する蓋型と思われるものなどである。大略他群土器と併存するものと考えておく。

他に若干古くなる可能性のあるものとして、小波状口縁と、傾位方向の沈線文を有するもの、短沈線乃至刺突文を有するものがある。おそらくは縄文時代早期のものであろう。



第77図
早期と思われる土器片
拓影図

No	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	焼成
					色調				調整					
					口縁	口頸	体	底	口縁	口頸	体上半	体下半		
1	Cij 68	I	深鉢 (破・口)	早期?	7.5Y R 6/7 褐灰 胎土7.5Y R 6/7 褐灰	ミガキ		—	7.5Y R 6/7 褐灰	小波状 外反	平行沈線文	—	精良	良好
2	表採		深鉢・破	ムシリ I式	5 Y R 6/7 におい橙 胎土同一	ミガキ?		同左	併行沈線			細砂あ るも精	硬質	

拓影図・実測図類について。

以下には各ブロック出土の土器群の一部を、実測図・拓影図・模式図（文様展開図）によって示す。ブロックによっては、北半・南半、東半・北半などと大雑把な地区割りを施し、かつ、出土層位による区別（I層・III層上部・III層中下部）も施し掲示した。なお層位の三種は、調査時のI層・II層・III層にそれぞれ対応する。

遺物出土量は既述の小谷部分に集中することはいうまでもないが、I層においては調査地全域にわたる出土も見られた。しかしそれらは遺物包含層（集中的な廃棄の場として形成されたという狭義の）とは見做しえないものであろう。

それ以外の平面的・垂直的な傾向性は何ら観察できない。したがって住居跡と同様に比較的短期間に形成されたものと考えられる。その点から、一括資料として扱いうるものと考えられそのように処理してきた。

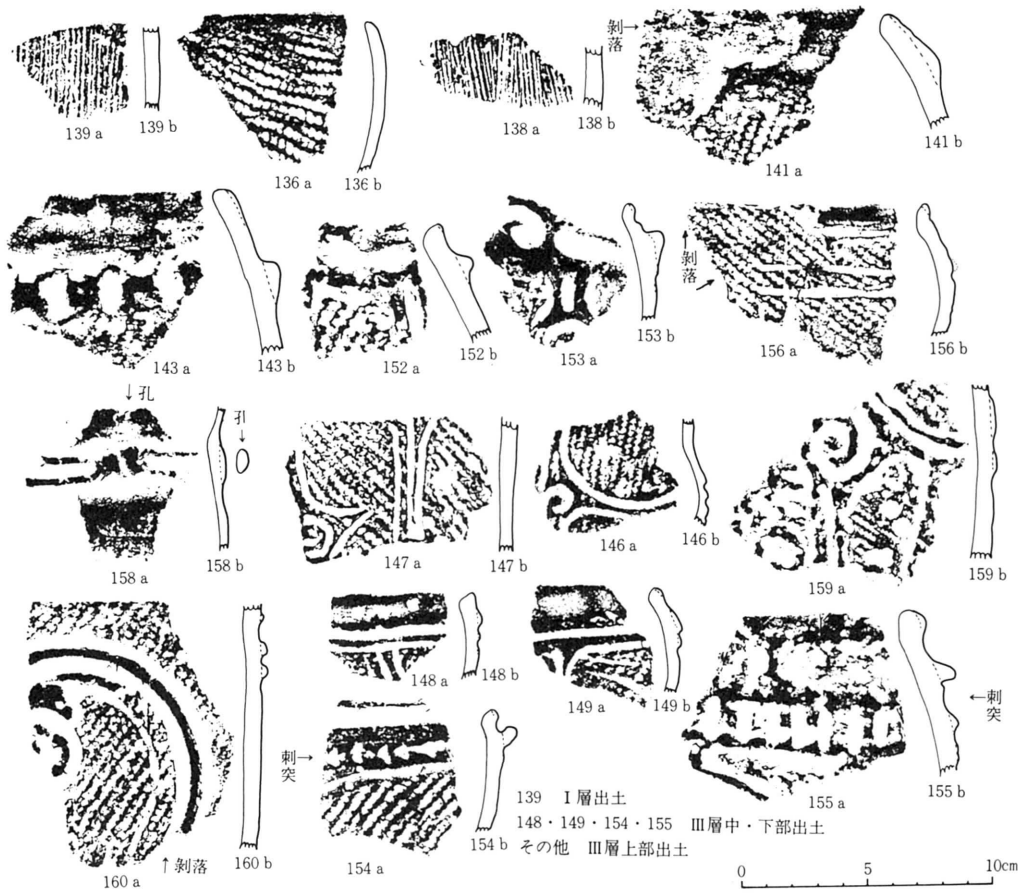
実測方法は通常の方法に従った。器面上に調整技法他を注記した。隆線は太めの破線、沈線の上端は細めの実線、沈線の下端は細めの破線で表現してある。



33・35・37・39 I層出土
 34・36・38・900 III層上部出土
 40 III層中・下部出土
 900のみ東半部出土

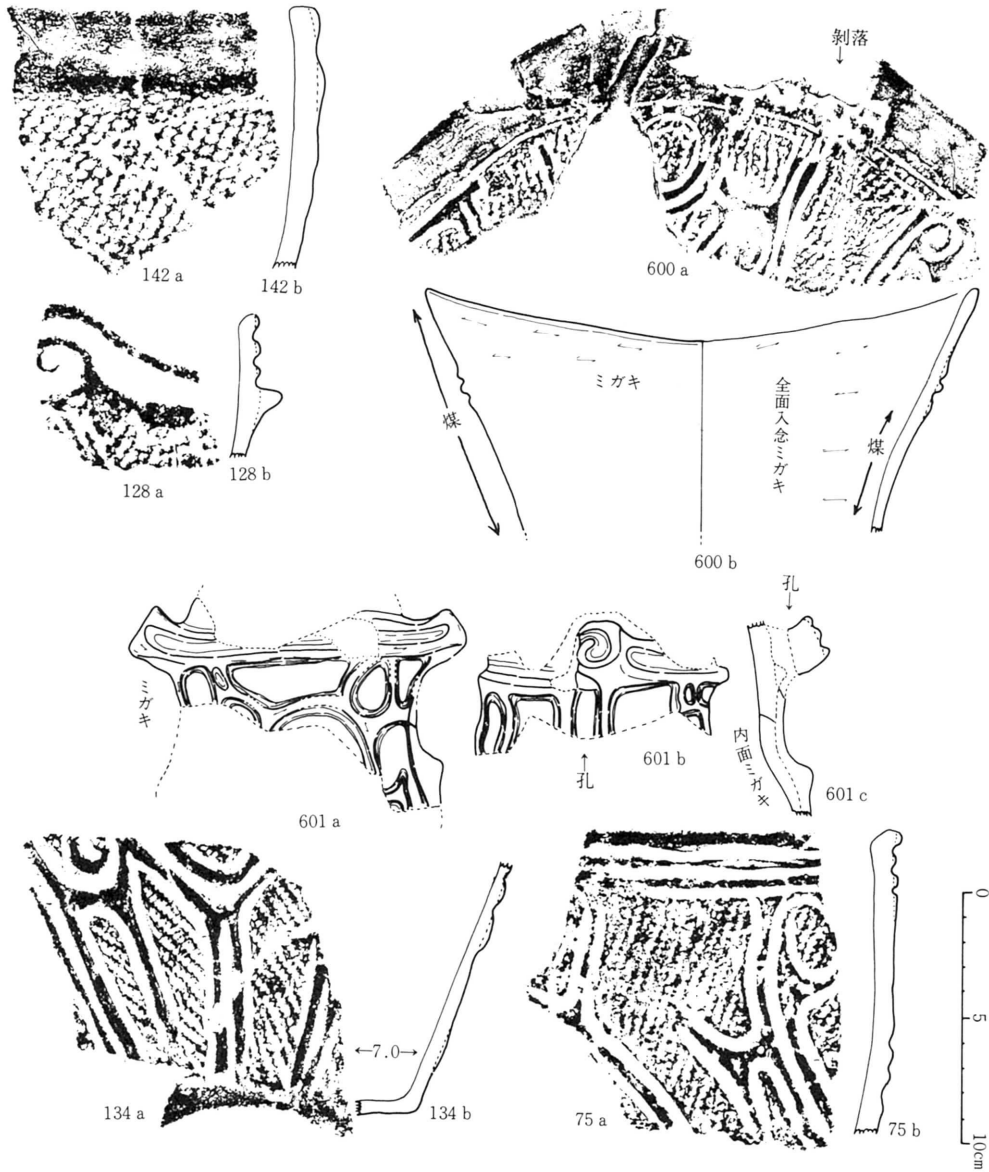
第78図 Bブロック出土土器実測図・拓影図

No	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	焼成		
					色	調	口	縁	口	縁	口	縁				
33	B d 09	I	深鉢 (破・口-体)	Ⅲa ①	10 Y R 5/12 黄褐色	全面ミガキ	—	—	7.5 Y R 7/10 灰褐色	ミガキ、隆帯 透光? 隆帯文、煤	—	—	—	—	粗砂多 粗	良好 硬質
34	B c d 03	II	" (破・突起)	Ⅲb ②	7.5 Y R 7/10 黄褐色	—	—	—	7.5 Y R 7/10 黄褐色 突起、穿孔 斑紋に7.5 Y R 外層灰	—	—	—	—	—	"	"
35	B b 09	I L	" (破・口-体)	Ⅲb ②	7.5 Y R 7/10 黄褐色	—	—	—	7.5 Y R 7/10 黄褐色 平滑	—	—	—	—	—	—	"
36	B c d 03	II	" (破・口)	Ⅲa ①	5 Y R 7/10 黄褐色	—	—	—	7.5 Y R 7/10 黄褐色	—	—	—	—	—	—	—
37	"	I	" ()	I b ③	10 Y R 7/10 黄褐色	—	—	—	10 Y R 7/10 黄褐色	—	—	—	—	—	—	—
38	B e f 50	II	" ()	Ⅲa ①	7.5 Y R 7/10 黄褐色	—	—	—	7.5 Y R 7/10 黄褐色	—	—	—	—	—	—	—
40	B c d 03	II	" ()	Ⅲa ①	7.5 Y R 7/10 黄褐色	—	—	—	7.5 Y R 7/10 黄褐色	—	—	—	—	—	—	—
39	B d 12 ~15	I	深鉢 (破・口-体)	Ⅲc ④	10 Y R 7/10 黄褐色	—	—	—	10 Y R 7/10 黄褐色	—	—	—	—	—	—	—
900	B d 65	II	深鉢 (完・小型)	Ⅲa ①	7.5 Y R 7/10 黄褐色	—	—	—	同左	—	—	—	—	—	—	—



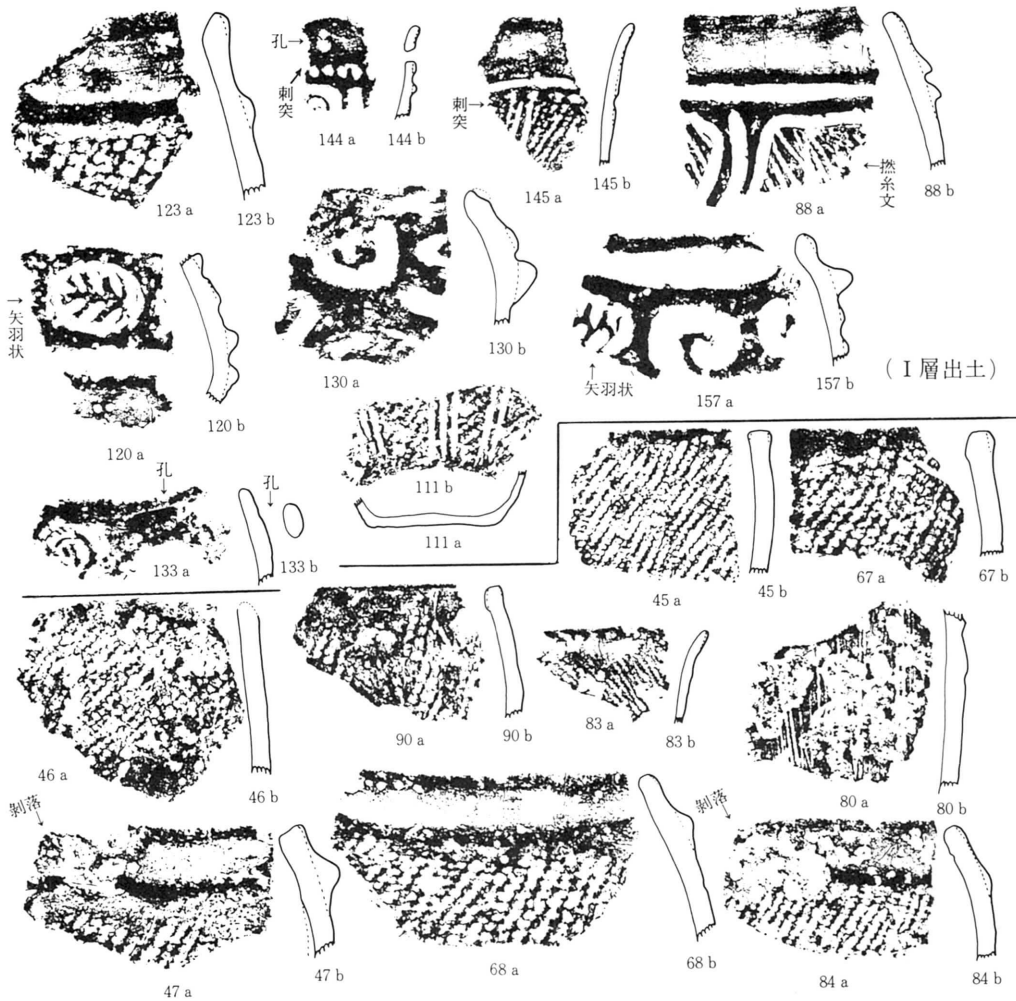
第79図 Cブロック(西半部)出土土器拓影図

No	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	焼成			
					色調	口縁	口頸	体底	色調	口縁	口頸	体上半			体下半	底	
136	C j D a 09	II	深鉢 (破・II)	I a 3 字	7.5Y R 5/6 粉	ミガキ、平滑	—	—	7.5Y R 5/6	平滑 ミガキ	—	—	—	—	—	—	良好
138	C j D a 09	II	(破・体)	I d	5 Y R 5/6 粉	—	—	—	5 Y R 5/6	—	—	—	—	—	—	—	良好
139	"	"	"	"	10 Y R 5/6 浅黄粉	—	—	—	10 Y R 5/6	—	—	—	—	—	—	—	良好
141	C j D a 09	II	"	"	7.5 Y R 5/6 に 3/4 粉	ミガキ、剥落	—	—	7.5 Y R 5/6	平滑 降帯 ミガキ	—	—	—	—	—	—	良好
143	C j D a 15	II	"	II b 字	7.5 Y R 5/6 に 3/4 粉	ミガキ、剥落	—	—	7.5 Y R 5/6 灰緑	降帯に凹部 ミガキ	—	—	—	—	—	—	良好
146	C j 15	II	(破・体)	III c 字	7.5 Y R 5/6 灰緑 7.5	—	—	—	7.5 Y R 5/6 粉	—	—	—	—	—	—	—	良好
147	C j 15	II	深鉢 (破・体)	III b 字	5 Y R 5/6 灰緑	—	—	—	5 Y R 5/6 粉	—	—	—	—	—	—	—	良好
148	C j D a 12	III	(破・II)	V a 字	7.5 Y R 5/6 浅黄粉	ミガキ	—	—	5 Y R 5/6 に 3/4 粉	平滑 降帯 ミガキ	—	—	—	—	—	—	良好
149	"	"	"	"	5 Y R 5/6 灰緑	"	—	—	5 Y R 5/6 灰緑	"	—	—	—	—	—	—	良好
152	C j D a 12	I	"	"	7.5 Y R 5/6 灰緑	"	—	—	5 Y R 5/6 に 3/4 粉	"	—	—	—	—	—	—	良好
153	C j D a 15	I	"	VI 字	10 Y R 5/6 黄粉	"	—	—	7.5 Y R 5/6 灰緑	小突起 溝巻文 凹縁	—	—	—	—	—	—	良好
154	"	II	"	"	10 Y R 5/6 浅黄粉	"	—	—	10 Y R 5/6	凹縁	—	—	—	—	—	—	良好
155	C j D a 09	II	"	VI b 字	7.5 Y R 5/6 に 3/4 粉	"	—	—	7.5 Y R 5/6 浅黄粉	平滑 ミガキ	—	—	—	—	—	—	良好
156	"	"	"	"	7.5 Y R 5/6 灰緑	"	—	—	10 Y R 5/6 灰緑	"	—	—	—	—	—	—	良好
158	C j D a 15	II	"	VI a 字	7.5 Y R 5/6 粉	ミガキ、入念	—	—	7.5 Y R 5/6 粉	"	—	—	—	—	—	—	良好
159	"	"	(破・体)	V ~ VI 字	7.5 Y R 5/6 粉	—	—	—	5 Y R 5/6 に 3/4 粉	—	—	—	—	—	—	—	良好
160	"	"	"	V ~ VI 字	7.5 Y R 5/6 浅黄粉	—	—	—	7.5 Y R 5/6	—	—	—	—	—	—	—	良好



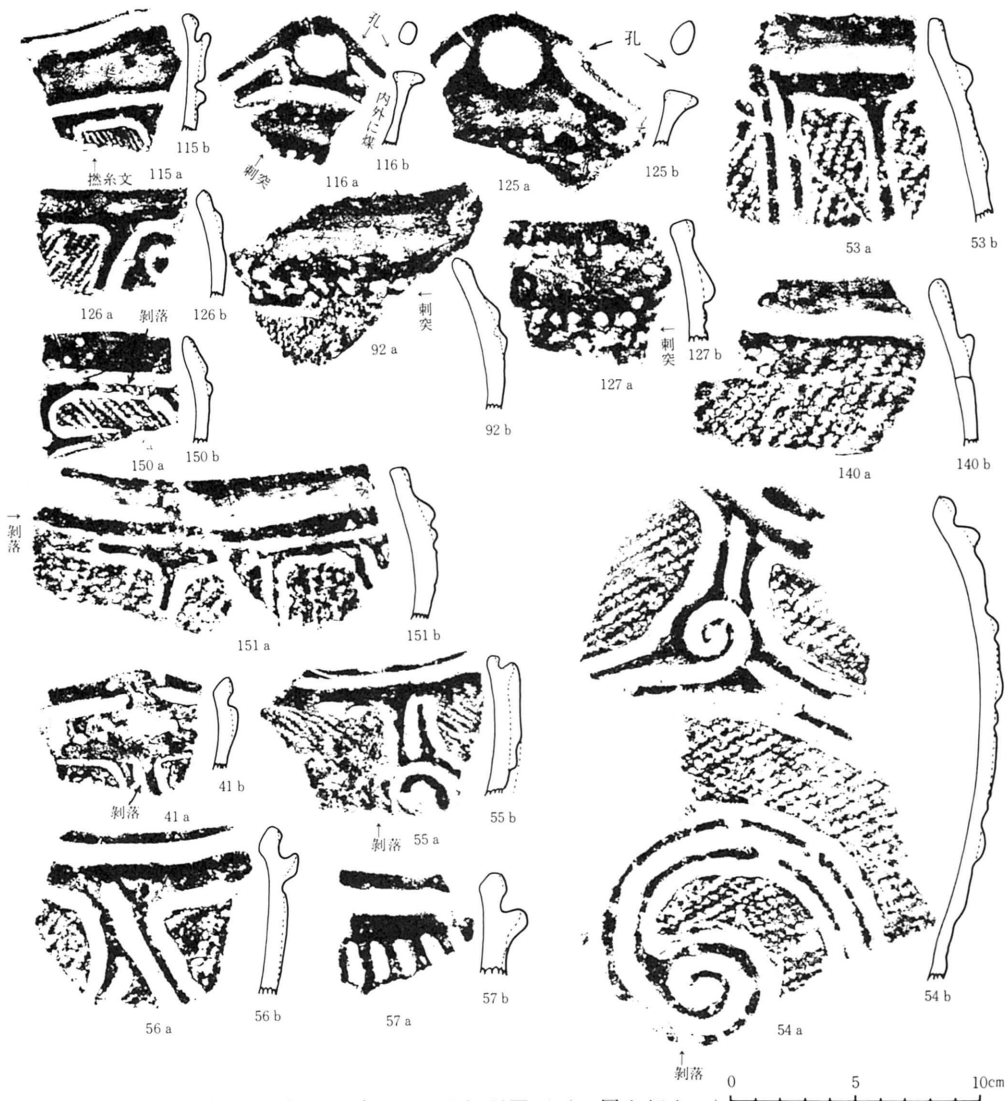
第80図 Cブロック(東半部)出土土器実測図・拓影図(1) (Ⅲ層中・下部出土)

No	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	焼成
					色調	口縁	口頸	体底	色調	口縁	口頸	体上半		
75	C g 65	"	深鉢 (破・体)	Ⅷ a ㊦	7.5 Y R 7% に近い橙	ミガキ 剥落	—	7.5 Y R 7%	緩波状	沈線	渦文・楕円形文・沈線文 地文 R L < ↓ ↓	—	粗	良好
128	C g 65	II U	" (")	X ㊦	7.5 Y R 7% 灰褐	" "	—	7.5 Y R 7% 灰褐	突起 渦文 凹線	—	渦文(降・沈線) 地文 R L < ↓ ↓	—	細砂	不良
134	C g 65	II U	" (破 体-底)	V ?	7.5 Y R 7% 灰褐	—	—	5 Y R 7% に近い橙	—	—	渦文(降・沈線文) 地文 L R < ↓ ↓	ミガキ	"	良好
142	C f 65	III	" (")	II a ㊦	7.5 Y R 7% に近い褐	ミガキ、クラック	—	7.5 Y R 7% に近い褐	"	—	地文のみ R L R < ↓ ↓	—	"	不良
600	C f 68	III	" (破・口)	III c ㊦	7.5 Y R 7% 黒褐	ミガキ	—	7.5 Y R 7% 褐灰	外反、ミガキ	—	渦文(降・沈線) 地文 R L R < ↓ ↓	—	精良	良好
601	C e f 65	III ?	" (")	VII a ㊦	5 Y R 7% 暗赤褐	ミガキ、剥落	—	5 Y R 7% 明赤褐	—	突起、渦文	渦文(降・沈線) 地文なし?	—	"	"



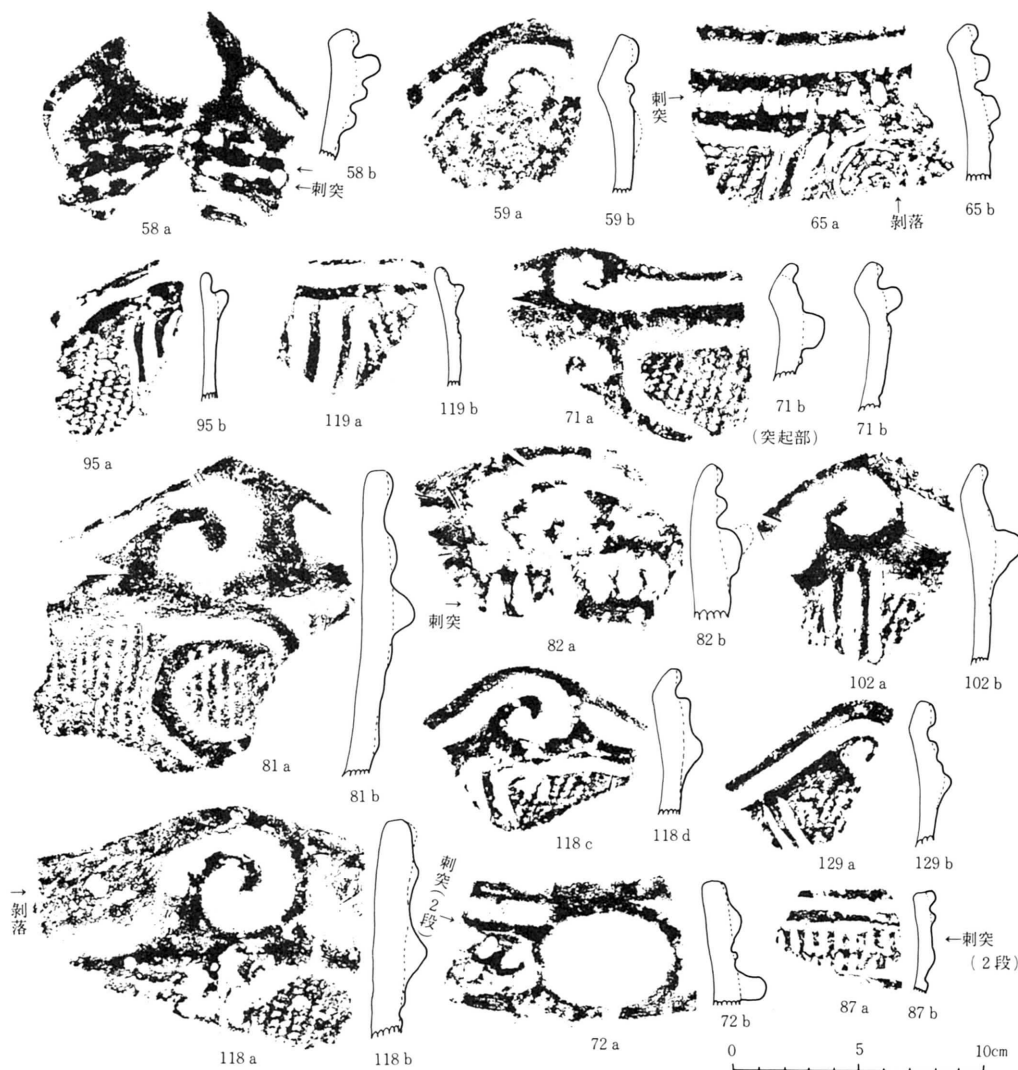
第81図 Cブロック(東半部)出土土器拓影図(2)(I層・III層上部出土)

No	地点	層位	種類	分類	内面				外面				胎土	焼成				
					色	肌	口	縁	口	縁	口	縁			口	縁		
88	C = f 68	I	深鉢 (縦・口)	Vb ㊦	3.5Y R 5/10 浅黄緑	ミガキ、剥落	—	—	3.5Y R 5/10 黄緑	平縁 隆帯	—	—	—	—	—	粗砂	良好	
111	C = f 65	I	深鉢 (縦・口)	III b ㊦	3.5Y R 5/10 浅黄緑	—	—	5 Y R 5/10 黄	—	—	—	—	—	—	—	—	小石	—
128	C = f 65	I	深鉢 (縦・口)	Vb ㊦	3.5Y R 5/10 浅黄緑	ミガキ、剥落	—	—	5 Y R 5/10 黄	隆帯 ミガキ	長横田形文、田形文隆帯 地文、矢羽状形洗線 乃至刺突文	—	—	—	—	—	粗砂	良好
129	C g b 68	I	深鉢 (縦・口)	II a ㊦	3.5Y R 5/10 黄	*	—	—	3.5Y R 5/10 浅黄緑	*	—	—	—	—	—	—	粗砂	不良
130	C g b 59	I	深鉢 (縦・口)	Vb ㊦	3.5Y R 5/10 黄	*	—	—	3.5Y R 5/10 浅黄緑	平縁 ミガキ	清文(隆・洗線) 地文不明	—	—	—	—	—	粗砂	不良
131	C g b 65	I	深鉢 (縦・口)	Vb ㊦	3.5Y R 5/10 浅黄緑	ミガキ	—	—	5 Y R 5/10 黄	*	突起、ブロンコ状 溝巻文(隆・洗線)	—	—	—	—	—	—	—
140	C g b 71	I	深鉢 (縦・口)	III c ㊦	5 Y R 5/10 黄	ミガキ	—	—	5 Y R 5/10 黄	ミガキ 隆縁孔	—	—	—	—	—	—	—	良好
146	C g b 62	I	深鉢 (縦・口)	III b ㊦	3.5Y R 5/10 浅黄緑	ミガキ、クラック	—	—	3.5Y R 5/10 浅黄緑	ミガキ	—	—	—	—	—	—	—	不良
152	C g b 71	I	深鉢 (縦・口)	Vb ㊦	3.5Y R 5/10 黄	ミガキ	—	—	3.5Y R 5/10 浅黄緑	平縁 ミガキ	清文・長横田形文(隆・洗線) 地文刺突文	—	—	—	—	—	粗砂	良好
45	C d 68	II M	深鉢 (縦・口)	I a 1 ㊦	3.5Y R 5/10 黄	ミガキ 剥落	—	—	3.5Y R 5/10 浅黄緑	平縁 隆帯	ナデかミガキ	—	—	—	—	—	粗砂	不良
46	"	"	深鉢 (縦・口)	I a 1 ㊦	3.5Y R 5/10 浅黄緑	クラック	—	—	3.5Y R 5/10 黄	—	—	—	—	—	—	—	—	—
47	"	II	深鉢 (縦・口)	II a ㊦	3.5Y R 5/10 浅黄緑	—	—	—	—	平縁 隆帯	ナデかミガキ	—	—	—	—	—	—	—
67	C d 71	"	深鉢 (縦・口)	I a 1 ㊦	5 Y R 5/10 黄	ミガキ 剥落	—	—	5 Y R 5/10 黄	平縁 ミガキ	—	—	—	—	—	—	粗砂	良好
68	"	"	深鉢 (縦・口)	II a ㊦	5 Y R 5/10 黄	—	—	—	—	平縁 隆帯	—	—	—	—	—	—	—	不良
80	C e 62	II S	深鉢 (縦・口)	I d ㊦	3.5Y R 5/10 黄	—	—	—	3.5Y R 5/10 浅黄緑	—	—	—	—	—	—	—	粗砂	不良
83	C c 74	II	深鉢 (縦・口)	I a 2 ㊦	3.5Y R 5/10 浅黄緑	ミガキ 平縁	—	—	5 Y R 5/10 黄	平縁 ミガキ	—	—	—	—	—	—	粗砂	良好
84	C c 71	"	深鉢 (縦・口)	II a ㊦	3.5Y R 5/10 黄	ミガキ 剥落	—	—	3.5Y R 5/10 黄	—	—	—	—	—	—	—	—	—
90	C e 68	II S	深鉢 (縦・口)	I a 1 ㊦	5 Y R 5/10 黄	ミガキ 剥落	—	—	5 Y R 5/10 黄	平縁 ミガキ	ナデかナデ	—	—	—	—	—	粗砂	良好



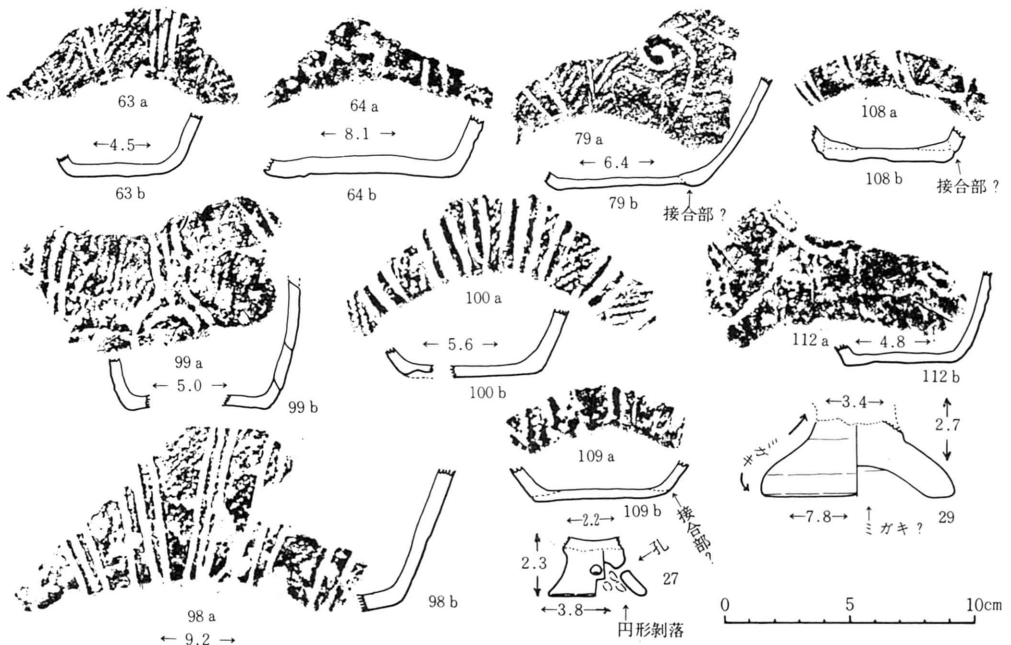
第83図 Cブロック(東半部)出土土器拓影図(4) (Ⅲ層上部出土)

No.	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	焼成			
					色	質	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁					
41	C g h 65	II	深鉢(口)	Ⅴb◎	10Y R 5/12-15黄褐色	ミガキ	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	粗砂あり	不良
53	"	"	"	Ⅴb◎	5Y R 5/6	ミガキ	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	粗砂	良好
54	"	"	"	Ⅴb◎	7.5Y R 5/6黄褐色	剥落	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	"	不良
55	"	"	"	"	7.5Y R 5/6灰褐色	ミガキ	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	"	良好
56	"	"	"	"	7.5Y R 5/6黄褐色	ミガキ	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	"	"
57	"	"	"	"	"	剥落	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	"	"
92	"	"	"	Ⅴb◎	10Y R 5/12-15黄褐色	ミガキ	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	"	"
115	"	II S	"	Ⅴb◎	5Y R 5/12-15黄褐色	ミガキ	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	"	"
118	"	"	"	"	7.5Y R 5/6	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	"	"
125	C g h 65	"	"	Ⅴb◎	7.5Y R 5/6灰褐色	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	"	"
126	C g h 59	II	深鉢(口)	Ⅴa◎	7.5Y R 5/12-15黄褐色	ミガキ、クラック	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	粗砂あり	良好
127	C g h 65	I	"	Ⅴb◎	7.5Y R 5/12-15黄褐色	ミガキ、剥落	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	粗砂	不良
140	C g 71	II S	"	II a◎	7.5Y R 5/6	ミガキ	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	"	"
150	C g h 62	I	"	"	7.5Y R 5/12-15黄褐色	"	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	"	"
151	C g h 71	II S	"	Ⅴb◎	7.5Y R 5/12-15黄褐色	剥落	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	"	不良



第84図 Cブロック(東半部)出土土器拓影図(5) (III層上部出土)

No	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	焼成					
					色	調	口	縁	口	縁	体	底			色	調	口	縁	体
58	C f 71	II	深鉢 (縦・突起)	Ⅴア	73Y R 5/6 浅黄褐色	シガキ 剥落	—	—	73Y R 5/6	突起、有孔 凹縁、シガキ	—	—	—	—	—	—	—	粗砂	良好
59	"	"	"	Ⅴ①	"	"	—	—	"	突起、溝巻文 凹縁、シガキ	—	—	—	—	—	—	"	不良	
65	C e 465	"	"	Ⅴ①	73Y R 5/6 浅黄褐色	シガキ 剥落	—	—	5Y R 5/6 黄	凹縁、シガキ	—	—	—	—	—	—	—	粗砂	良好
71	"	"	"	Ⅴ①	73Y R 5/6 浅黄褐色	シガキ 剥落	—	—	73Y R 5/6	—	—	—	—	—	—	—	—	粗砂	良好
72	"	"	"	Ⅴ①	73Y R 5/6 浅黄褐色	"	—	—	73Y R 5/6 黄褐色	平縁、 シガキ	凹形文、長横凹形文 隆帯、地文刺突文	—	—	—	—	—	—	粗砂	不良
81	C f 71	"	"	Ⅴ①	73Y R 5/6 浅黄褐色	シガキ 剥落	—	—	10Y R 5/6 黄褐色	大突起、溝文 凹縁	—	—	—	—	—	—	—	粗砂	不良
82	"	"	"	Ⅴ①	73Y R 5/6 浅黄褐色	"	—	—	73Y R 5/6	"	—	—	—	—	—	—	—	粗砂	不良
87	C e 74	II	"	Ⅴ①	10Y R 5/6 黄褐色	シガキ 剥落	—	—	10Y R 5/6	平縁 シガキ	長横凹形文、隆帯 地文刺突文 2段	—	—	—	—	—	—	粗砂	不良
95	"	II S	"	Ⅴ①	5Y R 5/6 黄	シガキ 剥落	—	—	73Y R 5/6 浅黄褐色	縦溝状 凹縁	—	—	—	—	—	—	—	"	良好
102	"	"	"	Ⅴ①	73Y R 5/6 浅黄褐色	シガキ 剥落	—	—	73Y R 5/6 浅黄褐色	大突起、凹縁 溝巻文	—	—	—	—	—	—	—	粗砂	良好
118	C e f 65	II S	深鉢 (縦・口)	Ⅴ①	73Y R 5/6 浅黄褐色	シガキ 剥落	—	—	73Y R 5/6 浅黄褐色	突起、溝状文 シガキ	隆帯文	—	—	—	—	—	—	粗砂	不良
119	C e f 71	II	"	Ⅴ①	73Y R 5/6 浅黄褐色	シガキ 剥落	—	—	73Y R 5/6 浅黄褐色	突起、凹縁 入念	—	—	—	—	—	—	—	"	良好
129	C g h 68	II	"	Ⅴ①	73Y R 5/6 浅黄褐色	"	—	—	73Y R 5/6 底縁に 73Y R 5/6 黄褐色 凹縁	突起、溝文	—	—	—	—	—	—	—	粗砂	不良



第87図 Cブロック(東半部)出土土器実測図・拓影図(8) (Ⅲ層上部出土)

No	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	焼成		
					色調	口縁	口縁	体	底	色調	口縁	口縁			体	上平
27	C e f 65	II	右文は蓋	皿 d ㉔	7.5Y R 5/1 に近い橙胎土 7.5Y R 5/1 弱地味	ミガキ乃至ナナツケ	円形剥落			7.5Y R 5/1	ナナツケがミガキ				粗砂	良好
29	C e f 65	III	右	"	10Y R 弱黄褐色胎土同一	ミガキかなナデ	風化激し			同左	穿孔2				粗砂	脆弱
63	"	"	深鉢	皿 b ㉔	5 Y R 弱地味	ミガキ?	剥落			5 Y R 弱地味						不具
64	"	"	(")	"	10Y R 弱黄褐色	ミガキかなナデ	剥落			7.5Y R 弱黄褐色						"
79	"	"	(")	皿 c ㉔	7.5Y R 弱黄褐色	ミガキ	平滑			7.5Y R 弱						"
98	"	II S	(")	皿 b ㉔	5 Y R 弱地味	ミガキかなナデ?				7.5Y R 弱黄褐色						良好
99	"	"	(")	皿 c ㉔	7.5Y R 弱地味	ミガキ?	剥落			7.5Y R 弱地味						"
100	C e 68	II S	深鉢	皿 c ㉔	7.5Y R 弱地味	ミガキ	入念			5 Y R 弱に近い橙						粗砂
109	"	II U	(")	皿 c ㉔	5 Y R 弱に近い橙					5 Y R 弱に近い橙						精良
112	C e f 71	II	(")	皿 c ㉔	7.5Y R 弱地味					5 Y R 弱地味						"

Dブロックは遺物の出土量ももっとも多い。しかも小型品を中心に、完全土器・復元可能土器も比較的多い。それらが非常に近接して発見される場合もあり、何らかの遺構の存在も想定されたが、確認はできなかった。中・小型品のそのような出土状況（正立位は少なく、横転位が多い）は、廃棄時の何らかの意図性の反映があるとも思われる。したがって既にのべた「傾向性の欠如」なる表現は、やや断定的にすぎたきらいもある。このような可能性を内包したものであることを強調しておく。



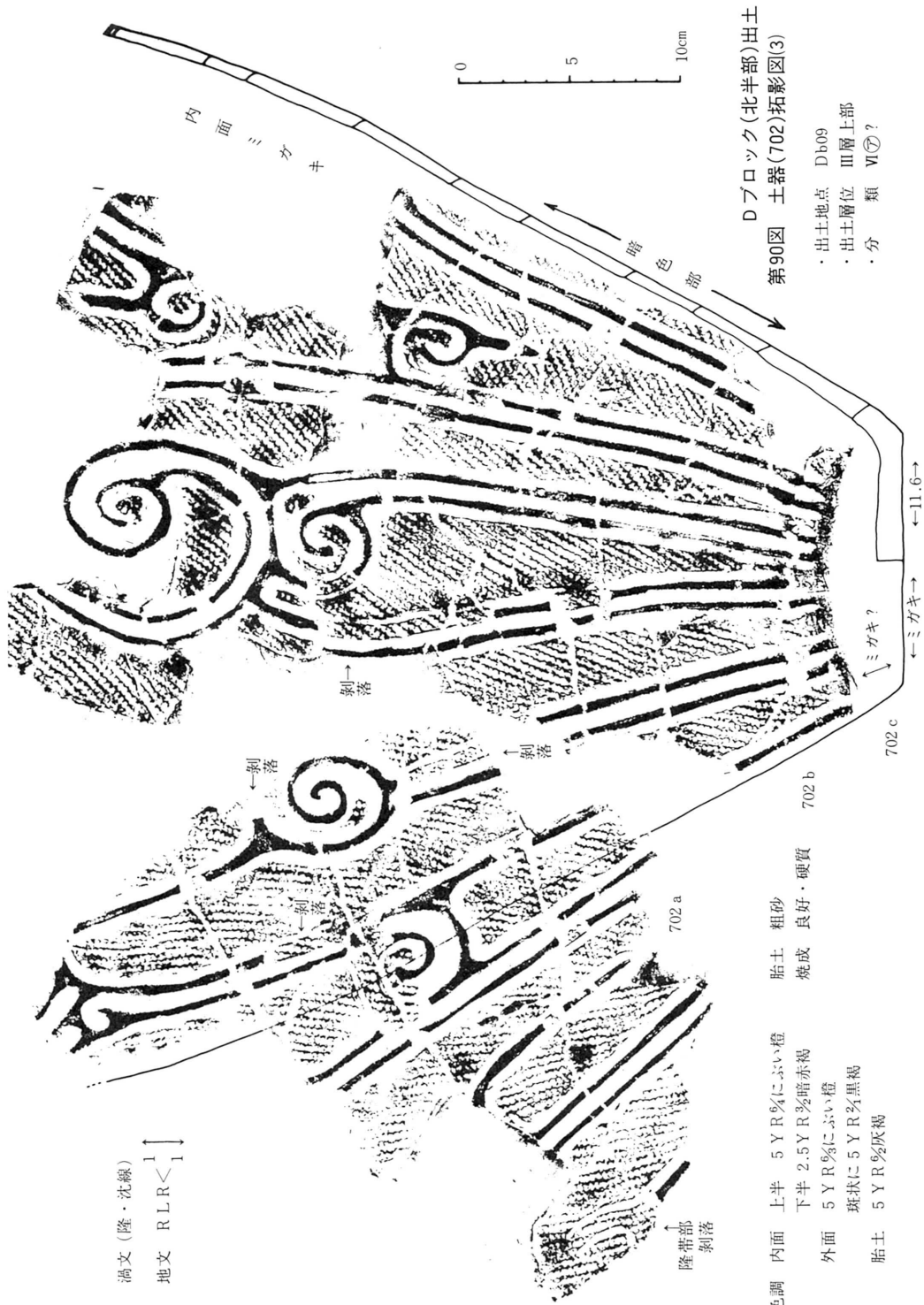
第88図 Dブロック(北半部)出土土器拓影図(1) (I層出土土器) (210のみ東半部・III層中下部)

No.	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	装成				
					色	調	口縁	口内	底	色	調	口縁			口内	体上半	体下半	底
161	D b c 12	I	深鉢 (破・口)	I a 1 ㊦	5 Y R 5 黄橙	ミガキ、クラック	—	10 Y R 5 黄橙	平縁、ミガキ 端部のみ外反	—	—	—	—	—	—	精良	やや 軟	
166	D a b 09	I	" (破・口)	II a ㊦	7.5 Y R 5 黄橙	ミガキ、剝落	—	同左	口縁のみ7.5 Y R 5 黄橙 ミガキ	—	—	—	—	—	—	粗砂	不良	
174	D b c 18	I	深鉢 (#)	II a ㊦	10 Y R 5 黄橙	ミガキ、クラック	—	7.5 Y R 5 黄橙	"	—	—	—	—	—	—	粗砂	不良	
174	D b c 12	I	" (#)	III b ㊦	5 Y R 5 黄橙	ミガキ入念	—	同左	縁破状 下縁隆帯・ミガキ	—	—	—	—	—	—	小石	不良 脆弱	
175	D a b 09	I	深鉢 (破・口)	V a ㊦	7.5 Y R 5 黄橙	入念ミガキ	—	同左	ミガキ、内縁 縁破状	—	—	—	—	—	—	粗砂	良好	
194	D b c 12	I	深鉢 (破・口)	VII b ㊦	5 Y R 5 黄橙	ミガキ剝落	—	5 Y R 5 黄橙	内縁 ミガキ	—	—	—	—	—	—	小石	良好	
207	D a b 09	I	深鉢 (破・体)		7.5 Y R 5 黄橙	— — 剝落	—	同左	—	—	—	—	—	—	—	—	砂粒	良好
210	D b 56	III	深鉢 (破・体—底)	㊦	7.5 Y R 5 黄橙	— — ミガキ、クラック	—	同左	—	—	—	—	—	—	—	—	粗砂	不良
220	"	I	深鉢 (破・口)	I d 3 ㊦	5 Y R 5 明赤褐	ミガキ、剝落	—	同左	"	—	—	—	—	—	—	—	粗砂	不良
222	D d e 12	I	" (#)	II a ㊦	2.5 Y R 5 赤褐	ミガキ痕顕著	—	2.5 Y R 5 赤灰	平縁 隆帯、ミガキ	—	—	—	—	—	—	—	粗砂	良好
225	D d e 12	I	" (#)	II b ㊦	7.5 Y R 5 黄橙	ミガキ、クラック剝落	—	同左	平縁、凹点列1 ナブかミガキ	—	—	—	—	—	—	—	粗砂	不良
228	D d e 18	"	" (#)	III c ㊦	7.5 Y R 5 黄橙	ミガキ、クラック	—	7.5 Y R 5 黄橙 紫色して7.5 Y R 5 褐灰	縁破状 ミガキ 隆帯	—	—	—	—	—	—	—	"	"
274	"	I	深鉢 (破・体)	III b ㊦	10 Y R 5 黄橙	— — ミガキ	—	7.5 Y R 5 褐灰	—	—	—	—	—	—	—	—	粗砂	良好



第89図 Dブロック(北半部)出土土器拓影図(2) (Ⅲ層上部出土)

No.	地点	層位	種別	分類	西				外				胎土	焼成		
					色	調	口縁	口内	体	底	色	調			口縁	口内
16	D b 09	Ⅱ	深鉢 (縦・口)	V × ⊙	13Y R 5/6 灰褐色	大念ミガキ	---	13Y R 5/6 に近い褐色	ミガキ、内縁縦流紋	---	---	---	---	---	粗砂	良好
17	"	"	"	"	5 Y R 5/6 灰褐色	"	---	同左	小突起? ミガキ、陸帯	---	---	---	---	---	粗砂	不良
18	D b c 21	Ⅱ	"	"	13Y R 5/6 灰褐色	ミガキ、クラック多し	---	5 Y R 5/6 褐色	大突起、溝文	---	---	---	---	---	粗砂	不良
15	D d 06	Ⅱ	"	V ⊙	5 Y R 5/6 灰褐色	ミガキ	---	5 Y R 5/6 に近い褐色	大突起、溝文	---	---	---	---	---	粗砂	良好
18	D b c 18	Ⅱ	"	V × ⊙	5 Y R 5/6 に近い褐色	ミガキ、剥落	---	同左	縦流紋	---	---	---	---	---	小石	良好
19	D b c 09	Ⅱ	"	V b ⊙	5 Y R 5/6 灰褐色	ミガキ	---	同左	下部は 5 Y R 5/6 褐色	---	---	---	---	---	小石	良好
20	D b c 18	Ⅱ	"	V a ⊙	13Y R 5/6 灰褐色	ミガキ	---	13Y R 5/6 灰褐色	溝文、粘土紐貼付の痕跡	---	---	---	---	---	粗砂	不良
27	D d e 12	Ⅱ	"	⊙	5 Y R 5/6 明赤褐色	大念ミガキ	---	13Y R 5/6 に近い褐色	外反、ミガキ	---	---	---	---	---	粗砂	不良
28	D d e 12	Ⅱ	"	⊙	13Y R 5/6 に近い褐色	大念ミガキ	---	13Y R 5/6 灰褐色	縦流紋	---	---	---	---	---	小石	良好
30	D d e 12	Ⅱ	"	⊙	13Y R 5/6 に近い褐色	---	---	---	ミガキ、陸帯	---	---	---	---	---	粗砂	不良
24	"	"	"	"	10Y R 5/6 灰褐色	---	---	---	---	---	---	---	---	---	粗砂	良好
36	D b c 15	Ⅱ	"	⊙	13Y R 5/6 明赤褐色	大念ミガキ	---	13Y R 5/6 明赤褐色	縦流紋	---	---	---	---	---	粗砂	良好
28	"	"	"	"	13Y R 5/6 に近い褐色	大念ミガキ、剥落	---	13Y R 5/6 灰褐色	ミガキ、陸帯	---	---	---	---	---	粗砂	不良
32	"	"	"	"	5 Y R 5/6 に近い褐色	大念ミガキ	---	同左	突起、凹線ミガキ	---	---	---	---	---	粗砂	良好
22	"	"	"	"	13Y R 5/6 に近い褐色	ミガキ、平溝	---	同左	ミガキ、陸帯	---	---	---	---	---	粗砂	良好
19	D b c 15	Ⅱ	"	⊙	13Y R 5/6 に近い褐色	ミガキ、クラック	---	10Y R 5/6 灰褐色	平縁、ミガキ	---	---	---	---	---	粗砂	良好
20	D d e 12	Ⅱ	"	⊙	10Y R 5/6 明赤褐色	ミガキ、剥落	---	10Y R 5/6 に近い褐色	陸帯、ミガキ	---	---	---	---	---	粗砂	良好



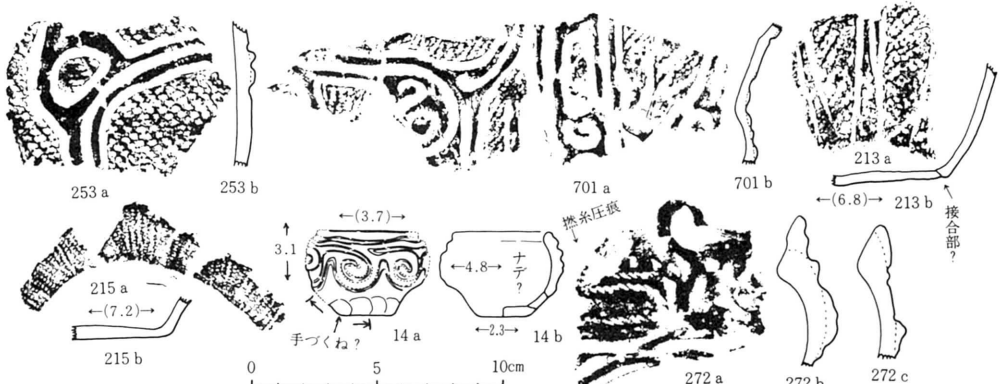
Dブロック(北半部)出土
第90図 土器(702)拓影図(3)

- ・ 出土地点 Db09
- ・ 出土層位 III層上部
- ・ 分類 VI㉞?

渦文(隆・沈線)
地文 RLR$\frac{1}{1}$

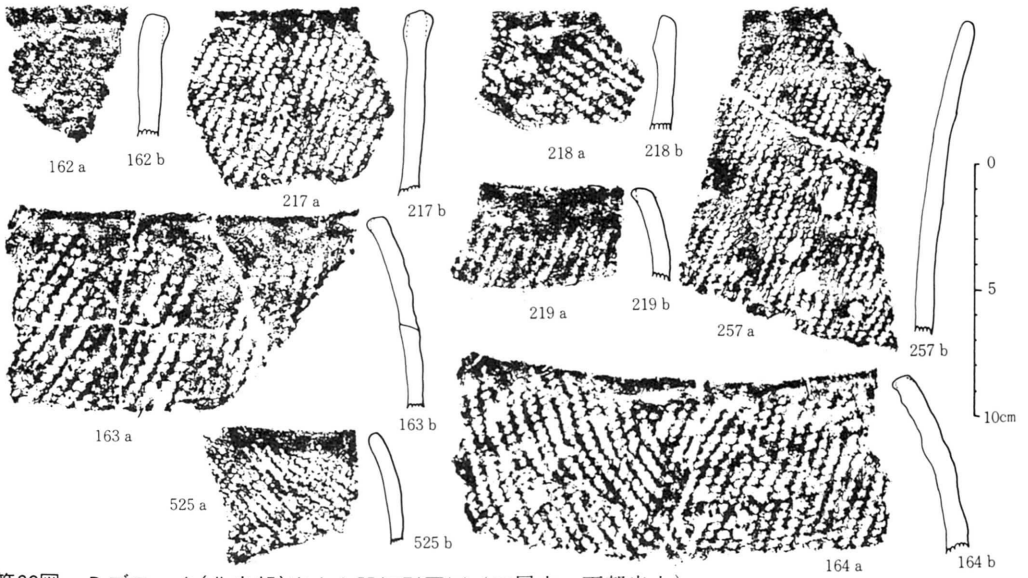
色調 内面 上半 5 Y R % 4 にふい橙
 下半 2.5 Y R % 暗赤褐
 外面 5 Y R % にふい橙
 斑状に 5 Y R % 灰黒褐
 胎土 5 Y R % 灰褐

胎土 粗砂
 焼成 良好・硬質



第91図 Dブロック(北半部)出土土器実測図・拓影図(4) (Ⅲ層上部出土) (突起部)

No	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	焼成		
					色調	口縁	口頸	体	底	色調	口縁	口頸			体	上半
14	D d 12	II	浅鉢? (完・覆鉢)	確②	5 Y R 灰褐色 胎土 5 Y R 灰褐色	全面ナデツク?				10 Y R 灰黄褐色 胎土 10 Y R 灰褐色	平縁、内傾 ミガキ 朱彩?	隆帯による溝文	ミガキ 無文 襷は剥落	同左	精良	良好
113	D d e 12	II	深鉢 (碗・体・底)	②	7.5 Y R 灰褐色 上半は 7.5 Y R 灰褐色	—	—	ミガキ剥落		7.5 Y R 灰褐色	—	—	溝文(沈線?) 地文 R L < 1 ↓	ミガキ クラック	粗砂	不良
115	D b c 21	II	"	②	10 Y R 灰黄褐色	—	—	ミガキ		10 Y R 灰に濃い黄褐色	—	—	不明地文のみ?	"	粗砂	良好
23	D d e 12	II	深鉢 (碗・体)		7.5 Y R 灰褐色	—	—	入念ミガキ		同左	—	—	溝文(隆・沈線) 地文 L R L R < 1 ↓		粗砂	良好
77	D b c 15	II	深鉢 (碗・口)	X 田③	5 Y R 灰黄褐色	—	—	ミガキ剥落		7.5 Y R 灰黄褐色 部分的に 7.5 Y R 灰褐色	突起ミガキ	長横四形文、隆帯 地文捺糸圧痕文	—	—	粗砂	良好
79	D b c 15	II	深鉢 (碗・口)	III c ④	7.5 Y R 灰に濃い黄褐色	—	—	ミガキ剥落		5 Y R 灰明赤褐色	—	—	溝文(隆・沈線) 地文 R L < 1 ↓		精良	良好



第92図 Dブロック(北半部)出土土器拓影図(5) (Ⅲ層中・下部出土)

No	地点	層位	種別	分類	内面				外面				胎土	焼成	
					色調	口縁	口頸	体	底	色調	口縁	口頸			体
162	D b c 12	III	深鉢 (碗・口)	I a 1 ①	10 Y R 灰黄褐色	—	—	ミガキ、剥落		同左	平縁、外反 ミガキ	地文のみ R L < 1 ↓	—	粗砂	不良
163	D d e 06	"	"	I a 3 ②	10 Y R 灰黄褐色	—	—	ミガキ、剥落		7.5 Y R 灰黄褐色	平縁、ミガキ	地文のみ R L R < 1 ↓	—	粗砂	不良
164	D b 09	"	"	"	7.5 Y R 灰黄褐色	—	—	"		同左	—	地文のみ R L R < 1 ↓	—	"	良好
217	D d e 12	III	深鉢 (碗・口)	I a 1 ①	10 Y R 灰に濃い黄褐色	—	—	入念ミガキ ややクラック		10 Y R 灰黄褐色	平縁、ミガキ 端部のみやや外反	地文のみ R L < 1 ↓	—	粗砂やある ものは精良	良好
218	D d e 18	III(1)	"	"	10 Y R 灰黒褐色	—	—	ミガキ、クラック		10 Y R 灰に濃い黄褐色	"	地文のみ R L R < 1 ↓	—	粗砂あり粗	不良
219	"	"	"	"	10 Y R 灰黄褐色	—	—	"		同左	平縁、ミガキ	地文のみ R L < 1 ↓	—	"	"
257	D b c 15	"	"	I a 2 ②	5 Y R 灰黄褐色	—	—	入念ミガキ、剥落		7.5 Y R 灰に濃い黄褐色 紫色部は 7.5 Y R 灰褐色 使用痕?	平縁、ミガキ	地文のみ R L R < 1 ↓	—	小石	硬質
258	D d e 09	III(1)	深鉢 (碗・口)	I a 3 ③	7.5 Y R 灰に濃い黄褐色 胎土 7.5 Y R 灰褐色	—	—	ミガキ、剥落		5 Y R 灰褐色 上端部 5 Y R 灰褐色	平縁、ミガキ	地文のみ L R < 1 ↓	—	粗砂多く粗	良好